

2020 2021
令和2年度～令和3年度

酒田市美術館年報

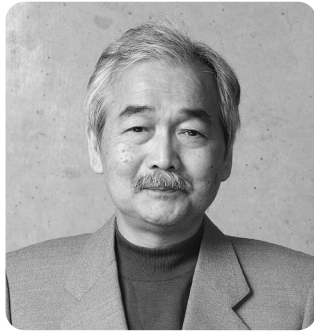
Sakata City Museum of Art

2020 2021
令和2年度～令和3年度

酒田市美術館年報

Sakata City Museum of Art

酒田市美術館



より親しまれる 美術館を目指して

酒田市美術館 館長 石川 好

酒田市美術館は、平成9年に開館して以来市民の皆様により優れた美術展を提供し、日常生活において喜び、安らぎを享受していただけるよう努めてまいりました。そして、平成27年7月、入館者はついに100万人の大台を突破するに至りました。

これまで当館に賜りました酒田市をはじめとする多くの方々のご支援に、心から感謝申し上げます。

このたび、令和2年度～3年度までの事業活動をまとめた年報を刊行いたします。これにより、当館がどのような事業体であり、これまでどう役割を果たしてきたか、ご理解いただけるものと思います。

各年度の展覧会活動は、常設展として酒田市で所蔵する高橋剛氏・斎藤長三氏・佐藤昌祐氏の作品、そして平成24年に寄贈された國領経郎氏の作品、並びに本財団名誉理事長 新田嘉一氏・岸田隆氏のコレクションを中心に、酒田市ゆかりの作家等の作品を、また特別企画展として年6回、国内外の著名作家の手になる高い芸術性をもつ作品を紹介してまいりました。その根底にあるのは、市民に親しまれる市民のための美術館という理念、そして、芸術表現の多様性と感動を市民に伝える、この一点に尽きます。

また、市民ギャラリーでは市民の創作活動の発表、教育普及活動では講演会、作品解説会、子どもを対象としたワークショップや絵画展などを毎年開催し、ここに多くの市民が参加していることは、ご承知のとおりです。

このような当館の活動状況を取りまとめた年報をご高覧いただき、なお、ご指導ご助言を賜りたく存じます。

今後とも市民の皆様とともに芸術文化を振興していく施設を目指し、当館の諸活動を充実させる所存であります。次なる目標は200万人目の入館者を迎えることです。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

基本理念

酒田市美術館は、市の南西部、飯森山地区の小高い丘陵地に広がる約3万1千平方メートルの広大な敷地に、酒田市の芸術文化振興の一翼を担う施設として建設されました。

酒田市の教育文化ゾーンであるこの地には、東北公益文学科大学、土門拳記念館、国体記念体育館、出羽遊心館があり、多くの方々が集い親しんでおります。

本美術館の基本コンセプトは、大きく三つに分けることができます。

第一には、酒田市のみならず庄内地域全体の美術館として、文化勲章を受章された洋画家の森田茂の作品、郷土出身の彫刻家 高橋剛、洋画家 斎藤長三、佐藤昌祐や國領経郎の作品など、酒田市が所蔵する多くの美術作品を良好な環境のもとで収蔵するとともに、日本の近・現代作品や本市にゆかりの深い芸術家の作品を収集していくことです。

第二には、上記の作家らによる作品を中心とした収蔵品の常設展示と、年6回の特別展示を開催し、地方においても国内外の優れた美術品に接する機会を提供していくことです。加えて、市民の旺盛な創作活動の成果を発表する場として、市民ギャラリーの活用を図ることです。

第三は、ワークショップやギャラリートークの開催、また、ミュージアムコンサートなどの教育普及活動を推進することであり、これらのコンセプトに基づき、将来にわたり本市の芸術文化の向上に寄与し、市民の生活に喜びと潤いの機会を提供することを目的にしています。

美術館の設計は、周囲の自然環境と建築の調和を特徴とし、日本芸術院会員の建築家 池原義郎氏の手によるものです。

最上川、酒田市街、烏海山、そして遠く出羽三山を一望できる美術館は、市民の憩いの場として愛され、親しまれています。

目次 CONTENTS

はじめに	02
より親しまれる美術館を目指して	
基本理念	03

2020 令和2年度

1. 展覧会事業	06
(1) 企画展示	
生誕100年 國領経郎展 —静寂なる砂の景—	
酒田市美術館収蔵品展 生誕110年 斎藤長三展	
高砂淳二写真展 —Dear Earth— 二つの東海道五拾三次 歌川広重展	
オードリー・ヘプバーン写真展 いわさきちひろ ピエゾグラフィ展	
(2) 連携企画	
サカタアートマルシェ 「いいいろいろ展」	
(3) 常設展示	
2. 教育普及事業	18
ワークショップ	
ギャラリートーク	
その他企画	
3. 市民ギャラリー利用状況	19
4. 入館状況	20

2021 令和3年度

1. 展覧会事業	21
(1) 企画展示	
アンティークドールの夢展 —児玉幸雄コレクション—	
酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展	
つくる展 —TASKOファクトリーのひらめきをかたち— 魔女がやってきた 角野栄子展	
第76回県美展酒田巡回展・ 第63回こども県展	
令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス—画家たちの交差点—	
(2) 連携企画	
サカタアートマルシェ 「佐藤タカヒロ漫画原画展 ～デビュー作品からバチバチシリーズ 『鮫島、最後の十五日』まで～」	
サカタアートマルシェ 「いいいろいろ展」	
(3) 常設展示	

2. 教育普及事業	38
ワークショップ	
ギャラリートーク	
その他企画	
スクールプログラム	
3. 市民ギャラリー利用状況	41
4. 入館状況	42

展覧会ポスター	43
令和2年度 特別展	44
令和2年度 収蔵品展	45
令和3年度 特別展	46
令和3年度 収蔵品展	47
学芸員研究紀要	49
國領経郎の制作過程を探って	
学芸員 武内 治子	50
庄内の画家たちと	
池袋モンパルナスの繋がり	
学芸主任 武内 治子	52
参考資料	55
沿革	56
施設概要	57
各室別面積表	58
組織・職員	59
特別企画展一覧	60
年度別入館状況	65
利用案内	66

生誕100年 國領經郎展 — 静寂なる砂の景 —

会 期/令和2年3月7日(土)~4月12日(日)
 ※4月8日(水)より新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言により臨時休館
 主 催/公益財団法人酒田市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
 共 催/酒田市・酒田市教育委員会
 協 賛/ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
 特別協力/横浜美術館、國領經郎顕彰会
 担 当/学芸員 武内 治子
 入場者数/1,669人

◎展覧会趣旨

洋画家・國領經郎(こくりょう・つねろう 1919年~1999年)は、日本芸術院会員で日展を中心に活躍し、砂丘や砂浜を舞台とした情感豊かな絵画作品を数多く描いたことで知られています。

「砂丘」は、國領がかつて「むきだしの自然」と語ったように、訪れた人々の詩的感覚や人生観を揺さぶり、孤独な瞑想の時へと導いていくような、自然に由来する神秘的な力を混えた場所です。砂丘に魅了された國領は、鳥取県鳥取市の鳥取砂丘や酒田市の庄内砂丘、神奈川県茅ヶ崎市の砂浜など日本各地の砂丘地や砂浜への取材を重ね、砂丘の風景の中に、若者たちの群像、飛翔する鳥、水溜りなどのモチーフを描き、國領独特の作品世界を構築していきます。

本展は、生誕100年を記念し、出身地である横浜市横浜美術館と、鳥取県立博物館、そして酒田市美術館が収蔵する作品を中心に、初期から晩年までの油彩作品やスケッチ等の資料を含む約100点で國領の画業を振り返ります。國領がその生涯で表現しようとしたもの、砂のイメージに託そうとしていたものとは何かを探りました。

◎関連企画 ※コロナウイルス感染症対策により関連企画すべて中止

國領經郎展開会式

日時 3月7日(土) 午前10時~10時30分

片岡世喜氏によるギャラリートーク

日時 3月7日(土) 午前10時30分・午後2時
 会場 展示室
 講師 片岡世喜氏(日展会員、國領經郎顕彰会会長)

学芸員によるギャラリートーク

日時 3月20日(金・祝)、21日(土)、4月12日(日) 午後2時
 会場 展示室
 講師 当館学芸員

アートシアター「砂の女」

(1964年、原作・脚本：安部公房、監督：勅使河原宏、147分、DVD上映)

日時 3月20日(金・祝) 午後5時~7時30分
 会場 展示ホール



生誕100年
國領經郎展
 — 静寂なる砂の景 —
 2020年3月7日(土)~4月12日(日)

休 館 日: 3月8日は月曜休館日、4月からは無休
 時 間: 午前9時~午後5時(最終入館は午後4時30分)
 観 覧 料: 一般900円(800円)、大学・高校生450円(400円)、中学生以下無料
 ※16歳未満は保護者同伴
 ※お断りください: 土曜日でともなで1時間前でも閉館です(日本美術大入館)。
 ※16歳未満の入館料は、2020年3月31日をもって廃止となります。

主 催: 公益財団法人酒田市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
 共 催: 酒田市、酒田市教育委員会
 協 賛: ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
 特別協力: 横浜美術館、國領經郎顕彰会

酒田市美術館
 KOKURYO Tsunenō - Commemorating the 100th Anniversary of His Birth - The Quiet Scenery with Sand -

生誕100年
國領經郎展
 — 静寂なる砂の景 —

関連企画

開会式
 日時: 3月7日(土) 午前10時~10時30分
 会場: 展示室
 講師: 片岡世喜氏(日展会員、國領經郎顕彰会会長)

片岡世喜氏によるギャラリートーク
 日時: 3月7日(土) 午前10時30分・午後2時
 会場: 展示室
 講師: 片岡世喜氏(日展会員、國領經郎顕彰会会長)

学芸員によるギャラリートーク
 日時: 3月20日(金・祝)、21日(土)、4月12日(日) 午後2時
 会場: 展示室
 講師: 当館学芸員

アートシアター「砂の女」
 (1964年、原作・脚本：安部公房、監督：勅使河原宏、147分、DVD上映)
 日時: 3月20日(金・祝) 午後5時~7時30分
 会場: 展示ホール

美術講座「國領經郎のヒミツを探る」
 日時: 3月29日(日) 午後1時30分~2時30分
 会場: ミーティングルーム
 講師: 当館学芸員

酒田市美術館
 〒998-0055 山形県酒田市新山三丁目1番地の95
 TEL.0234-31-0095 FAX.0234-31-0094
 http://www.saka-art-museum.jp/

生誕100年 國領經郎展 — 静寂なる砂の景 — 作品リスト

■ 第一展示室

第1章 初期の仕事					酒田展のみ展示
1	風	1981年	油彩、カンヴァス	130.5×193.5	愛知県美術館
2	白い蔵(上大岡)	1937年	油彩、カンヴァス	53.0×41.0	酒田市美術館
3	山手風景	1937年	油彩、カンヴァス	51.0×64.8	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)
4	自画像	1940年	油彩、カンヴァス	53.0×45.5	酒田市美術館
5	枇杷(仮題)	1939年	墨、岩絵具、紙	44.2×65.5	個人蔵
6	花菖蒲(仮題)	1939年	墨、岩絵具、紙	63.1×43.3	個人蔵
7	東中野風景	1940年	油彩、カンヴァス	53.2×65.4	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)
8	背戸(柏崎)(せど・かしわざき)	1946年	油彩、カンヴァス	41.0×53.3	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)
9	中国風俗図(仮題)	1951年頃	墨、岩絵具、紙	58.3×142.8	個人蔵
10	女の肖像(仮題)	1949年	鉛筆、紙	29.2×25.0	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
11	画室	1951年	油彩、カンヴァス	91.0×65.5	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)
12	絵のある坐像	1953年	油彩、カンヴァス	130.5×97.5	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
13	青海川駅にて袖ヶ浦を望む	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
14	市内スケッチ、郵便本局附近	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
15	柏崎の浜より米山を望む	1948年	鉛筆、水彩、紙	9.1×14.2	個人蔵
16	海岸風景 出航前	1948年	鉛筆、水彩、紙	9.2×14.3	個人蔵
17	柏崎の海岸	1948年	鉛筆、水彩、紙	9.3×14.2	個人蔵
18	本町通り中心街	1948年	インク、水彩、紙	9.3×14.2	個人蔵
19	マーケット風景	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
20	岬館	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
21	岬より柏崎を望む	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.1	個人蔵
22	岬館より第六港	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
23	宿の奥座敷より	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
24	宿前より見た本町通り	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.1	個人蔵
25	商店街裏	1948年	インク、水彩、紙	9.3×14.1	個人蔵
26	日石工場	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.0	個人蔵
27	テニスコート	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
28	貯水池	1948年	インク、水彩、紙	9.3×14.3	個人蔵
29	大杉さんのお宅より見た海	1948年	インク、鉛筆、水彩、紙	9.0×14.2	個人蔵
30	大杉さんの窓より	1948年	鉛筆、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
31	水源地	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
32	駅前通り	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
33	鶴川	1948年	インク、鉛筆、水彩、紙	9.2×14.2	個人蔵
34	柏崎駅	1948年	インク、水彩、紙	9.2×14.3	個人蔵
35	柏崎高等学校玄関	1948年	インク、水彩、紙	14.2×9.3	個人蔵
36	貯水池	1948年	インク、水彩、紙	14.2×9.3	個人蔵
37	総合公認グランド風景	1948年	インク、水彩、紙	14.2×9.3	個人蔵
第2章 点描の表現					酒田展のみ展示
38	赤い服のA子	1954年	油彩、カンヴァス	145.0×112.0	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)
39	布のある椅子に座る裸婦(仮題)	1940年	鉛筆、紙	36.0×27.5	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
40	東京の海	1957年	油彩、カンヴァス	65.1×130.3	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
41	《港の風景》のための習作	1958年頃	クレヨン、紙	31.8×40.7	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
42	港の風景	1958年	油彩、カンヴァス	65.2×90.9	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)
43	船二隻(仮題)	不詳	鉛筆、紙	31.6×40.9	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
44	空港への路	1958年	油彩、カンヴァス	97.0×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)
45	浅瀬船建造中(しゅんせつせんけんそうちゅう)	1959年	油彩、カンヴァス	97.0×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)
46	浅着駅	1961年	油彩、カンヴァス	89.4×130.3	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
47	船のある風景	1962年	油彩、カンヴァス	112.1×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)
48	埠頭の工場	1964年	油彩、カンヴァス	91.0×116.7	酒田市美術館 ◎
49	外人墓地	1963年	油彩、カンヴァス	112.1×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)
50	高速道路	1964年	油彩、カンヴァス	112.0×162.0	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)
51	ヨットハーバー	1967年	油彩、カンヴァス	90.0×116.0	横浜美術館
52	砂上の風景	1969年	油彩、カンヴァス	130.3×162.1	横浜美術館(國領經郎氏寄贈)

■ エントランス

53	椅子に座る男(仮題)	1936年頃	鉛筆、紙	28.0×23.0	個人蔵
54	椿(仮題)	不詳	鉛筆、紙	39.7×27.5	個人蔵
55	《干潮》のためのスケッチ	1955年頃	鉛筆、紙	24.9×35.0	個人蔵
56	《飛行場風景》のためのスケッチ	1954年頃	鉛筆、紙	24.3×35.2	個人蔵
57	弓ヶ浜(鳥取)	1972年	鉛筆、紙	22.7×37.8	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
58	材木のある砂丘(仮題)	1973年	鉛筆、紙	21.5×36.9	個人蔵
59	《電車の駅》のデッサン	不詳	鉛筆、紙	13.0×36.0	個人蔵 ◎
60	國領經郎オリジナルスケッチブック	不詳	紙	10.5×13.0	個人蔵 ◎
61	《静止の空間》の習作	1983年頃	鉛筆、紙	10.2×11.9	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
62	横たわる裸婦のスケッチ	不詳	鉛筆、紙	13.0×36.0	個人蔵 ◎
63	福良港	1970年	鉛筆、紙	24.1×32.8	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
64	船のスケッチ	不詳	鉛筆、紙	13.0×36.0	個人蔵 ◎
65	鳥三羽、萩にて(仮題)	不詳	鉛筆、紙	10.2×24.2	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
66	《鳥瞰》の習作	1977年頃	パステル、紙	38.7×53.0	個人蔵
67	港(仮題)	不詳	鉛筆、水彩、紙	23.2×32.1	個人蔵
68	横浜港(仮題)	1982年頃	鉛筆、水彩、紙	26.8×37.2	個人蔵
69	スコットランド、スカイ島風景	1982年	鉛筆、水彩、紙	23.2×26.2	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
70	壁彫リーフ《希望》の下絵	1984年頃	鉛筆、紙	53.0×73.3	個人蔵

■ 第二展示室

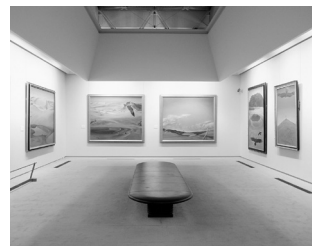
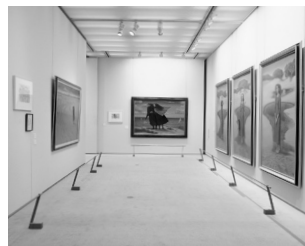
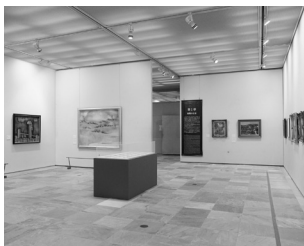
第3章 砂の景Ⅰ：群像表現を中心に					酒田展のみ展示
71	横臥する裸婦(仮題)	1987年頃	パステル、紙	37.4×55.2	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
72	横臥する着衣の女(仮題)	1987年頃	パステル、紙	37.5×55.3	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
73	裸婦座像(仮題)	不詳	パステル、紙	54.8×37.3	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
74	海浜の風景	1971年	油彩、カンヴァス	130.3×162.1	個人蔵
75	砂の上の群像	1974年	油彩、カンヴァス	130.3×162.1	京都国立近代美術館
76	女二人	1979年	リトグラフ	65.2×53.0	酒田市美術館 ◎
77	歩む男女(仮題)	1970年代	鉛筆、紙	24.7×33.6	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
78	遠い海	1977年	油彩、カンヴァス	112.5×145.5	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
79	真夏の空間	1977年	油彩、カンヴァス	110.1×72.7	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
80	《昼の月》の習作	1978年頃	鉛筆、紙	39.5×27.3	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
81	昼の月	1978年	油彩、カンヴァス	116.7×72.7	酒田市美術館
82	群像	1983年	ブロンズ	45.0×23.0×19.0	個人蔵
83	砂の峡 (すなのはざま)	1978年	油彩、カンヴァス	90.9×116.7	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
84	遙 (よう)	1980年	油彩、カンヴァス	90.0×116.7	横浜市民文化会館関内ホール
85	若ものたち	1980年	油彩、カンヴァス	130.5×194.0	横浜美術館
86	踞 (きょ)	1983年	油彩、カンヴァス	112.0×145.0	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
87	《海風の風景》の習作	1988年	鉛筆、水彩、紙	21.3×31.8	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
88	海風の風景	1988年	油彩、カンヴァス	129.0×192.0	横浜美術館
89	蕪(3部作「連」のうち)	1987年	油彩、カンヴァス	194.0×130.5	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
90	希(3部作「連」のうち)	1994年	油彩、カンヴァス	194.1×130.7	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
91	望(3部作「連」のうち)	1991年	油彩、カンヴァス	194.0×130.5	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
92	蕪 (わだち)	1982年	油彩、カンヴァス	129.0×192.0	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
93	《手・手・手》の習作	1993年頃	鉛筆、紙	27.1×39.6	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
94	《兆》の習作	1996年頃	鉛筆、紙	12.1×9.2	個人蔵
95	手・手・手 II (3部作「韻」のうち)	1996年	油彩、カンヴァス	162.3×194.3	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
96	兆(3部作「韻」のうち)	1996年	油彩、カンヴァス	162.1×112.3	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
97	手・手・手(3部作「韻」のうち)	1993年	油彩、カンヴァス	162.2×194.4	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
98	《暁色》のためのスケッチ	1985年頃	鉛筆、紙	30.0×40.0	酒田市美術館
99	暁色 (ぎょうしょく)	1986年	油彩、カンヴァス	145.0×112.5	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)
100	遙眺 (ようちょう)	1992年	油彩、カンヴァス	130.3×193.9	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
101	二つの溜水 (ふたつのたまりみず)	1992年	油彩、カンヴァス	130.3×193.9	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)

■ 第三展示室

102	巻貝(仮題)	不詳	鉛筆、紙	23.8×19.0	個人蔵
103	真昼の対話	1977年	油彩、カンヴァス	116.7×72.7	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈) ◎
104	鳥取砂丘	1975年	鉛筆、紙	19.7×31.8	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
105	浜村(鳥取)	1989年	鉛筆、紙	27.8×37.4	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
106	朽木の散る砂の丘	1993年	油彩、カンヴァス	130.3×193.9	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈) ◎
107	海風に携む (うみかぜにたわむ)	1995年	油彩、カンヴァス	128.5×192.7	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
108	潮溜 (しおだまり)	1996年	油彩、カンヴァス	162.3×194.4	酒田市美術館(國領昭子氏寄贈)
109	現々の景 (げんげんのけい)	1996年	油彩、カンヴァス	130.5×194.0	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
110	砂丘(仮題)	不詳	鉛筆、紙	26.8×36.6	個人蔵
111	《寥寥》のためのスケッチ	1996年	鉛筆、紙	26.1×38.5	個人蔵
112	船(仮題)	不詳	鉛筆、紙	19.4×30.5	個人蔵
113	砂の壁	1979年	油彩、カンヴァス	72.5×116.5	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)

■ 第四展示室

第4章 砂の景Ⅱ：人の消えた風景					
114	《寥寥》の習作	1996年頃	鉛筆、紙	36.1×51.0	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
115	潮溜(仮題)	不詳	鉛筆、紙	28.0×38.2	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
116	静止の空間	1983年	油彩、カンヴァス	130.3×193.0	横浜美術館
117	飛行船の浮ぶ港の風景	1993年	油彩、カンヴァス	162.3×194.0	横浜美術館(國領昭子氏寄贈)
118	悠	1994年	油彩、カンヴァス	162.3×194.4	酒田市美術館 ◎
119	悠々	1995年	油彩、カンヴァス	162.1×194.4	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
120	碧 (へき)	1994年	油彩、カンヴァス	162.0×194.0	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
121	社を映す溜水 (もりをうつすたまりみず)	1993年	油彩、カンヴァス	193.9×130.3	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
122	呼 (こ)	1997年	油彩、カンヴァス	145.5×97.0	酒田市美術館
123	薄ら陽の砂洲	1998年	油彩、カンヴァス	130.3×193.9	鳥取県立博物館(國領昭子氏寄贈)
124	海の風景(絶筆)	1999年	油彩、カンヴァス	90.9×116.7	酒田市美術館




酒田市美術館収蔵品展 生誕110年 斎藤長三展

会 期／令和2年5月18日(月)～7月12日(日)
 主 催／公益財団法人 酒田市美術館
 担 当／学芸員 武内 治子
 入場者数／1,005人

◎展覧会趣旨

斎藤長三は、1910年に酒田市漆曽根に生まれ、1929年に東京高等工芸学校工芸図案科に入学しました。在学中から1930年協会展や独立美術協会に入選し、卒業後、独立美術研究所にて里見勝蔵や福沢一郎から油彩画を学びました。山村や村落を生涯のテーマとし、描き続けた郷土作家・斎藤長三の生誕110年を記念し、その画業を振り返りました。





「山水曲堤」 1991年

酒田市美術館収蔵品展 I

生誕110年 斎藤長三展

会期：5月18日(月)～7月12日(日) 会期中
無休

時間：9:00～17:00(最終入館は16:30)

観覧料：一般700円、高校生350円、中学生以下無料

公益財団法人 **酒田市美術館** 〒998-0055 山形県酒田市飯森山3丁目17-95
電話0234(31)0095

山村・村落を描いたふる里の画家

酒田市美術館収蔵品展 生誕110年 斎藤長三展 作品リスト

No	作品名	作者	制作年	サイズ、号数等	材質等
■ エントランス					
1	白い道	斎藤 長三	1964	60.6×72.6	油彩・キャンバス
■ 企画展示室					
2	山ふところ	斎藤 長三	1942	100×80.3	油彩・キャンバス
3	冬景色	斎藤 長三	1942	145.5×111.8	油彩・キャンバス
4	秋・収穫	斎藤 長三	1944	89.4×145.5	油彩・キャンバス
5	秋・野の食事	斎藤 長三	1944	89.4×145.5	油彩・キャンバス
6	酒田港口	斎藤 長三	1951	100×72.7	油彩・キャンバス
7	千倉港	斎藤 長三	1953	89.4×145.5	油彩・キャンバス
8	国電池袋駅	斎藤 長三	1953	89.4×145.5	油彩・キャンバス
9	罫ヶ関	斎藤 長三	1954	89.4×145.5	油彩・キャンバス
10	伊豆稲取港	斎藤 長三	1955	89.4×145.5	油彩・キャンバス
11	山村(赤)	斎藤 長三	1960	100×80.3	油彩・キャンバス
12	山畠	斎藤 長三	1961	130.3×98	油彩・キャンバス
13	山村(茶)	斎藤 長三	1961	130.3×98	油彩・キャンバス
■ 展示ホール					
14	最上川	斎藤 長三	1974	80.3×130.3	油彩・キャンバス
15	河沿いの山村	斎藤 長三	1976	112.4×145.7	油彩・キャンバス
16	果樹園水辺	斎藤 長三	1982	130.5×194.1	油彩・キャンバス
17	芦ヶ窪	斎藤 長三	1984	130.5×194.1	油彩・キャンバス
18	北信濃Y村	斎藤 長三	1981	130.3×97	油彩・キャンバス
19	丘の上の林檎(紅玉)	斎藤 長三	1978	91×91	油彩・キャンバス
20	桃の丘(桃園)	斎藤 長三	1984	112×145.5	油彩・キャンバス
■ 常設Ⅱ展示室					
21	桃花	斎藤 長三	1988	102.5×151	油彩・キャンバス
22	山寺	斎藤 長三	1986	194×162	油彩・キャンバス

No	作品名	作者	制作年	サイズ、号数等	材質等
23	丘陵秋色	斎藤 長三	1991	194×130.3	油彩・キャンバス
24	山水曲堤	斎藤 長三	1990	94×145.5	油彩・キャンバス
25	白糸の滝	斎藤 長三	1989	145.5×89.4	油彩・キャンバス
26	浅春の瀧	斎藤 長三	1990	129.2×129	油彩・キャンバス
27	麓の林	斎藤 長三	1992	103×130	油彩・キャンバス
■ 廊下(彫刻)					
28	渚にて	高橋 剛	1964頃	半身	ブロンズ
29	踊り子	高橋 剛	1980頃	等身	ブロンズ
30	裸婦立像	高橋 剛	1966	半身	ブロンズ
31	静なるプリマ	高橋 剛	-	半身	ブロンズ
32	稽古場の踊り子	高橋 剛	1985	半身	ブロンズ
33	くつろぎ	高橋 剛	1977頃	半身	ブロンズ
34	浴	高橋 剛	1977	半身	ブロンズ
35	鳩を抱く	高橋 剛	1968頃	半身	ブロンズ
36	二十の女	高橋 剛	1973	小品	ブロンズ
37	スカーフの女	高橋 剛	1980	小品	ブロンズ
■ 常設Ⅱ展示室(新田嘉一コレクション)					
38	黒川能(知盛)	森田 茂	1995	100	油彩・キャンバス
39	花	福沢 一郎	-	6	油彩・板
40	山形の春	大内田茂士	-	8	油彩・キャンバス
41	春のよここび	元宿 仁	-	F20	油彩・キャンバス
42	マドモアゼル秋の女	鶴岡 義雄	-	F20	油彩・キャンバス
43	鳥海 五月	小林 功	2017	100	油彩・キャンバス
44	黒川能(狸々)	森田 茂	1984	100	油彩・キャンバス
45	黒川能(石橋)	森田 茂	1993	100	油彩・キャンバス
46	松川富士	森田 茂	1996	100	油彩・キャンバス
47	城	森田 茂	1989	100	油彩・キャンバス
48	バンコックの寺院と僧	森田 茂	-	80	油彩・キャンバス
49	上高地の山々	森田 茂	-	60	油彩・

高砂淳二 写真展 —Dear Earth—

会 期／令和2年7月18日(土)～8月30日(日)
 主 催／公益財団法人 酒田市美術館
 共 催／酒田市・酒田市教育委員会
 協 力／高砂写真事務所
 企画協力／M&M Color
 担 当／学芸員 武内 治子
 入場者数／5,191人

◎展覧会趣旨

海の中から生き物、風景まで、地球全体をフィールドに、自然全体の繋がりがや人とのかかわり合いなどをテーマに撮影活動を行い、「ナイトレインボー」を世界で初めて写真集としてまとめた自然写真家、高砂淳二。

ハワイ先住民の智慧を学び、自然写真とともに、自然全体の繋がりがや、人と自然との関係、人間の役割などを、さまざまなメディアを通して伝え続けています。

地球各地で撮り下ろした 虹、海、山、空、滝、波、動物、植物、星々など、あらゆる地球自然界の魅力を写した、自然写真界の第一人者、高砂淳二の作品を約80点で紹介しました。

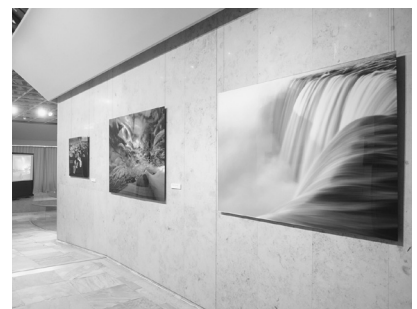
◎関連企画

酒田市美術館YouTubeチャンネル
 「作品解説動画」全3回

- ① 作品解説01 視聴回数 407回(3)
 - ② 作品解説02 視聴回数 270回(3)
 - ③ 作品解説03 視聴回数 276回(9)
- 合計 953回(15)

※()内は高評価

出演者 高砂淳二氏(自然写真家)



二つの東海道五拾三次 歌川広重展

会 期／令和2年9月5日(土)～10月18日(日)
 主 催／公益財団法人 酒田市美術館
 共 催／酒田市・酒田市教育委員会
 協 力／公益財団法人日動美術財団、日本美術商事株式会社
 担 当／学芸主幹 熱海 熱
 入場者数／4,432人

◎展覧会趣旨

江戸時代、幕府の街道整備によって江戸の日本橋から京都の三条大橋まで東海道が開かれ、往来盛んな大動脈が誕生しました。そうした状況の中で東海道の様子を紹介した「東海道名所図会」などの名所絵や旅案内などの出版が相継ぐとともに、十返舎一九の「東海道中膝栗毛」が江戸の世に大流行し、空前の旅ブームを生み出しました。

歌川広重（1797-1858）は浮世絵でその旅の様子を大胆かつ克明に描き出し、「東海道五拾三次」を刊行。江戸っ子の憧憬をかきたて、大ヒットを記録しました。

その後も広重は幾度となく東海道を題材として描きましたが、「保永堂版」「丸清版」は、16年ほどの期間をおいて描かれたシリーズです。同じ宿場町を描いていても、構図や色数、登場人物が異なり、出版元の個性や時代の雰囲気色が濃く反映されています。本展では、「東海道五拾三次」の保永堂版と丸清版計110点を同時に展示し、2つの異なる構図で表現された東海道をめぐりました。また、大正時代に撮影された宿場町の様子も併せて紹介しました。

◎関連企画

学芸員による臨時ギャラリートーク

日時 9月19日(土) 午後2時
 9月20日(日) 午前11時、午後2時
 9月21日(月・祝) 午前11時
 9月22日(火・祝) 午前11時、午後2時
 9月26日(土)、29日(火) 午後2時

会場 展示室
 講師 当館学芸員



歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版×丸清版 作品リスト

歌川広重	保永堂版		丸清版		技法
1	日本橋「朝之景」	Nihonbashi	日本橋	Nihonbashi	木版多色刷・紙
2	品川「日之出」	Shinagawa	品川	Shinagawa	木版多色刷・紙
3	川崎「六郷渡舟」	Kawasaki	川崎	Kawasaki	木版多色刷・紙
4	神奈川「臺之景」	Kanagawa	加奈川	Kanagawa	木版多色刷・紙
5	保土ヶ谷「新町橋」	Hodogaya	程か谷	Hodogaya	木版多色刷・紙
6	戸塚「元町別道」	Totsuka	戸塚	Totsuka	木版多色刷・紙
7	藤澤「遊行寺」	Fujisawa	藤澤	Fujisawa	木版多色刷・紙
8	平塚「繩手道」	Hiratsuka	平塚	Hiratsuka	木版多色刷・紙
9	大磯「虎ヶ雨」	Ōiso	大磯	Ōiso	木版多色刷・紙
10	小田原「酒匂川」	Odawara	小田原	Odawara	木版多色刷・紙
11	箱根「湖水図」	Hakone	箱根	Hakone	木版多色刷・紙
12	三島「朝霧」	Mishima	三嶋	Mishima	木版多色刷・紙
13	沼津「黄昏図」	Numazu	沼津	Numazu	木版多色刷・紙
14	原「朝之富士」	Hara	原	Hara	木版多色刷・紙
15	吉原「左富士」	Yoshiwara	吉原	Yoshiwara	木版多色刷・紙
16	蒲原「夜之雪」	Kambara	蒲原	Kambara	木版多色刷・紙
17	由井「薩埵嶺」	Yui	由井	Yui	木版多色刷・紙
18	興津「興津川」	Okitsu	興津	Okitsu	木版多色刷・紙
19	江尻「三保遠望」	Ejiri	江尻	Ejiri	木版多色刷・紙
20	府中「安部川」	Fuchū	府中	Fuchū	木版多色刷・紙
21	鞠子「名物茶店」	Mariko	鞠子	Mariko	木版多色刷・紙
22	岡部「宇津之山」	Okabe	岡部	Okabe	木版多色刷・紙
23	藤枝「人馬継立」	Fujieda	藤枝	Fujieda	木版多色刷・紙
24	島田「大井川駿岸」	Shimada	嶋田	Shimada	木版多色刷・紙
25	金谷「大井川遠岸」	Kanaya	金谷	Kanaya	木版多色刷・紙
26	日坂「佐夜ノ中山」	Nissaka	日坂	Nissaka	木版多色刷・紙
27	掛川「秋葉山遠望」	Kakegawa	懸川	Kakegawa	木版多色刷・紙
28	袋井「出茶屋ノ図」	Fukuroi	袋井	Fukuroi	木版多色刷・紙
29	見附「天龍川図」	Mitsuke	見附	Mitsuke	木版多色刷・紙
30	浜松「冬枯ノ図」	Hamamatsu	はま姿	Hamamatsu	木版多色刷・紙
31	舞坂「今切真景」	Maisaka	舞坂	Maisaka	木版多色刷・紙
32	荒井「渡舟ノ図」	Arai	荒井	Arai	木版多色刷・紙
33	白須賀「汐見阪図」	Shirasuka	白須賀	Shirasuka	木版多色刷・紙
34	二川「猿ヶ馬場」	Futagawa	二川	Futagawa	木版多色刷・紙
35	吉田「豊川橋」	Yoshida	吉田	Yoshida	木版多色刷・紙
36	御油「旅人留女」	Goyu	御油	Goyu	木版多色刷・紙
37	赤坂「旅舎招婦ノ図」	Akasaka	赤坂	Akasaka	木版多色刷・紙
38	藤川「棒鼻ノ図」	Fujikawa	藤川	Fujikawa	木版多色刷・紙
39	岡崎「矢矧之橋」	Okazaki	岡崎	Okazaki	木版多色刷・紙
40	池鯉鮒「首夏馬市」	Chiryu	池鯉鮒	Chiryu	木版多色刷・紙
41	鳴海「名物有松絞」	Narumi	鳴海	Narumi	木版多色刷・紙
42	宮「熱田神事」	Miya	宮	Miya	木版多色刷・紙
43	桑名「七里渡口」	Kuwana	桑名	Kuwana	木版多色刷・紙
44	四日市「三重川」	Yokkaichi	四日市	Yokkaichi	木版多色刷・紙
45	石薬師「石薬師寺」	Ishiyakushi	石薬師	Ishiyakushi	木版多色刷・紙
46	庄野「白雨」	Shōno	庄野	Shōno	木版多色刷・紙
47	亀山「雪晴」	Kameyama	亀山	Kameyama	木版多色刷・紙
48	関「本陣早立」	Seki	関	Seki	木版多色刷・紙
49	阪之下「筆捨嶺」	Sakanoshita	坂の下	Sakanoshita	木版多色刷・紙
50	土山「春之雨」	Tsuchiyama	土山	Tsuchiyama	木版多色刷・紙
51	水口「名物干瓢」	Minakuchi	水口	Minakuchi	木版多色刷・紙
52	石部「目川ノ里」	Ishibe	石部	Ishibe	木版多色刷・紙
53	草津「名物立場」	Kusatsu	草津	Kusatsu	木版多色刷・紙
54	大津「走井茶店」	Ōtsu	大津	Ōtsu	木版多色刷・紙
55	京師「三条大橋」	Keishi	京	Kyo	木版多色刷・紙

オードリー・ヘプバーン写真展

会 期／令和2年11月28日(土)～令和3年1月22日(金)

主 催／公益財団法人 酒田市美術館

共 催／酒田市、酒田市教育委員会

協 力／mptv images

企画制作／クレヴィス

担 当／学芸主幹 熱海 熱

入場者数／4,378人

◎展覧会趣旨

オードリー・ヘプバーン(1929-1993)は1953年、「ローマの休日」で銀幕デビューし、アカデミー主演女優賞を獲得しました。その後「ティファニーで朝食を」、「マイ・フェア・レディ」などで、絶大な人気と女優としての確固たる地位を得ました。その活躍は映画のみならず、同時代のファッションアイコンとしても注目を集めました。

オードリーが亡くなったのは1993年、すでに四半世紀を経ましたが、今なおその姿は人々の記憶に焼き付けられ、その妖精のような美貌は輝きを失っていません。本展では、「ファッション」、「映画」、「プライベート」をテーマとした3部構成で展覧いたします。ご紹介する写真作品は、カリフォルニアのmptv社の全面的な協力を得て、同社が所蔵するオードリーのフォトコレクションから、約150点を厳選しました。

◎関連企画 新型コロナウイルス感染防止対策により関連イベントなし



永遠の憧れ、
オードリーの美しい写真
約150点が一堂に。

Audrey Hepburn
 写真展
 オードリー・ヘプバーン
 2020. 11.28(土) - 2021. 1.22(金)

開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで) 休館日 12月～3月は休館日、月曜日が祝日の場合は翌日 (11/30は展覧、12/29～1/3)

観覧料 一般1,000円(900円)、高校生500円(400円)、中学生以下無料 (小学生以下は大人同伴)

主催：公益財団法人酒田市美術館 共催：酒田市、酒田市教育委員会 協力：mptv images、クレヴィス

Sakata City Museum of Art 酒田市美術館 〒998-0055 山形県酒田市飯倉山3丁目17-95 TEL 0234-31-0295 URL http://www.sakata-art-museum.jp

永遠の憧れ、オードリー・ヘプバーン

オードリー・ヘプバーン(1929～1993)は1953年、「ローマの休日」で銀幕デビューし、アカデミー主演女優賞を獲得しました。その後「ティファニーで朝食を」、「マイ・フェア・レディ」などで、絶大な人気と女優としての確固たる地位を得ました。その活躍は映画のみならず、同時代のファッションアイコンとしても注目を集めました。オードリーが亡くなったのは1993年、すでに四半世紀を経ましたが、今なおその姿は人々の記憶に焼き付けられ、その妖精のような美貌は輝きを失っていません。本展では、「ファッション」、「映画」、「プライベート」をテーマとした3部構成で展覧いたします。ご紹介する写真作品は、カリフォルニアのmptv社の全面的な協力を得て、同社が所蔵するオードリーのフォトコレクションから、約150点を厳選しました。

オードリーが亡くなったのは1993年、すでに四半世紀を経ましたが、今なおその姿は人々の記憶に焼き付けられ、その妖精のような美貌は輝きを失っていません。本展では、「ファッション」、「映画」、「プライベート」をテーマとした3部構成で展覧いたします。ご紹介する写真作品は、カリフォルニアのmptv社の全面的な協力を得て、同社が所蔵するオードリーのフォトコレクションから、約150点を厳選しました。

観覧料 一般1,000円(900円)、高校生500円(400円)、中学生以下無料 (小学生以下は大人同伴)

主催：公益財団法人酒田市美術館 共催：酒田市、酒田市教育委員会 協力：mptv images、クレヴィス

Sakata City Museum of Art 酒田市美術館 〒998-0055 山形県酒田市飯倉山3丁目17-95 TEL 0234-31-0295 URL http://www.sakata-art-museum.jp

いわさきちひろ ピエゾグラフィ展 作品リスト

No.	タイトル	制作年 (原画)	制作年 (ピエゾグラフィ)	初出	出版社
-----	------	-------------	------------------	----	-----

■ エントランス

1	小犬と雨の日の子どもたち	1967年	2016年	絵雑誌 「こどものせかい」 1967年7月号	至光社
2	チュールリップのなかのあかちゃん	1971年	2006年		
3	母の日	1972年	2004年	絵雑誌 「こどものせかい」 1972年5月号	至光社

■ 第一展示室

絵本の仕事

4	顔を洗う男の子	1956年	2008年	「ひとり できるよ」	福音館書店
5	そうじをするぼくとおねえさん	1956年	2008年		
6	大きな時計をつくる子どもたち	1956年	2012年	「みんなで しようよ」	福音館書店
7	楽器を鳴らす子どもたち	1957年	2004年		
8	龍に乗る男の子	1965年	2008年		
9	木の下で眠る男の子	1965年	2014年	「りゅうのめ なみだ」	偕成社
10	山道を行く男の子	1965年	2007年		
11	涙を流すりゅうと男の子	1965年	2007年		
12	麦わら帽子をかぶったおにた	1969年	2010年		
13	洗面器を持つ女の子	1969年	2012年	「おにたの ぼうし」	ポプラ社
14	戸口に立つおにた	1969年	2012年		
15	赤飯を差し出したおにたと少女	1969年	2010年		
16	インドの少女	1966年	2008年		
17	玉座で死んだ少年	1966年	2007年	「絵のない 絵本」	童心社
18	墓地に腰をおろす道化	1966年	2015年		
19	ベツでお祈りする女の子とおあさん	1966年	2015年		
20	花のなから生まれたおやゆび姫	1966年	2009年		
21	花びらの舟に乗るおやゆび姫	1966年	2007年	「世界名作絵本 全集14 おやゆび姫」	ひかりのくに 昭和出版/ 改訂版:講談社
22	もぐらとかがをいっしょに遊ぶおやゆび姫	1966年	2014年		
23	花の国の王子とおやゆび姫	1966年	2009年		
24	王子を想う人魚姫	1967年	2004年		
25	魔女と人魚姫	1967年	2004年	「にんぎょひめ」	偕成社
26	王子の城について人魚姫	1967年	2014年		
27	花嫁のベールを持つ人魚姫	1967年	2011年		
28	風船を持つ女の子とネコ	1968年	2011年		
29	おもちゃのピアノ	1968年	2010年		
30	くちもとに指をそえた少女	1968年	2004年		
31	あやめ	1968年	2017年	「あめのひの おるすばん」	至光社
32	カーテンにかくれる少女	1968年	2004年		
33	雨がさとさかなの親子	1968年	2010年		
34	窓ガラスに絵をかく少女 (1少女)	1968年	2004年		
35	お母さんに抱きつく子	1968年	2008年		
36	汽車の窓から見る海	1973年	2010年		
37	鏡のなかの少女	1973年	2011年		
38	海の夕焼けと手紙をかく少女	1973年	2004年	「ぼちのきた うみ」	至光社
39	海とふたりの子ども	1973年	2004年		
40	小犬を抱く少女	1973年	2007年		
41	海辺を走る少女と小犬	1973年	2004年		
42	うきぶくろで泳ぐ少女	1973年	2008年		
平和への祈り					
43	見つめる少女	1967年	2004年		
44	「そのときほくは」	1967年	2005年		
45	焼け跡を見つめる少年	1967年	2005年	「わたしが ちいさかった ときに」	童心社
46	死んだ子どもを抱く目も見えなくなった母親	1967年	2004年		
47	広島から八里の道を歩いて帰ってきた少女	1967年	2004年		
48	三人姉妹	1972年	2005年		
49	けんかをする姉と弟	1972年	2005年	「母さんは おるす」	新日本出版社
50	戦争ごっこ	1972年	2007年		
51	戦場から帰ってきた母親	1972年	2005年		
52	幼い兄弟を抱くお母さん	1972年	2005年		
53	シクラメンの花のなかの子どもたち	1973年	2004年		
54	焼け跡の姉弟	1973年	2004年		
55	たたずむ少年	1972年	2004年	「戦火のなかの 子どもたち」	岩崎書店
56	炮のなかの母と子	1973年	2004年		
57	戦火のなかの少女	1972年	2004年		
58	雨のなかにすわる少女	1972年	2005年		
59	ねむそうに電話をとる女の子	1970年	2009年		
60	電話をするおひさま	1970年	2012年	「もしもし おでんわ」	童心社
61	電話する女の子	1970年	2009年		

※当時のリストより「画材」欄は削除しています。

62	電話をするあひる	1970年	2012年		
63	タンポポ電話局	1970年	2012年	「もしもし おでんわ」	童心社
64	おさんぼ	1970年	2009年		

■ 第二展示室

ちひろの歩み

65	自画像	1945年 (26歳)	2016年	日記「草穂」	
66	自画像	1946年 9月11日 (27歳)	2016年	スケッチ	
67	屋根裏のアトリエで本を読む自画像	1947年頃 (28歳頃)	2012年	スケッチ	
68	顔をおおう自画像	1947年頃 (28歳頃)	2004年	スケッチ	
69	死神を追いかける母親	1947年頃	2008年	紙芝居「お母さんの 話」(習作)	日本紙芝居 幻灯(株)
70	神戸原より田園風景をのぞむ	1950年頃 (31歳頃)	2009年	スケッチ	
71	信州の父母	1951年 8月1日 (32歳)	2011年	スケッチ	
72	昼寝をする夫 善明	1950年 5月11日 (31歳)	2004年	スケッチ	
73	長男・猛	1951年 7月5日 (31歳)	2004年	スケッチ	
74	「いぬの あかちゃん」	1953年	2012年	絵雑誌 「よいこのくに」 1953年9月号	学習研究社
75	「ほおずき きゅつ きゅつ」	1954年	2013年	絵雑誌 「よいこのくに」 1954年9月号	学習研究社
76	「ちら ちら こゆき」	1954年	2010年	絵雑誌 「よいこのくに」 1958年12月号	学習研究社
77	「あまやどり」	1958年	2006年	絵雑誌 「キンダーブック」 1958年6月号	フレーベル館
78	「ほうそうごっこ」	1958年	2014年	絵雑誌 「キンダーブック」 1958年9月号	フレーベル館
79	「ままごと」	1959年	2011年	絵雑誌 「キンダーブック」 1960年4月号	フレーベル館
80	「ロンドン橋おちる」	1966年	2004年	「あいうえおブック 22」	世界文化社

■ 第三展示室

季節のなかの子どもたち

81	春の花と子どもたち	1965年頃	2009年		
82	バラにかくれる子ども	1972年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1972年5月号	草土文化
83	わらびを持つ少女	1972年	2004年	「あかまんまとう」	童心社
84	蝶と子どもたちの幻想	1970年	2006年	雑誌「子どものしあわせ」 1970年4月号	草土文化
85	チュールリップと子ども	1970年頃	2010年		
86	青い花と小鳥と子ども	1972年	2006年	雑誌「子どものしあわせ」 1972年4月号	草土文化
87	黄色い傘の少女	1969年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1969年6月号	草土文化
88	海を見つめる少女	1973年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1973年7月号	草土文化
89	青いつば広帽子を持つ少女	1969年	2006年	雑誌「子どものしあわせ」 1969年9月号	草土文化
90	貝がらと赤い帽子の少女	1967年	2006年	カレンダー1968年版	
91	緑の風のなかの少女	1972年	2004年	絵雑誌「こどものせかい」 1972年2月号	至光社
92	ぶどうを持つ少女	1971年頃	2004年	絵雑誌「こどものせかい」 1973年10月号	至光社
93	十五夜の月(「じゅうごやの つき」)	1965年	2004年	「あいうえおブック 6」	世界文化社
94	「かわいい かくれんぼ」	1965年	2011年	「こどものうた うた」	実業之日本社
95	雪のなかを走る子ども	1970年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1971年1月号	草土文化
96	雪の幻想	1971年	2005年	雑誌「子どものしあわせ」 1972年2月号	草土文化
97	暖炉の前で猫を抱く少女	1971年	2004年	絵雑誌「こどものせかい」 1972年2月号	至光社
98	チュールリップとあかちゃん	1971年	2004年	広告	
99	湯あがりのあかちゃん	1971年	2004年	広告	
100	おつむてんてん	1971年	2004年	「あかちゃんのうた」(習作)	
101	あかちゃん(絶筆)	1974年	2004年	雑誌「子どものしあわせ」 1974年8月号	草土文化

サカタアートマルシェ 「いいいろいろ展」

会 期/令和2年9月15日(火)～9月27日(日)
 会 場/酒田市美術館 市民ギャラリー・中庭、出羽遊心館
 主 催/酒田市文化芸術推進プロジェクト会議・酒田市
 共 催/やまがたアートサポートセンター ら・ら・ら、酒田市社会福祉協議会
 協賛企業/東北エプソン株式会社、平田牧場グループ、株式会社荘内銀行、酒田金融協会、加藤総業株式会社、株式会社小松写真印刷、進和ラベル印刷株式会社、株式会社エルデック、国際ソロプチミスト酒田、酒田米菓株式会社
 協力団体/生活介護センターふれあい、NPO法人あらた、障がい者支援施設 光風園、放課後等デイサービス事業所 ならはし、障がい者支援施設 和光園、多機能型事業所 ふれんず、山形県立酒田特別支援学校、酒田東病院 デイクア パレット、医療法人酒田東病院、多機能型事業所 さごし、就労継続支援B型事業所 まざーずはーと、障がい福祉サービス事業所 いっぽ、共同生活事業所 なごみ、共同生活事業所 仲町ホーム、福祉施設 ひよこり島、酒田市障がい者福祉会、医療法人山容会山容病院
 協 力/株式会社ディスカバー・ジャパン、酒田市美術館
 助 成/一般財団法人地域創造
 担 当/学芸員 武内 治子
 入場者数/1,714人

◎展覧会趣旨

今年で3回目を迎えるアートマルシェのテーマは、コロナ禍ゆえの「祈りと希望」～アートから祈りを～。

一人ひとりのカラフルな個性と可能性を感じていただくことにより、生きることの意味や共生社会を考える機会となりました。酒田市出身の画家 佐藤真生氏の作品、酒田市の障がいのある方から募集した作品、アマビエ公募作品を一つの企画展にしました。

◎イベント

おそとでアート! ワークショップ

①光の箱をつくろう ②風の魚であそぼう

日時 9月21日(月・祝) 1回目 午前10時～、2回目 午後2時～
 会場 酒田市美術館中庭
 講師 松村泰三氏(東北芸術工科大学准教授)

風と光のコンサート

日時 9月21日(月・祝) 1回目 午前11時～11時45分
 2回目 午後2時15分～3時
 会場 酒田市美術館中庭
 出演 山形交響楽団員

よねさんの紙芝居

日時 1回目 9月21日(月・祝)午後1時～2時
 2回目 9月22日(火・祝)午前10時～10時30分
 会場 酒田市美術館中庭(1回目)、出羽遊心館(2回目)
 出演 米田佐之助氏



1. 展覧会事業 (3)常設展示／令和2(2020)年度

《エントランス》

1期 令和2年5月18日～7月12日 【収蔵品展】斎藤長三作品

《企画展示室》

1期 令和2年5月18日～7月12日 【収蔵品展】斎藤長三作品

《展示ホール》

1期 令和2年5月18日～7月12日 【収蔵品展】斎藤長三作品

《常設展示室Ⅰ》

1期 令和2年5月18日～7月12日 【収蔵品展】斎藤長三作品
2期 令和2年7月18日～8月30日 【常設企画展】荒生由美子作品

《常設展示室Ⅱ》

1期 令和2年3月7日～7月12日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、福沢一郎 他
2期 令和2年7月18日～10月18日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、藤田嗣治 他
3期 令和2年11月28日～3月14日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、大内田茂士 他

《回廊》

1年を通して 令和2年4月1日～ 【酒田市所蔵作品】 高橋剛作品



荒生由美子展



高橋剛作品

2. 教育普及事業 令和2(2020)年度

◇ワークショップ

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
サカタアートマルシェ 「いろいろな展」	9月21日(月・祝) ①午前10時 ②午後2時	『おそとでアート!』 講師:松村泰三氏(東北芸術工科大学 准教授) 会場:美術館中庭	27人

◇ギャラリートーク

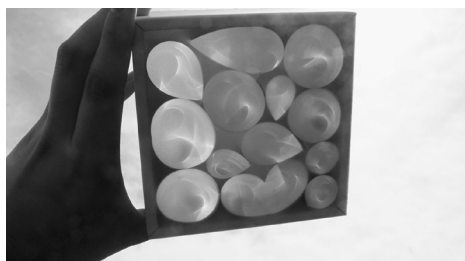
展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
二つの東海道五拾三次 歌川広重展	9月19日(土) 午後2時	臨時「ギャラリートーク」 講師:熱海熱(学芸主幹) 会場:美術館内	16人
	9月20日(日) ①午前11時 ②午後2時		56人
	9月21日(月・祝) 午前11時		13人
	9月22日(火・祝) ①午前11時 ②午後2時		31人
	9月26日(土) 午後2時		25人
	9月29日(火) 午後2時		27人

◇その他企画

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
サカタアートマルシェ 「いろいろな展」	9月21日(月・祝) ①午前11時～11時45分 ②午後2時15分～3時	ミュージアムコンサート「風と光のコンサート」 演奏:山形交響楽団員8名 会場:美術館中庭	90人
	9月21日(月・祝) 午後1時～2時	「よねさんの紙芝居」 出演:米田佐之助氏 会場:美術館中庭	53人

【「教職員視察ウィーク」の実施】（期間中の教職員に対する入館料減免とアンケートの記入）

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
二つの東海道五拾三次 歌川広重展	9月12日～9月18日	酒田市内の保育園・幼稚園・小中高等学校・特別支援学校・産業技術短期大学校庄内校・東北公益文科大学に勤務する教職員(臨時職員、講師でも可)の入館料を減免し、アンケートに答えてもらう。	14人
いわさきちひろ ピエゾグラフ展	令和3年1月30日～2月6日 休館日:2月1日		27人



『おそとでアート!』ワークショップ完成品



『おそとでアート!』ワークショップ風景

3. 市民ギャラリー利用状況 令和2(2020)年度

展覧会名	会期	会期日数	入館者数
第28回酒田如月水墨画会展	令和2年9月7日(月)～9月13日(日)	7日	501
サカタアートマルシェ「いいいろいろ展」	令和2年9月15日(火)～9月27日(日)	13日	1,714
第5回記念「美の会」現代書展・ジュニア書道展	令和2年10月15日(木)～10月18日(日)	4日	371
やまがた百名山写真展	令和3年2月17日(水)～2月26日(金)	9日	782
山岳写真家 白旗史朗「名峰鳥海山の四季セレクション」 & 鳥海山・飛島ジオパークの魅力	令和3年3月2日(火)～3月14日(日)	12日	1,964
茂木玲子写真展「魚と街」	令和3年3月27日(土)～3月31日(水)	4日	350
6展示		49日間	5,682人



第28回酒田如月水墨画会展



第28回酒田如月水墨画会展



第5回記念「美の会」
現代書展・ジュニア書道展



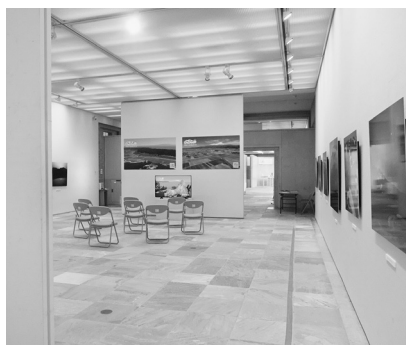
第5回記念「美の会」
現代書展・ジュニア書道展



やまがた百名山写真展



やまがた百名山写真展



山岳写真家 白旗史朗
「名峰鳥海山の四季セレクション」
& 鳥海山・飛島ジオパークの魅力



山岳写真家 白旗史朗
「名峰鳥海山の四季セレクション」
& 鳥海山・飛島ジオパークの魅力

4. 入館状況 令和2(2020)年度

展覧会名	会期	一般	高校生	小・中学生	会員券・招待 視察等	計 (人)
生誕100年 國領經郎展 —静寂なる砂の景—	令和2年3月7日～4月12日 4月8日より臨時休館	424	34	27	1,184	1,669
酒田市美術館収蔵品展 生誕110年 斎藤長三展	5月18日～7月12日	277	2	6	720	1,005
高砂淳二 写真展—Dear Earth—	7月18日～8月30日	2,739	52	221	2,179	5,191
二つの東海道五拾三次 歌川広重展	9月5日～10月18日	1,827	17	75	2,513	4,432
オードリー・ヘプバーン写真展	11月28日～令和3年1月22日	1,858	43	81	2,396	4,378
いわさきちひろ ピエソグラフィ展	1月30日～3月14日	1,840	37	212	2,913	5,002

〔生誕100年 國領經郎展 —静寂なる砂の景—〕のみ大学・専門学生は高校生料金で徴収。

公益財団法人土門拳記念館・ 公益財団法人酒田市美術館 合併調印式

日時 令和2年8月29日(土)午後2時
会場 出羽遊心館



合併契約書調印



合併契約書調印風景



公益財団法人酒田市美術館理事長 丸山 至



公益財団法人土門拳記念館理事長 高橋 修

アンティークドールの夢展 一児玉幸雄コレクション

会 期／令和3年3月20日(土・祝)～5月16日(日)
 主 催／公益財団法人酒田市美術館
 共 催／酒田市・酒田市教育委員会
 企画協力／公益財団法人日動美術財団
 担 当／学芸主幹 熱海 熱
 入場者数／2,655人

◎展覧会趣旨

本展で紹介するアンティークドールは、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、フランスやドイツで制作されたビスクドールと呼ばれる人形です。やわらかな透明感のあるビスク（二度焼きした磁器）で作られた顔、手彩色ガラスの神秘的な瞳、そして豪華なレースやシルクを使った手縫いの衣装。アンティークドールの黄金時代を築いたジュモーやアーモンド・マルセルをはじめとする名高い人形工房の精緻な技術は、現代においても美術品として高く評価されています。

本展では画家として活躍された児玉幸雄氏が生前に収集したコレクションからおおよそ60点を紹介しました。

◎関連企画 コロナウイルス感染症対策により関連企画なし



R
2
R
3

アンティークドールの夢展 一児玉幸雄コレクション 作品リスト

出品No	工房名	製造国	製造年	特徴	その他	サイズ(高さ)
■ 第1展示室						
1	ジュモー	フランス	1890年代	オープンマウス、ダークグレイアイ		h.52cm
2	ジュモー	フランス	1890年代	クローズドマウス、ブルーアイ、オリジナルボディ		h.44cm
3	ジュモー	フランス	1870年代	キッドボディ、ファッションドール		h.48cm
4	ジュモー	フランス	1890年代	クローズドマウス、オリジナル衣裳		h.48cm
5	ジュモー	フランス	不詳	ブルーアイ、オートマター		h.48cm
6	ジュモー	フランス	不詳	ブラウンアイ、オートマター(聖書を持つ)		h.48cm
7	F・ゴーチェ	フランス	1880年代	クローズドマウス、ブルーアイ		h.62cm
8	F・ゴーチェ	フランス	1870年代	クローズドマウス、ブルーアイ、ファッションドール		h.28cm
9	F・ゴーチェ	フランス	不詳	—		h.38cm
10	F・ゴーチェ	フランス	1870年代	キッドボディ、ファッションドール		h.42cm
11	F・ゴーチェ	フランス	1870年代	キッドボディ、ファッションドール		h.44cm
12	F・ゴーチェ	フランス	1870年代	木製ボディ		h.45cm
13	F・ゴーチェ	フランス	1870年代	ビスクハンド		h.47cm
14	F・ゴーチェ	フランス	1870年代	キッドボディ		h.44cm
15	F・ゴーチェ	フランス	不詳	キッドボディ		h.48cm
16	スタイナー	フランス	1880年代	クローズドマウス、ブルーアイ、木製ボディ		h.32cm
17	スタイナー	フランス	不詳	ブルーゴウンタイプ、オープンマウス、オートマター		h.48cm
18	リモージュ	フランス	不詳	オープンマウス、ブラックアイ		h.28cm
19	リモージュ	フランス	1900年代	オープンマウス、ブルーアイ		h.52cm
20	ロメーヌ	フランス	不詳	ブルーアイ、キッドボディ、ファッションドール		h.40cm
21	ロメーヌ	フランス	不詳	ブルーアイ、キッドボディ		h.36cm
22	E・ドナムール	フランス	1890年代	クローズドマウス、ブルーアイ		h.54cm
23	DEP	ドイツ	1900年代	オープンマウス、木製ボディ、スリーピングアイ(ブルー)		h.36cm
24	DEP	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.64cm
25	DEP	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブルーアイ		h.58cm
26	DEP	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブラウンアイ		h.54cm
27	DEP	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.56cm
28	DEP	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.44cm
29	DEP SFBJ	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.46cm
30	DEP ハンドヴェルク	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.54cm
31	H・ハンドヴェルク K&R	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.38cm
32	H・ハンドヴェルク シモン&ハルピック	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.57cm
33	SFBJ	ドイツ	1910年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.52cm
34	SFBJ	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.48cm
35	SFBJ	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.38cm
36	SFBJ	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブルーアイ		h.50cm
37	SH DEP	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.32cm
38	アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代	オープンマウス、クロスボディ、スリーピングアイ(ブルー)		h.46cm
39	アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブラウンアイ、木製ボディ、歩き人形		h.58cm
40	アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.52cm
41	アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.62cm
42	アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.53cm
43	アーモンド・マルセル	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.60cm
44	アーモンド・マルセル	ドイツ	1894年	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.48cm
45	アーモンド・マルセル DEP	ドイツ	1894年	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.40cm
■ 第2展示室						
46	カマー&ラインハルト	ドイツ	1900年代	オープンマウス、キッドボディ、スリーピングアイ(ブラウン)		h.54cm
47	シモン&ハルピック	ドイツ	不詳	オープンマウス、ブルーアイ		h.52cm
48	シモン&ハルピック	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.50cm
49	シモン&ハルピック	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.41cm
50	シモン&ハルピック K&R	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.44cm
51	ハルピック K&R	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.38cm
52	ハンドヴェルク	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.60cm
53	ハンドヴェルク ハルピック	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.32cm
54	ホイバッハ	ドイツ	不詳	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.63cm
55	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブラウンアイ		h.50cm
56	不詳	ドイツ	不詳	オープンマウス、ブラウンアイ		h.50cm
57	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブルーグレイアイ		h.48cm
58	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブルーアイ、キッドボディ、ビスクハンド		h.52cm
59	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブルーアイ		h.38cm
■ 第3展示室						
60	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブルーアイ		h.41cm
61	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブルーグレイアイ		h.62cm
62	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブルーアイ		h.34cm
63	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブラウンアイ		h.48cm
64	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.46cm
65	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、ブラウンアイ		h.42cm
66	不詳	ドイツ	1900年代	オープンマウス、スリーピングアイ(ブルー)		h.44cm
67	不詳	ドイツ	不詳	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.34cm
68	不詳	不詳	不詳	オープンマウス、ブラウンアイ		h.68cm
69	不詳	不詳	不詳	オープンマウス、スリーピングアイ(ブラウン)		h.41cm
70	不詳	不詳	不詳	紙粘土、キッドボディ		h.55cm
71	不詳	不詳	1900年代	民族衣裳		h.40cm
■ 絵画作品(児玉幸雄)						
72	アルルの骨董市	—	1972年	油彩・キャンバス		162.0×130.3cm
73	パリの朝市	—	不詳	油彩・キャンバス	新田嘉一コレクション	22.2×27.4cm
74	ファッション人形	—	不詳	油彩・キャンバス		53.3×45.5cm
75	パリ風景	—	不詳	油彩・キャンバス	新田嘉一コレクション	40.9×31.8cm

※SFBJ(フランス玩具人形製造協会 1899~1930)

今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展 作品リスト

No	作品名	制作年代	材質	サイズ (cm)
■ エントランス				
1	今森光彦ポートレート	2011年	ラシャ紙	23×31
2	オナガタイマイ	2014年	ラシャ紙	49×64
3	タテハモドキ	2014年	ラシャ紙	49×64
4	ツバネニチョウ	2014年	ラシャ紙	49×64
5	モルフォチョウ	2014年	ラシャ紙	49×64
6	シジュウカラとカエデ	2009年	ラシャ紙	38×56
7	オニグモ	2011年	ラシャ紙	50×69
8	タシギとイグサ	2012年	ラシャ紙	53×68
9	アフリカクサリヘビ	2012年	ラシャ紙	52×76
10	メンフクロウとキマイラ	2013年	ラシャ紙	52×76

■ 第一展示室				
11	オーレリアンの庭	2013年	ラシャ紙	56×75
12	コメント/キアグハは、花が大好きだ。	-	写真	20×30
13	コメント/土手のノアザミを生けてみた。	-	写真	20×30
14	コメント/あちこちに新置き場がある。	-	写真	20×30
15	コメント/モルガは、収穫して干しておくことでいい香りする。	-	写真	20×30
16	コメント/セイヨウニンジンボクに葉をつけたクモ	-	写真	30×20
17	コメント/手作りのピザは、いつもマルグリータ。	-	写真	20×30
18	コメント/黒は、ピザをはじめ、いろいろなものを使う。	-	写真	20×30
19	コメント/9月になるとイネの穂がたれて、美しい風景をつくる。	-	写真	20×30
20	コメント/アトリエの雑木林でとれたヤマグリ	-	写真	20×30
21	コメント/手には、カキの枯木があり、たわなに実る。	-	写真	20×30
22	コメント/雑木林の周辺には、ゼンマイやワラビが顔を出す。	-	写真	20×30
23	コメント/黒に薪をいれる	-	写真	20×30
24	コメント/アトリエの雑木林で、野鳥を観察する。	-	写真	20×30
25	コメント/26年間、冬になると大活躍している薪ストーブ。	-	写真	30×20
26	カザリハチドリ	2011年	ラシャ紙	33×44
27	飛ぶカザリハチドリ	2011年	ラシャ紙	33×44
28	ラケットハチドリ	2011年	ラシャ紙	33×44
29	カクスとクロウメモドキ	2011年	ソリドグラフ	52×79
30	ワシミズクとヒマラヤスギ	2013年	ラシャ紙	54×71
31	ワシミズクとオークツリー	2013年	ソリドグラフ	54×83
32	走るワシミズク	2013年	ラシャ紙	56×78
33	オナガガモ	2012年	ソリドグラフ	52×85
34	杭にとまるコガモ	2013年	ソリドグラフ	68×102
35	ツクシ	2009年	ラシャ紙	14×18
36	ワラビ	2008年	ラシャ紙	14×18
37	戦国甲	2011年	ラシャ紙	14×22
38	鳴くアマガエル	2008年	ラシャ紙	14×23
39	アマガエル	2008年	ラシャ紙	13×25
40	カタツムリ	2009年	ラシャ紙	15×10
41	ケーキ	2009年	ラシャ紙	15×17
42	スマレ	2008年	ラシャ紙	15×17
43	コスモス	2009年	ラシャ紙	22×24
44	アサガオ	2009年	ラシャ紙	22×31
45	アジサイ	2008年	ラシャ紙	22×31
46	クリスマス	2009年	ラシャ紙	22×31
47	サクラ	2008年	ラシャ紙	23×33
48	ウメ	2010年	ラシャ紙	24×26
49	チューリップ	2011年	ラシャ紙	24×32
50	イチヨウ	2011年	ラシャ紙	26×26
51	雪の結晶	2007年	ラシャ紙	58×74
52	乱舞するゲンジボタル	2007年	ラシャ紙	27×36
53	ヒマワリ	2009年	ラシャ紙	28×35
54	ひなまつり	2011年	ラシャ紙	29×45
55	ヨナグニサン	2012年	ラシャ紙	35×45
56	オオムラサキ	2011年	ラシャ紙	33×44
57	カギバアオジャク	2012年	ラシャ紙	33×44
58	キネヤガ	2013年	ラシャ紙	33×44
59	クマバチ	2012年	ラシャ紙	33×44
60	クロシタアオイラガ	2012年	ラシャ紙	33×44
61	ドクガ	2013年	ラシャ紙	33×44
62	トモエガ	2013年	ラシャ紙	33×44
63	トリバガ	2013年	ラシャ紙	33×44
64	ヒトリガ	2014年	ラシャ紙	33×44
65	アカオビスズメ	2011年	ラシャ紙	33×44
66	ホタルガ	2012年	ラシャ紙	33×44
67	マダラモドキガ	2012年	ラシャ紙	33×44
68	メキシコフクロウチョウ表	2013年	ラシャ紙	33×44
69	メキシコフクロウチョウ裏	2013年	ラシャ紙	33×44
70	メスシロキチョウ・オス	2011年	ラシャ紙	33×44
71	メスシロキチョウ・メス	2011年	ラシャ紙	33×44

No	作品名	制作年代	材質	サイズ (cm)
72	オオクジャクヤママユ	2014年	ラシャ紙	33×44
73	どうぶつ島たんけんタイトル	2012年	ラシャ紙	19×29
74	どうぶつ島と船	2012年	ラシャ紙	40×53
75	シロナガスクジラ	2012年	ラシャ紙	31×43
76	どうぶつ島上陸	2012年	ラシャ紙	34×43
77	すべるツキノワグマ	2010年	ラシャ紙	26×38
78	ヤマアラシとバツタ	2011年	ラシャ紙	26×38
79	刺の森のライオン	2012年	ラシャ紙	29×41
80	戦うカンガルー	2012年	ラシャ紙	30×44
81	水を飲むキリン	2011年	ラシャ紙	26×41
82	カメレオン	2012年	ラシャ紙	27×32
83	ヤクの群れ	2013年	ラシャ紙	37×49
84	ベンギン	2011年	ラシャ紙	39×48
85	レッサーパンダ	2010年	ラシャ紙	19×24
86	ヤク	2011年	ラシャ紙	19×24
87	ホロホロチョウ	2012年	ラシャ紙	19×24
88	ハリネズミ	2011年	ラシャ紙	19×24
89	ジャガー	2010年	ラシャ紙	19×24
90	サイ	2011年	ラシャ紙	19×24
91	メガネザル	2012年	ラシャ紙	19×24
92	アフリカゾウ	2011年	ラシャ紙	19×24
93	ゴマフアザラシ	2010年	ラシャ紙	19×24
94	カモノハシ	2011年	ラシャ紙	19×24
95	イグアナ	2010年	ラシャ紙	19×24
96	アルマジロ	2012年	ラシャ紙	19×24
97	バク	2012年	ラシャ紙	19×24
98	カバ	2012年	ラシャ紙	19×24
99	シマリス	2011年	ラシャ紙	19×24
100	ミーアキャット	2010年	ラシャ紙	19×24
101	どうぶつ島パレード	2012年	ラシャ紙	44×54

■ 第二展示室				
102	キマダラセセリとヒマワリ	2012年	ソリドグラフ	74×100
103	アレキサンドラトリバネアグハとハイビスカス	2013年	ソリドグラフ	61×92
104	カワセミとヤマザクラ	2012年	ソリドグラフ	61×92
105	ウラモジタテハとカカオ	2012年	ソリドグラフ	63×98
106	ヤシオウムとユウカリ	2011年	ソリドグラフ	66×90
107	コノハズクとニシキギ	2013年	ソリドグラフ	64×94
108	ハチドリとトケイソウ	2013年	ソリドグラフ	66×95
109	トビトカゲとバナナ	2014年	ソリドグラフ	71×103
110	アカカザリフウチョウ	2013年	ソリドグラフ	62×92
111	ビクトリアトリバネアグハとブルメリア	2014年	ソリドグラフ	63×98
112	ウソとコブシ	2014年	ソリドグラフ	96×108
113	トンボマダラとパイナップル	2013年	ソリドグラフ	76×104
114	オニオオハシ	2014年	ソリドグラフ	77×106
115	バンサーカメレオンとバキボディウム	2012年	ラシャ紙	71×93

■ 第三展示室				
116	ニシキキンカメムシ	2014年	ラシャ紙	長辺12.7
117	ルリボシカミキリ	2014年	ラシャ紙	長辺25.3
118	タムシ	2014年	ラシャ紙	長辺14
119	モンキチョウ オスとメス	2014年	ラシャ紙	長辺12
120	アカバナビワハゴロモ	2014年	ラシャ紙	長辺19.8
121	アケビコノハ	2014年	ラシャ紙	長辺25.4
122	アサギマダラ	2014年	ラシャ紙	長辺16
123	オオムラサキ	2014年	ラシャ紙	長辺19
124	オオミズアオ	2014年	ラシャ紙	長辺18
125	オニヤンマ	2014年	ラシャ紙	長辺18.2
126	ギンヤンマ	2014年	ラシャ紙	長辺15.4
127	キリギリス	2014年	ラシャ紙	長辺12.5
128	クルマバツタ	2014年	ラシャ紙	長辺16.5
129	タガメ	2014年	ラシャ紙	長辺19
130	ゲンゴロウ	2014年	ラシャ紙	長辺10.6
131	ミンミンゼミ	2014年	ラシャ紙	長辺14.5
132	カブトムシ	2014年	ラシャ紙	長辺15
133	ニジイロクワガタ	2014年	ラシャ紙	長辺18.7
134	ヨーロッパミヤマクワガタ	2014年	ラシャ紙	長辺18.7
135	オオキバウスバカミキリ	2014年	ラシャ紙	長辺22.5
136	ゴライアスオオツノハナムグリ	2014年	ラシャ紙	長辺26
137	オウゴンオニクワガタ	2014年	ラシャ紙	長辺13.5
138	アフリカメダマカマキリ	2014年	ラシャ紙	長辺12
139	ナナホシテントウ	2014年	ラシャ紙	長辺13.4
140	オトシブミ	2014年	ラシャ紙	長辺12.8
141	ゴマダラオトシブミ	2014年	ラシャ紙	長辺12.4
142	ハンミョウ	2014年	ラシャ紙	長辺15.6
143	ヒゲコメツキ	2014年	ラシャ紙	長辺19.7

ソリドグラフとは…今森光彦氏の切り紙作品を超高精細立体スキャナーによって、忠実に再現した複製原画のことです。23億画素からなる超高解像により、オリジナルの質感と立体感をそのまま表現しました。

つくる展 —TASKOファクトリーのひらめきをかたちに—

会 期／令和3年7月17日(土)～8月29日(日)
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館、山形新聞・山形放送
共 催／酒田市・酒田市教育委員会
協 力／大人の科学、株式会社学研プラス
企画制作／東映株式会社
企画協力／株式会社TASKO
担 当／学芸主任 武内 治子
入場者数／13,206人

◎展覧会趣旨

世界一、世界最強とも言われている日本のものづくりを、さらに元気にしているアートファクトリー「TASKO」。

彼らのユニークな発想力と優れた技術力は、これまで様々な企業やアーティスト、デザイナーとのアイデアをかたちに、幅広い分野で多くの作品を手がけてきました。

本展覧会では、現代アートとして見応え充分でありながら、ものづくりにおける「つくる」にスポットをあて、TASKOがこれまでに制作してきた作品に加えて、新たにオリジナルで制作したものなどを展示し、多様な視点でものづくりの魅力を紹介しました。

TASKOの作品を通して、使われている部品、しくみやしかけ、「ひらめきをかたちに」変えた背景、エピソードから感じるものづくりの不思議、おもしろさ、楽しさに興味関心を持つことで、想像力、発想力、創造力が刺激され、きっとワクワクしていたはずです。

「つくる」ってどういうことなのかを理解し、「どうつくる？」を考え、「つくりたくなる！」きっかけを見つけれられる展覧会でした。

◎関連企画

TASKOワークショップ「テンセグリティをつくろう！」

日時 8月7日(土) 午前10時～11時、午後2時～3時
※コロナウイルス感染防止対策により中止

TASKOファクトリーのひらめきをかたちに

2021年
7/17(土) - 8/29(日)

開館時間 9:00 - 17:00 (会期中無休 入館16:30まで)

観覧料 一般 前売券:900円 / 当日券:1,000円(900円)
高校生 前売券:450円 / 当日券:500円(450円)
中学生以下 無料 (中学生以下の入場は必ず保護者同伴でご来館下さい。)

※1日1回20名以上の団体予約、中学生未満の団体予約は事前予約が必要です。
※観覧券は半額販売の席、およびその前後1名の当日券は半額になります。

前売券プレイガイド ローションチケット(コード:21844) / センテック
山形新聞各販売店 / チケットYBC(TEL:023-634-8600 平日9:30-18:00)
主催:公益財団法人さかた文化財団 山形新聞・山形放送 共催:酒田市美術館 酒田市教育委員会
協力:大人の科学 株式会社学研プラス 企画制作:東映株式会社 企画協力:株式会社TASKO

酒田市美術館
〒990-0052 酒田市美術館3丁目17-95
TEL:0234-31-0095
https://www.city.sakai.lg.jp/museum/

TASKOファクトリーのひらめきをかたちに

つくる展

世界一、世界最強とも言われている日本のものづくりを、さらに元気にしているアートファクトリー「TASKO」。

彼らのユニークな発想力と優れた技術力は、これまで様々な企業やアーティスト、デザイナーとのアイデアをかたちに、幅広い分野で多くの作品を手がけてきました。

本展覧会では、現代アートとして見応え充分でありながら、ものづくりにおける「つくる」にスポットをあて、TASKOがこれまでに制作してきた作品に加えて、新たにオリジナルで制作したものなどを展示し、多様な視点でものづくりの魅力を紹介します。

TASKOの作品を通して、使われている部品、しくみやしかけ、「ひらめきをかたちに」変えた背景、エピソードから感じるものづくりの不思議、おもしろさ、楽しさに興味関心を持つことで、想像力、発想力、創造力が刺激され、きっとワクワクしていたはずです。

「つくる」ってどういうことなのかを理解し、「どうつくる？」を考え、「つくりたくなる！」きっかけを見つけれられる展覧会です。

展覧会がデジタルをはじめ、「つくる」にちなんだ楽しいグッズショップもあるよ!

関連企画
TASKOワークショップ「テンセグリティをつくろう！」
様々な材料と工具(ひたすら材料を動かして、型紙にそって、きれいに組み立てる)を
楽しむ、子どもから大人まで、みんなで楽しむ
8月7日(土)
①10:00-11:00 ②14:00-15:00
定員:各回10名(小学生以上・大人まで)
※小学生未満は保護者同伴
参加費:500円 場所:酒田市美術館
申込み:7月17日(土)午前9時より電話にて受付
(酒田市美術館 0234-31-0095) ※入場券の購入で
小学生以下は無料です。

酒田市美術館
〒990-0052 酒田市美術館3丁目17-95
TEL:0234-31-0095 FAX:0234-31-0094
https://www.city.sakai.lg.jp/museum/



来場者数1万人記念セレモニー

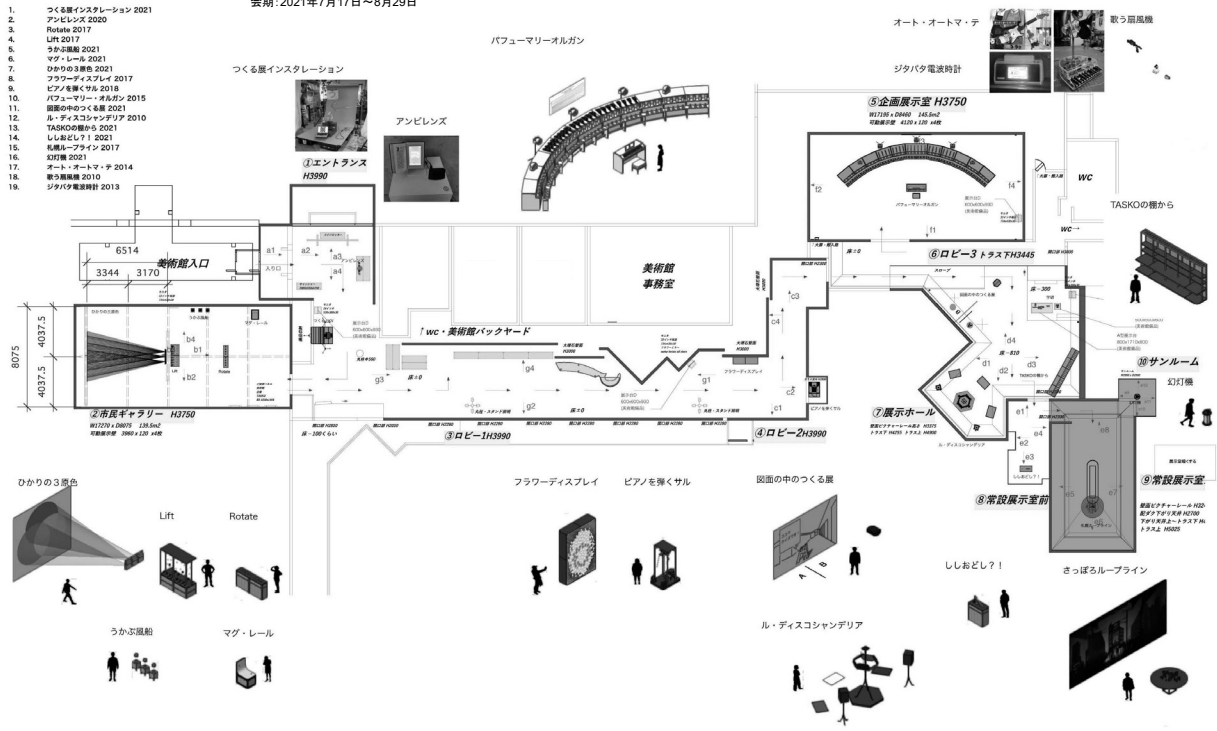


つくる展

酒田市美術館 つくる展 —TAKOファクトリーのひらめきをかたち—
作品平面配置図

会期: 2021年7月17日～8月29日

1. つくる展インスタレーション 2021
2. アンピレンズ 2020
3. Rotate 2017
4. Lift 2017
5. うかが風船 2021
6. マグ・レール 2021
7. ひかりの3原色 2021
8. フラワーディスプレイ 2017
9. ピアノを弾くサル 2018
10. パフォーマンス・オルガン 2015
11. 図面の中のつくる展 2021
12. ル・ディスコシャンデリア 2010
13. TASKOの棚から 2021
14. ししおどし? 2021
15. 礼機ルーブライン 2017
16. 幻灯機 2021
17. オート・オートマ・テ 2014
18. 歌う扇風機 2010
19. ジタバタ電波時計 2013



プロジェクト: つくる展

名称: 平面配置図

2021年7月19日 月曜日

縮尺

(縮尺は任意)

担当: KIMURA

酒田市美術館 つくる展 —TAKOファクトリーのひらめきをかたち—

TASKO inc.

●主要作品紹介

1. つくる展インスタレーション

TASKOのものづくりの基本は、まず設計を行い、次にそれを立体にします。そこに機械を加えて最後にデジタルの力でその動きを制御します。このインスタレーションは、こうした4つの要素を用いて展示会を表現した立体ロコです。

2. アンピレンズ

室内の二酸化炭素濃度をセンサーで測り、感染症予防対策のための換気が必要かどうかを泡のようなグラフィックで表現する、シンプルで直感的な表示器です。

3. ROTATAE

回転というシンプルな動きでも、制御によって回転方向や速さ、停止のタイミングなどバリエーションを出すことができます。これらを組み合わせることでオブジェクトに様々な表情を生み出します。

4. LIFT

宙吊りになったオブジェクトは、モーター制御によって上下に動かすことができます。制御によって出来る緩急のある動きや、複数のオブジェクトの動きが連動することで宙を舞うような表現が生まれます。

5. うかが風船

サーキュレーター上で落ちることなく宙に留まる風船。目に見えない空気の流れによって浮き続ける、無重力な姿を作り出します。

6. マグ・レール

何も無い天板の上で動くオブジェクト。仕掛けがないように見えても、実は天板の下にある磁気の働きで動いています。目に見えない力で動いている不思議な様子を見せてくれます。

7. ひかりの3原色

白い壁の前に立つと、壁にはカラフルな七色の影が現れます。普段の影の色とは違う色の正体は、赤・緑・青の3色の光。壁には一見、白い光が照らされているように見えますが、この3色の光が混じることのできる白色なのです。光の三原色のしくみを体感できます。

8. FLOWER DISPLAY

"白い造花の中に混在している赤い造花が開くことで図像を表示します。表示に合わせてダイナミックに開閉が移ろっていく様子が見所です。"

9. ピアノを弾くサル

糸を使って人形を操るマリオネット。手で操っていたものもコンピュータを使えば、音に合わせて自動的に動かすことができます。自動制御でも生き物のように演奏する様子をご覧ください。

10. パフォーマンス・オルガン

19世紀にイギリスの化学者セプティマス・ピエスにより考案された香りの音階「香階」からインスパイアを受けた香りのオルガン。音と香りを同時に奏でる世界でも珍しい音楽器です。

11. 図面の中のつくる展

あの作品をどこに置こう、これを置いたらどんな空間になるんだろう。そんな展示の頭の中のイメージを、他の人にも見える形にするためのものが図面です。ここではつくる展の展示図面の中に入って、展示している作品のクイズに答えながらつくる展を巡っていきます。小ネタも満載!

□遊び方 <https://zumen-no-naka.tasko.jp/>

①ツアーが始まったら待機

②クイズが始まるので自分が考える答えの場所に移動する(地面にあるA、Bの位置)

12. ル・ディスコシャンデリア (Le Disco Chandelier Bonsoir)

PCのリズムマシンに連動して光るレトロな電球たち。点滅する光は目を引きつけ、音との組み合わせで視覚的にもリズムを楽しむ表現になります。

13. TASKOの棚から

硬いものから柔らかいもの、自然物から工業製品まで、さまざまな種類の素材を使ってTASKOの作品はできています。ここでは作品になる前の素材感を見比べることができます。

14. ししおどし?!

ししおどしは元々、煙のけもの除けとして、身の回りにあるものを使って作られたものです。溜まる、溢れる、流れていく。ししおどしが生み出している緊張感のある流れる仕組みを、TASKOにあるもので作ってみると...水がなくても無限に楽しめる装置に変身。

15. 礼機ルーブライン

ジオラマで制作した街の中を、光源をつけた電車が走っていくことによって、影としてその街並みを壁に映し出します。壁いっぱい広がる影の街並みの姿は、その街に迷い込んだような没入感を感じさせます。岸野雄一監修のもと、メディアアーティストクワクワポリョウと共同製作した礼機雪まつり出品作品です。

16. 幻灯機

幻灯機は17世紀半ばに登場した投影装置。光とレンズを使って、目の前にあるオブジェクトをスクリーンに映し出すことができます。オブジェクトから直接像を映し出すこの構造ならではの質感は、スマホやテレビで見る映像や画像とは異なる表情をみせてくれます。

※17. オート・オートマ・テ、18. 歌う扇風機、19. ジタバタ電波時計は、大人の科学マガジンの付録を改造したものです。

魔女がやってきた 角野栄子展 作品リスト

No.	作品名	作者	出版社	制作年	材質
■ エントランスホール					
序章 魔女に会った					
1	魔女に会った 表紙	撮影:角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
2	魔女に会った p.26 地図(ルーマニア付近)	角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
3	ニツツアの家の前で3人	撮影:みやこうせい	-	1992年	写真パネル
4	魔女に会った p.29上ニツツアの家	撮影:みやこうせい	福音館書店	1993年	写真パネル
5	メモを取る角野	撮影:みやこうせい	-	1992年	写真パネル
6	みやさん魔女の述懐	撮影:みやこうせい	-	1992年	写真パネル
7	魔女に会った p.30上 薬草にキス	撮影:みやこうせい	福音館書店	1993年	写真パネル
8	魔女に会った p.31・35 上 アヌツア 下 ニツツア	撮影:みやこうせい	福音館書店	1993年	写真パネル
9	角野さんが世界中で集めた魔女の人形20体	-	-	-	人形
10	魔女人形の集合写真	撮影:馬場わか	-	-	タペストリー
11	魔女に会った p.5 地図(ドイツ付近)	角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
12	魔女に会った p.8 プロインリンゲン	撮影:角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
13	魔女に会った p.14 女神と悪魔	撮影:角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
14	魔女に会った p.18・19 ヘルギー猫祭り	撮影:角野栄子	福音館書店	1993年	写真パネル
■ 第一展示室					
第一章 魔女の世界					
15	魔女の宅急便を書くもともになった12歳の娘さんが描いた絵	くぼしまりお	-	1979年	色鉛筆、紙
16	魔女の宅急便 表紙	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
17	魔女の宅急便 扉・p.259 キキ	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
18	魔女の宅急便 p.4-5 ふるさと村	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
19	魔女の宅急便 p.23・26 魔女の洋服	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
20	魔女の宅急便 p.37・34 旅立ち	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
21	魔女の宅急便 p.70・57 看板	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
22	魔女の宅急便 p.109・104 海	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
23	魔女の宅急便 p.120・112 とんぼさん	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
24	魔女の宅急便 p.133・127 洗濯、絵	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
25	魔女の宅急便 p.169・145 少女	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
26	魔女の宅急便 p.159 手紙	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
27	魔女の宅急便 p.213・200 時計台	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
28	魔女の宅急便 p.224・218 列車、楽士	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
29	魔女の宅急便 p.242・229 楽器	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
30	魔女の宅急便 p.256・249 帰郷	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
31	魔女の宅急便 p.260 コリコの街	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
32	魔女の宅急便 もくじ	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
33	魔女の宅急便 p.13・141 幼いきき・洗濯物	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
34	魔女の宅急便 p.177・185 編物・腹巻	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
35	魔女の宅急便 p.11・49 幼いきき・降立つ	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
36	魔女の宅急便 p.98・87 水着・絵描き	林明子	福音館書店	1985年	インク、紙
37	魔女の宅急便 その2 キキと新しい魔法 表紙、扉	広野多珂子	福音館書店	1993年	インク、紙
38	魔女の宅急便 その2 キキと新しい魔法 p.18・37 再会・カバのマルコさん	広野多珂子	福音館書店	1993年	インク、紙
39	魔女の宅急便 その2 キキと新しい魔法 p.352・380 くすりぐさ	広野多珂子	福音館書店	1993年	インク、紙
40	魔女の宅急便 その3 キキともうひとりの魔女 表紙、扉	佐竹美保	福音館書店	2000年	インク、紙
41	魔女の宅急便 その3 キキともうひとりの魔女 p.63 杉並木のトンネル	佐竹美保	福音館書店	2000年	インク、紙
42	魔女の宅急便 その3 キキともうひとりの魔女 p.89 むかし屋	佐竹美保	福音館書店	2000年	インク、紙
43	魔女の宅急便 その3 キキともうひとりの魔女 p.294・295 コリコの街 夜	佐竹美保	福音館書店	2000年	インク、紙
44	魔女の宅急便 その4 キキの恋 表紙・p.98 田返り	佐竹美保	福音館書店	2004年	インク、紙
45	魔女の宅急便 その4 キキの恋 p.48・72・283 ヤアくん・ミミさん・コキリさん	佐竹美保	福音館書店	2004年	インク、紙
46	魔女の宅急便 その5 魔法のとまり木 表紙・p.75 『大波商会さん』	佐竹美保	福音館書店	2007年	インク、紙
47	魔女の宅急便 その5 魔法のとまり木 p.13・30・31 スー・スー・アメ・ライちゃん・『おきよめ』のうた	佐竹美保	福音館書店	2007年	インク、紙
48	魔女の宅急便 その5 魔法のとまり木 p.123 ウイさん	佐竹美保	福音館書店	2007年	インク、紙
49	魔女の宅急便 その5 魔法のとまり木 p.269 キキととんぼさん	佐竹美保	福音館書店	2007年	インク、紙
50	魔女の宅急便 その6 それぞれの旅立ち 表紙・p.332 ニニとプブ	佐竹美保	福音館書店	2009年	インク、紙
51	魔女の宅急便 その6 それぞれの旅立ち p.59・232・314 トとニニ、ほうき楽器、おソノさんとニニ	佐竹美保	福音館書店	2009年	インク、紙
52	魔女の宅急便 その6 それぞれの旅立ち p.370 嵐のなかお産の馬を運ぶニニ	佐竹美保	福音館書店	2009年	インク、紙
53	魔女からの手紙 表紙、裏表紙、カバそで	荒井良二	ポプラ社	1997年	-
54	魔女からの手紙 見開き扉	荒井良二	ポプラ社	1997年	-
55	魔女からの手紙 見返し	荒井良二	ポプラ社	1997年	-
56	魔女からの手紙 もくじ	荒井良二	ポプラ社	1997年	-
57	魔女からの手紙 飾り紙	荒井良二	ポプラ社	1997年	-
58	魔女からの手紙 ミミちゃんまじょちゃんより	ディック・ブルーナ	ポプラ社	1997年	アクリルポスター、色紙
59	魔女からの手紙 ボウシちゃんより	いとうひろし	ポプラ社	1997年	アクリルガッシュ

No.	作品名	作者	出版社	制作年	材質
60	魔女からの手紙 ユーリより	大島妙子	ポプラ社	1997年	オイルパステル
61	魔女からの手紙 ドクター・ドールより	鴨沢祐仁	ポプラ社	1997年	-
62	魔女からの手紙 ワヤコより	和田誠	ポプラ社	1997年	ガッシュ
63	魔女からの手紙 ライより	市川里美	ポプラ社	1997年	水彩絵の具
64	魔女からの手紙 カラより	五味太郎	ポプラ社	1997年	カラーインク
65	魔女からの手紙 スープおばさんより	黒井健	ポプラ社	1997年	色鉛筆
66	魔女からの手紙 アリヤより	橋本淳子	ポプラ社	1997年	-
67	魔女からの手紙 オッレより	国井節	ポプラ社	1997年	-
68	魔女からの手紙 ピチカより	高林麻里	ポプラ社	1997年	水彩
69	魔女からの手紙 トンボリ工衆一同より	宇野亜喜良	ポプラ社	1997年	-
70	魔女からの手紙 イシコより	西巻茅子	ポプラ社	1997年	クレヨン
71	魔女からの手紙 うさぎより	杉浦範茂	ポプラ社	1997年	アクリル絵の具
72	魔女からの手紙 魔女屋からのおしらせ	スーザン・バーレイ	ポプラ社	1997年	-
73	魔女からの手紙 金曜日連より	太田大八	ポプラ社	1997年	-
74	魔女からの手紙 ワレッカチャより	スズキコージ	ポプラ社	1997年	水彩ガッシュ
75	魔女からの手紙 おわりのばあさんより	長新太	ポプラ社	1997年	ガッシュ
76	サラダでげんき 12点	長新太	福音館書店	1981年頃	-
77	『魔女の宅急便』1～6巻テーマ別編集「キキ」の表情 『おしゃれしたい』	画:林明子・広野多珂子・佐竹美保 撮影:吉岡一生	福音館書店	-	複製原画
78	『魔女の宅急便』1～6巻テーマ別編集「キキ」の表情 『ゆれる心』	画:林明子・広野多珂子・佐竹美保 撮影:吉岡一生	福音館書店	-	複製原画
79	『魔女の宅急便』1～6巻テーマ別編集「キキ」の表情 『飛ぶ 跳ぶ 翔ぶ』	画:林明子・広野多珂子・佐竹美保 撮影:吉岡一生	福音館書店	-	複製原画
80	『魔女の宅急便』1～6巻テーマ別編集「キキ」の表情 『魔法はひとつ』	画:林明子・佐竹美保 撮影:吉岡一生	福音館書店	-	複製原画

■ 第二展示室

第二章 おばけの世界					
81	スバグッティがたべたいよう p33・16(「角野栄子のちいさなどうわたち1より」)	佐々木洋子	ポプラ社	2007年	カラーインク、色鉛筆
82	おばけのアッチとドララちゃん 表紙 p.4-5	佐々木洋子	ポプラ社	2010年	カラーインク、色鉛筆
83	おばけのアッチとドララちゃん p.22-23・P.44-45	佐々木洋子	ポプラ社	2010年	カラーインク、色鉛筆
84	おばけのアッチとドララちゃん p.76-77	佐々木洋子	ポプラ社	2010年	カラーインク、色鉛筆
85	おばけのアッチとドラキュラスープ 表紙 p.22-23	佐々木洋子	ポプラ社	2013年	カラーインク、色鉛筆
86	おばけのアッチとドラキュラスープ p.41・48・44-45	佐々木洋子	ポプラ社	2013年	カラーインク、色鉛筆
87	おばけのアッチパン・パン・パンケーキ 表紙 p.2-3	佐々木洋子	ポプラ社	2015年	カラーインク、色鉛筆
88	おばけのアッチパン・パン・パンケーキ p.58-59・p.78-79	佐々木洋子	ポプラ社	2015年	カラーインク、色鉛筆
89	おばけのアッチとくものパンやさん 表紙 p.2-3	佐々木洋子	ポプラ社	2018年	カラーインク、色鉛筆
90	おばけのアッチとくものパンやさん p.34-35・p.70-71	佐々木洋子	ポプラ社	2018年	カラーインク、色鉛筆
91	おばけのアッチスバグッティ・ノックダウン 表紙 裏表紙p.20-21	佐々木洋子	ポプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
92	おばけのアッチスバグッティ・ノックダウン p.44-45・p.60-61	佐々木洋子	ポプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
93	アッチとドッチのフルーツポンチ 表紙 裏表紙 p.46-47	佐々木洋子	ポプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
94	アッチとドッチのフルーツポンチ p.66-67・68-69	佐々木洋子	ポプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
95	おばけのアッチおもちでおめでとう 表紙 裏表紙 p.36-37	佐々木洋子	ポプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
96	おばけのアッチおもちでおめでとう p.50-51・69-71	佐々木洋子	ポプラ社	2019年	カラーインク、色鉛筆
97	おばけのアッチコロックとうさん 表紙 裏表紙 p.30-31	佐々木洋子	ポプラ社	2020年	カラーインク、色鉛筆
98	おばけのアッチコロックとうさん p.4・43・62-63	佐々木洋子	ポプラ社	2020年	カラーインク、色鉛筆
99	おばけのアッチコロックとうさん p.78-79	佐々木洋子	ポプラ社	2020年	カラーインク、色鉛筆
100	お日さまいろのスバグッティ	佐々木洋子	ポプラ社	-	食玩
101	いもむしグラタン	佐々木洋子	ポプラ社	-	食玩
102	もりもりパンケーキ	佐々木洋子	ポプラ社	-	食玩
103	国際アンデルセン賞受賞 メダル	-	-	2018年	-
104	国際アンデルセン賞受賞 賞状	-	-	2018年	-

■ 第三展示室

角野栄子 創作のひみつ					
105	角野栄子自筆の絵 ホウキと少女	角野栄子	-	-	水彩
106	手紙類(ブラジル⇄日本)	角野栄子	-	1959年	-
107	スケッチブック	角野栄子	-	-	-
108	黒筆の手帖 「魔女の取材手帳」	角野栄子	-	1992年	-
109	黒筆の手帖 「イギリス滞在記」	角野栄子	-	1986年	-
110	創作ノート 水玉模様	角野栄子	-	-	-
111	創作ノート 格子模様	角野栄子	-	-	-
112	生原稿 ルイジニョ少年 ブラジルをたずねて	角野栄子	ポプラ社	1970年	-
113	生原稿 魔女の宅急便	角野栄子	福音館書店	1985年	-
114	いろはにほほほ 48点	角野栄子	アリエスブックス	2017年	カラーサインペン、水性マーカー

～展示された角野さんの絵本のご紹介～

『魔女の宅急便』 福音館書店

魔女の世界のきまりに従い、13歳で両親のもとを旅立ったキキは、ほうきに乗って空を飛ぶという、自分にできる唯一の魔法を使い、相棒の黒猫ジジとともに宅急便の仕事をはじめます。海辺の大きな町・コリコでキキが運ぶのは、その〈もの〉に込められた、人の思いや記憶などで、贈る人、受け取る人、様々な人々に出会い、いろいろなことを経験しながら、自分の本当の気持ちやなりたいたいの自分の姿を見つけていきます。

6巻にもおよぶ長い物語の中で、13歳の少女だったキキは、やがて結婚してふたりの子どもを持つ35歳の母親となり、その子どもたちが自立していく様子も描かれます。ファンタジーでありながら、仕事を楽しみ、時には自信をなくし、恋愛や生き方に悩みつつ前に進んで行くキキの姿は、読者に身近な存在として共感を集め、いまでも愛され続けています。

『魔女からの手紙』 ポプラ社

ある女の子のもとに魔女たちが手紙を送った、という設定で作られた絵本です。

表紙の絵を手がけた荒井良二のほか、ディック・ブルーナ、スズキコージ、長新太、西巻茅子など、角野と交流のある20人の画家が、魔女をテーマに絵を描き、それぞれの絵のイメージに合わせて角野が手紙形式で物語を紡ぎました。普通の絵本作りではテキストを先に考えるため、絵が先になるのは珍しいとのこと。2008年にはシリーズの続編となる『ちいさな魔女からの手紙』が刊行され、新たに20人の画家が魔女を描きました。

『サラダでげんき』 福音館書店

病気になったおかあさんのために、主人公のりっちゃんサラダを作っていると、ねこ、いぬ、すずめ、あり、うまが次々とやってきて、サラダ作りのアドバイスをします。ついには、北極からしろくまの電報が届き、最後にはそうが飛行機でやってきます。みんなが手伝ってくれたおかげで、おいしいサラダが出来上がります。りっちゃんのおかあさんは、サラダを食べてたちまち元気になりました。

『アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズ』 ポプラ社

町一番のレストランの屋根裏に暮らす食いしん坊なおばけのアッチが、スパゲッティを作っていた女の子エッチちゃんと出会い、作り方を教えてもらうところから物語ははじまります。

仲間の小さなおばけには床屋さんに住むおしゃれなコッチ、飴屋のおばあさんと暮らす歌の好きなソッチがいますが、これらの名前は角野の娘が小さい頃、自分が作ったお話を始める際に必ず「あっちにいてね、こっちにいてね、そっちにいてね」と口にしてたことと関係しています。ほかにも、食いしん坊なのねこのボン、いたずら好きなネズミの子とキ、ドラキュラの孫娘のドララちゃんといった多彩なキャラクター、独特なおノマトペや楽しい歌とともに紹介される美味しそうな料理などが子どもたちの心を掴み、作品は40年以上、世代を超えて愛され続けています。

『いろはにほほほ』 アリエスブックス

角野さんがはじめて文と作画どちらも手がけた、ことばあそび絵本です。

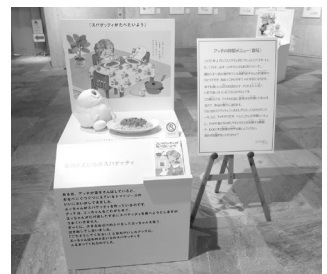
いぬはおしゃれさん。ろうそくのおばさんロックンローラー。はがわらったははははは。など、リズムカルで、思わず声に出したくなるようなことばと、いきいきとした絵がつまっています。こどもも大人もクスッと笑ってしまう、ユーモアあふれる作品です。



ワークショップ風景



ワークショップ風景



第76回県美展酒田巡回展・第63回こども県展

会 期／令和3年11月10日(水)～11月15日(月)
 主 催／公益財団法人さかた文化財団・山形新聞・
 山形放送・県美術連盟
 共 催／酒田市・酒田市教育委員会
 担 当／学芸主任 武内 治子
 入場者数／1,701人

◎展覧会趣旨

今年も「県美展」酒田巡回展の季節がやってまいりました。本展は今年で76回目をかぞえる県内では最大の公募展であり、県内在住の芸術家たちの創作発表の場として、長年地域の芸術文化の振興に大きな役割を果たしてきました。

庄内地方からも毎年多くの入選者が出ており、今年の酒田巡回展では、日本画・洋画・彫刻・工芸の4部門で、入賞7名、入選30名、無鑑査・委嘱9名の方々を含む、総点数138点が展示されました。

また、県美展と同時期に開催される「第63回こども県展」には、317点の作品が展示されました。



76 令和3年度県民芸術祭特別参加



第76回県美展酒田巡回展

令和3年 11月10日(水) — 11月15日(月) 会期最終日

■第63回こども県展

会場 酒田市美術館

TEL 0234-31-0095

開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般 550円(440円) 高校生 270円(220円)

中学生以下無料 ()内は20名以上の団体料金

お得な年券も利用できます。(1年間有効で3,300円・3名まで観覧可)

主催 公益財団法人さかた文化財団/山形新聞/山形放送/県美術連盟

共催 酒田市/酒田市教育委員会

今年も「県美展」酒田巡回展の季節がやってまいりました。本展は今年で76回目をかぞえる県内では最大の公募展であり、県内在住の芸術家たちの創作発表の場として、長年地域の芸術文化の振興に大きな役割を果たしてきました。庄内地方からも毎年多くの入選者が出ており、今年の酒田巡回展では、日本画・洋画・彫刻・工芸の4部門で、入賞7名、入選30名、無鑑査・委嘱9名の方々を含む、総点数138点が展示されます。また、県美展と同時期に開催される「第63回こども県展」には、317点の作品が展示されます。県美展とあわせて、ご家族おそろいでご覧ください。なお会場のご案内により、「県美展」酒田巡回展、「こども県展」とともに、巡回作品のすべてを展示できませんことを何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

●県美展

日本画

洋画

彫刻

工芸

無鑑査

委嘱

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

入選

入賞

●こども県展

【こども県賞】

渡邊 湊斗/酒田市・天島幼稚園年中

堀田 未来/庄内町立糸島第三小学校1年

佐藤 颯汰/庄内町立藤岡小学校5年

池田 亮希/酒田市立島海小学校4年

榎谷 ゆり/酒田市・若菜幼稚園年少

榎原 英知/庄内町立藤岡小学校4年

阿部 心登/鶴岡市・常念寺保育園年中

佐藤 梨実/酒田市立浜中小学校2年

佐藤 遥輝/庄内町立藤岡小学校2年

五十嵐愛花/酒田市立松原小学校3年

阿部 未羽/酒田市立東部中学校3年

ほか、入選者多数



Sakata City Museum of Art
 酒田市美術館
 〒998-0055 山形県酒田市中山三丁目17-95
 TEL 0234-31-0095
 URL http://www.sakata-art-museum.jp



池袋モンパルナス—画家たちの交差点— 作品リスト

順路 No	作品名	作家名	制作年 (月日)	収蔵
----------	-----	-----	-------------	----

第1章 池袋モンパルナスと小熊秀雄				
1	夕陽の立教大学	小熊秀雄	1935年	豊島区
2	すみれ	小熊秀雄	1930年代	豊島区
3	長崎アトリエ工村	小熊秀雄	1930年代	豊島区
4	東長崎風景(電線のある風景)	小熊秀雄	1930年代	豊島区
5	板橋風景	小熊秀雄	1937年	豊島区
6	アトリエ工村(1)	小熊秀雄	1930年代	豊島区
7	アトリエ工村(2)	小熊秀雄	1930年代	豊島区
8	立教大学(2)	小熊秀雄	1937年	豊島区
9	カフェ(2)	小熊秀雄	1936年	豊島区
10	女給と学生	小熊秀雄	1930年代	豊島区
11	ケンカ	小熊秀雄	1930年代	豊島区

第2章 画家たちが描いた肖像画・風景画				
12	激情(自画像)	小熊秀雄	1930年代	豊島区
13	寺田政明像(2)	小熊秀雄	1930年代	豊島区
14	小熊秀雄像	寺田政明	1935年	豊島区
15	自画像	寺田政明	1936年1月	豊島区
16	寺田君	麻生三郎	1942年	板橋区立美術館
17	自画像	麻生三郎	1934年	豊島区
18	麻生三郎	平澤熊一	1945年4月5日	豊島区
19	自画像	大野五郎	1928年	個人蔵(板橋区立美術館寄託)
20	自画像	高山良策	1945年頃	板橋区立美術館
21	長谷川利行	吉井忠	1968年	豊島区
22	鬚光像	長谷川利行	1928年	個人蔵(板橋区立美術館寄託)
23	自画像	齋藤求	1941年	豊島区
24	バルテノンへの道	齋藤求	1971年	豊島区
25	東長崎付近	春日部たすく	1927年3月	豊島区
26	池袋駅前豊島師範通り	春日部たすく	1928年	豊島区
27	建物のある風景	田中佐一郎	1935年頃	板橋区立美術館
28	風雨の朝(豊島長崎付近)	寺田政明	1940年代	板橋区立美術館
29	長崎町のアトリエ	麻生三郎	1944年	豊島区
30	池袋	田中佐一郎	1947年	板橋区立美術館
31	池袋への道	鶴田吾郎	1946年	豊島区
32	池袋駅東口	高山良策	1947年	豊島区
33	1948年	高山良策	1949年3月	板橋区立美術館
34	アトリエ工村	樽松正利	1960年	豊島区

第3章 池袋モンパルナスの画家たち				
35	四人裸婦	長谷川利行	1935年	豊島区
36	支那の白服	長谷川利行	1939年	板橋区立美術館
37	水泳場	長谷川利行	1932年	板橋区立美術館
38	職工	里見勝蔵	1917年	豊島区

■池袋美術家クラブの結成				
39	黄衣の少女	田中佐一郎	1931年	板橋区立美術館
40	雲湧く山	桑原実	1938年	豊島区
41	ヴィナスと少年	難波田龍起	1936年	板橋区立美術館
42	二つの踊り	難波田龍起	1936年	板橋区立美術館
43	古代の人	難波田龍起	1940年	板橋区立美術館
44	裸婦	竹中三郎	1934年頃 (1978年加筆)	板橋区立美術館
45	男と女	吉原義彦	1926年	板橋区立美術館
46	裸婦	田中佐一郎	1931年	豊島区
47	海辺の花束	寺田政明	1936年	個人蔵(板橋区立美術館寄託)
48	夜(眠れる丘)	寺田政明	1938年	板橋区立美術館
49	蒼暮	古沢岩美	1937年 (1982年再制作)	板橋区立美術館
50	夜の花	古沢岩美	1943年	板橋区立美術館

■新人画会				
51	異国の子	大野五郎	1936年	板橋区立美術館
52	鉄橋近く	松本竣介	1943年	板橋区立美術館
53	りんご	松本竣介	1944年	個人蔵(板橋区立美術館寄託)
54	一子像	麻生三郎	1944年	板橋区立美術館
55	女	麻生三郎	1944年	板橋区立美術館
56	たけのこ	寺田政明	1943年	板橋区立美術館
57	風景(暮れる港)	寺田政明	1943年	豊島区

■様々な団体の作家たち				
58	父と子	福沢一郎	1937年	板橋区立美術館
59	静物(骨と布)	井上長三郎	1935年	板橋区立美術館
60	トリオ	井上長三郎	1943年	板橋区立美術館
61	上野山下風景	野田英夫	1938年	板橋区立美術館
62	ノートルダム	吉井忠	1937年	豊島区
63	祠	吉井忠	1928年	豊島区
64	地割れのある風景(風景A)	大塚睦	1940年	板橋区立美術館

順路 No	作品名	作家名	制作年 (月日)	収蔵
----------	-----	-----	-------------	----

65	歩兵(エスキース)	柿手春三	1936年	板橋区立美術館
66	水辺	真鍋(金子)英雄	1941年	板橋区立美術館
67	カーネーション	小川原脩	1941年	板橋区立美術館
68	ヴィナス	小川原脩	1939年	板橋区立美術館
69	夢	樽松正利	1940年	豊島区
70	市の女達(海南島)	齋藤求	1943年	豊島区
71	ウェイター	齋藤求	1931年	豊島区
72	黄昏の憂鬱	浜松小源太	1941年	板橋区立美術館
73	世紀の系図	浜松小源太	1938年	板橋区立美術館
74	廃墟	佐田勝	1945年	板橋区立美術館
75	廃墟A(戦利品A)	佐田勝	1939年	板橋区立美術館

■戦後の池袋モンパルナス				
76	そこあさり	山下菊二	1955年	豊島区
77	才時間デスヨ	山下菊二	1950年	板橋区立美術館
78	孤児	大塚睦	1946年	豊島区
79	ハンスト	大塚睦	1949年	板橋区立美術館
80	囃	大塚睦	1949年	板橋区立美術館
81	ガラス工場	高山良策	1957年	板橋区立美術館
82	帰る	高山良策	1955年	板橋区立美術館
83	煙突とにわとり	桂川寛	1958年	豊島区
84	開花期	桂川寛	1950年	豊島区
85	新炭(戦時配給)	入江比呂	1942年	板橋区立美術館
86	群(米よこせ)	入江比呂	1946年	板橋区立美術館

第4章 池袋モンパルナスと開催館(酒田市美術館)ゆかりの画家				
87	冬景色	齋藤長三	1942年	酒田市美術館
88	酒田港口	齋藤長三	1951年	酒田市美術館
89	秋・収穫	齋藤長三	1944年	酒田市美術館
90	秋・野の食事	齋藤長三	1944年	酒田市美術館
91	変電所附近	齋藤長三	1949年	酒田市美術館
92	国電池袋駅	齋藤長三	1953年	酒田市美術館
93	飢餓	今井繁三郎	1985年	今井アートギャラリー
94	鳥と遊ぶ	今井繁三郎	1974年	今井アートギャラリー
95	稲田	今井繁三郎	1978年	今井アートギャラリー
96	田園	今井繁三郎	1978年	今井アートギャラリー
97	野仏	今井繁三郎	制作年不詳	今井アートギャラリー

資料 No	作品名	制作年 (月日)	収蔵
----------	-----	-------------	----

1	さくらが丘バルテノン	1948年	樽松正利氏提供
2	番地界入東京府北豊嶋郡長崎町全図	1929年	豊島区立郷土資料館
3	写真/左から井上長三郎、松本竣介、麻生三郎、豊田猛、真鍋(金子)英雄(麻生三郎のアトリエにて)	1944年	板橋区立美術館
4	小熊秀雄遺作展覧会案内パンフレット	1941年	板橋区立美術館
5	第1回池袋美術家クラブ展覧会 目録	1936年	板橋区立美術館
6	池袋美術研究所 ポスター	1951年	板橋区立美術館
7	美術文化協会第1回展 集合写真(美術文化)4月号より(東京府美術館玄関にて)	1940年 4月19日	板橋区立美術館
8	美術文化協会第2千六百年奉祝展案内状(美術文化協会)	1940年	板橋区立美術館
9	鬚光さんのオブジェ	1935年	板橋区立美術館
10	写真/左から井上長三郎、寺田政明、鬚光	不詳	板橋区立美術館
11	写真/左から福沢一郎、寺田政明(福沢一郎邸にて、吉井忠撮影)	不詳	板橋区立美術館
12	第1回新人画会展 案内はがき	1943年	板橋区立美術館
13	第2回新人画会展 案内はがき	1943年	板橋区立美術館
14	4人展 案内はがき	1955年	板橋区立美術館
15	4人展 作品目録	1955年	板橋区立美術館

No	作品名	作家名	制作年 (月日)	収蔵
----	-----	-----	-------------	----

連携展示 東北芸術工科大学 「東北画は可能か？」				
98	山麓	白幡進	2017年	東北芸術工科大学
99	瑞雲たむけ(美しき神の山 出羽三山)	佐藤定雄	2017年	東北芸術工科大学
100	獅子とひよっこ	小泉洋	2017年	東北芸術工科大学
101	黒川能事豆腐焼き	牧小静	2017年	東北芸術工科大学
102	春を待つ	小玉とみ子	2017年	東北芸術工科大学
103	生きる力	今野いづみ	2017年	東北芸術工科大学
104	祈りと信仰のはじまり	佐藤秀子	2017年	東北芸術工科大学
105	子供達の黒森歌舞伎	志田永子	2017年	東北芸術工科大学
106	依雪	小澤紀美	2017年	東北芸術工科大学
107	遥かな記憶	菅進	2017年	東北芸術工科大学
108	そして、明けゆく	山田雄輝	2017年	東北芸術工科大学
109	道をたどる	川合南菜子	2017年	今井アートギャラリー
110	遠慮歩荷	かちにいず	2019年	東北芸術工科大学

1. 展覧会事業 (3)常設展示／令和3(2021)年度

《市民ギャラリー》

1期 令和4年1月26日～2月6日 酒田飽海地区子ども美術展

《エントランス》

1期 令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】高橋剛作品
2期 令和4年2月11日～3月13日 【収蔵品展】佐藤昌祐作品

《企画展示室》

1期 令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】高橋剛作品
2期 令和4年2月11日～3月13日 【収蔵品展】佐藤昌祐作品

《展示ホール》

1期 令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】高橋剛作品
2期 令和4年2月11日～3月13日 【収蔵品展】佐藤昌祐作品

《常設展示室Ⅰ》

1期 令和4年1月15日～2月6日 【収蔵品展】佐藤公紀作品、伊藤喜久井作品 他
2期 令和4年2月11日～3月13日 【収蔵品展】今井繁三郎作品、國領経郎作品 他

《常設展示室Ⅱ》

1期 令和3年3月20日～7月9日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、小林功 他
2期 令和3年7月17日～10月17日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、加山又造 他
3期 令和3年10月24日～令和4年1月10日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、丸木位里 他
4期 令和4年1月15日～3月13日 【新田嘉一コレクション】 森田茂、鈴木シン一 他

《回廊》

1年を通して 令和3年4月1日～
令和4年1月15日～2月6日 【酒田市所蔵作品】高橋剛作品
【収蔵品展】ひろし高橋作品



収蔵品展Ⅰ



収蔵品展Ⅰ デッサン会



収蔵品展Ⅱ

2. 教育普及事業 令和3(2021)年度

◇ワークショップ

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
今森光彦「自然と暮らす 切り紙の世界」展	5月22日(土) ①午前11時 ②午後2時	『今森光彦 切り紙ワークショップ』 講師:今森光彦氏(写真家、切り絵作家) 会場:市民ギャラリー	47人
魔女がやってきた 角野栄子展	10月3日(日) 午後1時45分～4時	『魔法をえがこう-おまじないお絵かき-』 講師:イシザワエリ氏 (アートワークショップデザイナー) 会場:市民ギャラリー、美術館中庭	10人
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス 一画家たちの交差点一	12月5日(日) ①午前10時30分 ②午後2時	『絵の具でトントン!ふしぎなせかい』 講師:松村泰三氏(東北芸術工科大学准教授) 会場:ミーティングルーム	32人
酒田市美術館収蔵品 生誕100年高橋剛展	1月30日(日) 午後1時30分～4時	『冬の酒美でデッサン会』 会場:美術館内	2人
	2月6日(日) 午後1時30分～4時		2人

◇ギャラリートーク

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
魔女がやってきた 角野栄子展	10月17日(日) 午後2時	臨時「ギャラリートーク」 講師:井上瑠菜(学芸員) 会場:美術館内	25人
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス 一画家たちの交差点一	11月20日(土) 午後1時	「ギャラリートーク」 講師:武内治子(学芸主任) 会場:美術館内	10人
	11月27日(土)、28日(日) ①午前11時 ②午後2時		12人(27日) 19人(28日)
酒田市美術館収蔵品 生誕100年佐藤昌祐展	3月12日(土) 午後2時～3時	「ギャラリートーク」 講師:川島崇史氏(酒田市社会教育文化課) 会場:美術館内	14人

◇その他企画

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
つくる展 —TASKOファクトリーの ひらめきをかたちに—	8月18日(水)	つくる展 入館者数1万人達成記念	-
魔女がやってきた 角野栄子展	9月4日(土)～ 10月17日(日)	自由参加型ワークショップ みんなでつくろう『魔女の思い出ワンピース』	-
	9月4日(土)～ 10月17日(日)	自由参加型ワークショップ 『教えて!叶えて!見て聞いて!魔女への手紙』	-
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス 一画家たちの交差点一	12月19日(日) 午後2時	高校生×劇団ワンライブによる詩の朗読会	22人
公益財団法人 さかた文化財団設立記念 講演会	12月19日(日) 午後2時～3時30分	松戸市戸定歴史館名誉館長・齊藤洋一氏による講演会 「渋沢栄一の視点から見るもう一つの幕末明治 —敗者となった将軍と幕臣たちの奮闘—」	100人
酒田市美術館収蔵品 生誕100年佐藤昌祐展	2月27日(日) 午後2時～3時	修復家・米田奈美子氏による講演会	17人

【「教職員視察ウィーク」の実施】（期間中の教職員に対する入館料減免とアンケートの記入）

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
今森光彦「自然と暮らす 切り紙の世界」展	5月22日～5月28日	酒田市内の保育園・幼稚園・小中高等学校・特別 支援学校・産業技術短期大学校庄内校・東北公益 文科大学に勤務する教職員（臨時職員、講師でも 可）の入館料を減免し、アンケートに答えてもら う。	9人
魔女がやってきた 角野栄子展	9月4日～9月10日		16人
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス —画家たちの交差点—	11月20日～11月26日		2人

◇スクールプログラム/主催：酒田市教育委員会（29回、777名）

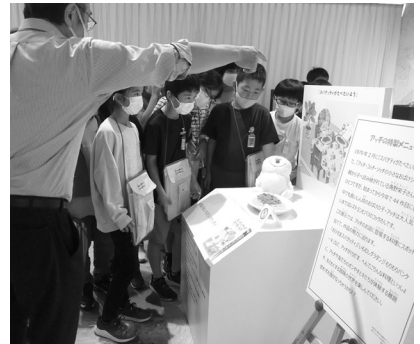
展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
今森光彦「自然と暮らす 切り紙の世界」展	亀ヶ崎小学校・2年	6月3日(木)9:35～10:20	28名
	黒森小学校・1、2年	6月7日(月)10:00～11:00	16名
	亀ヶ崎小学校・2年	6月10日(木)9:35～10:20	25名
	平田小学校・2年	6月10日(木)10:50～11:40	21名
	亀ヶ崎小学校・2年	6月17日(木)9:25～10:10	29名
	南平田小学校・2年	6月17日(木)10:40～11:25	39名
	西荒瀬小学校・1年	6月24日(木)10:50～11:20	21名
	一條小学校・2年	6月29日(火)10:00～10:45	11名
	西荒瀬小学校・2年	6月30日(水)10:50～11:20	29名
	琢成小学校・2年	7月1日(木)10:30～11:30	32名
魔女がやってきた 角野栄子展	南平田小学校・4年	9月15日(水)9:00～9:45	36名
	八幡小学校・4年	9月16日(木)9:00～9:45	22名
	西荒瀬小学校・4年	9月16日(木)10:40～11:25	18名
	西荒瀬小学校・3年	9月17日(金)10:50～11:20	27名
	平田小学校・3年	9月24日(金)10:00～11:00	21名
	琢成小学校・4年	10月4日(月)10:30～11:40	29名
	琢成小学校・3年	10月5日(火)10:30～11:40	21名
	黒森小学校・3、4年	10月7日(木)9:50～11:10	18名
	浜中小学校・3、4年	10月11日(月)10:00～11:00	17名
浜中小学校・5、6年	10月13日(水)10:00～11:00	23名	
板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス —画家たちの交差点—	琢成小学校・5年	11月24日(水)10:30～11:50	31名
	第六中学校・1年	11月25日(木)9:00～10:15	30名
	第六中学校・1年	11月25日(木)11:00～12:15	29名
	西荒瀬小学校・6年	11月26日(金)10:40～11:25	18名
	南平田小学校・6年	12月2日(木)10:35～11:20	53名
	十坂小学校・6年	12月8日(水)10:00～11:00	37名
	第六中学校・1年	12月9日(木)9:00～10:15	34名
	第六中学校・1年	12月9日(木)11:00～12:15	39名
	西荒瀬小学校・5年	12月16日(木)10:40～11:25	23名



スクールプログラム風景（今森光彦展）



スクールプログラム風景（角野栄子展）



スクールプログラム風景（角野栄子展）



ワークショップ風景（角野栄子展）



スクールプログラム風景
（池袋モンパルナス展）



スクールプログラム風景
（池袋モンパルナス展）



ワークショップ風景
（池袋モンパルナス展）



飽海地区子ども美術展展示風景



飽海地区子ども美術展展示風景



ワークショップ完成作品
（池袋モンパルナス展）



詩の朗読会本番当日
（池袋モンパルナス展）



詩の朗読会練習風景
（池袋モンパルナス展）

3. 市民ギャラリー利用状況 令和3(2021)年度

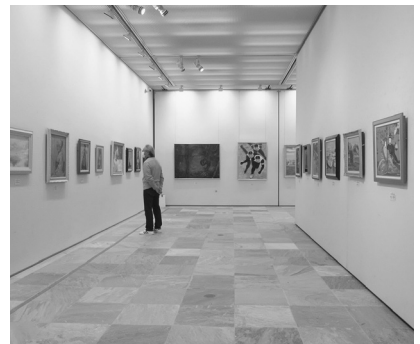
展覧会名	会期	会期日数	入館者数
茂木玲子写真展「魚と街」	令和3年4月1日(木)～4月4日(日)	4日	233
第18回菅原真理子キルトスクエア展	令和3年4月19日(月)～4月25日(日)	7日	822
アトリ絵の会作品展「ジオパークを描く」	令和3年4月26日(月)～5月2日(日)	7日	490
菅原雪嶺書作展【書の楽しさを追い続ける】	令和3年5月3日(月)～5月6日(木)	4日	380
岸洋子回顧展～生誕88年・30回忌～	令和3年5月24日(月)～5月30日(日)	7日	838
第25回箏翠会会員展	令和3年6月21日(月)～6月27日(日)	7日	417
第20回東邦書道会庄内支部会展	令和3年6月30日(水)～7月4日(日)	5日	403
第29回酒田如月水墨画会展	令和3年9月6日(月)～9月12日(日)	7日	453
佐藤タカヒコ漫画原画展	令和3年9月14日(火)～9月26日(日)	13日	1,640
第65回酒田市民美術展	令和3年10月24日(日)～10月30日(土)	7日	681
山岳写真家 白旗史朗「名峰鳥海山の四季」セレクション&鳥海山・飛鳥ジオパークの魅力展	令和4年3月1日(火)～3月13日(日)	12日	333
11展示		80日間	6,690人



茂木玲子写真展「魚と街」



第18回菅原真理子キルトスクエア展



アトリ絵の会作品展「ジオパークを描く」



菅原雪嶺書作展【書の楽しさを追い続ける】



岸洋子回顧展～生誕88年・30回忌～



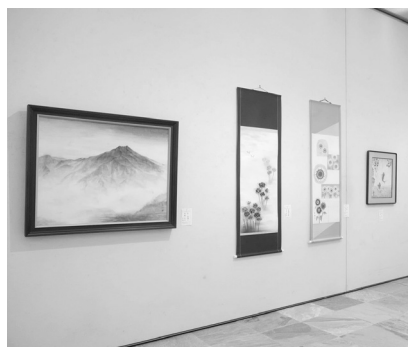
第25回箏翠会会員展

4. 入館状況 令和3(2021)年度

展覧会名	会期	一般	高・大学生	小・中学生	会員券・招待 視察等	計 (人)
アンティークドールの夢展	令和3年3月20日～5月16日	744	17	75	1,819	2,655
今森光彦 「自然と暮らす切り紙の世界」展	5月22日～7月9日	1,121	7	239	2,694	4,061
つくる展 —TASKOファクトリーの ひらめきをかたちへ—	7月17日～8月29日	6,216	155	2,936	3,899	13,206
魔女がやってきた 角野栄子展	9月4日～10月17日	1,964	41	344	3,121	5,470
第76回県美展酒田巡回展・ 第63回こども県展	11月10日～11月15日	657	10	164	870	1,701
令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・ 豊島区所蔵 池袋モンパルナス —画家たちの交差点—	11月20日～令和4年1月10日	572	4	46	1,483	2,105
酒田市美術館収蔵品 生誕100年高橋剛展	1月15日～2月6日	116	3	11	939	1,069
酒田市美術館収蔵品 生誕100年佐藤昌祐展	2月11日～3月13日	187	4	12	506	709



第20回東邦書道会庄内支部会展



第29回酒田如月水墨画会展



市民美術展展示風景



山岳写真家 白旗史朗「名峰鳥海山の四季」
セレクトション&鳥海山・飛島ジオパーク
の魅力展

2020 2021
令和2年度～令和3年度

展覧会ポスター



生誕100年
國領経郎展
— 静寂なる砂の景 —
2020年3月7日(土)~4月12日(日)

休館日：3月中は月曜日休館、4月からは無休
時 間：午前9時~午後5時(最終入館は午後4時30分)
観 覧 料：一般900円(800円)、大学・高校生450円(400円)、中学生以下無料
※()内は2名以上の団体料金
※お申込みは、2名以上で3名様まで1年間有効でもご利用できます(3月末日入館)。
4月から入館する場合は、3,500円での入館料でもご利用できます。

主 催：公益財団法人酒田市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
共 催：酒田市、酒田市教育委員会
監 修：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
特別協力：横浜美術館、岡田経郎顕彰会

酒田市美術館
〒998-8505 読売新聞ビル1階(〒998-8505 酒田市中央1-1-1)
TEL: 023-831-0295
URL: www.sakata-art-museum.jp

KOKURYŌ Tsunerō : Commemorating the 100th Anniversary of His Birth — The Quiet Scenery with Sand —

生誕100年 國領経郎展 —静寂なる砂の景—



高砂淳二 写真展
Dear Earth
2020.7.18 sat. > 8.30 sun.

観覧料：一般900円、高校生450円・中学生以下無料
※高砂の周遊：団体での入館はみれど、ご了承ください。
休館日：会期中無休
時 間：9:00-17:00(最終入館は16:30まで)
主 催：公益財団法人酒田市美術館
共 催：酒田市、酒田市教育委員会
協 力：高砂写真事務所 企画協力：M&M Color

酒田市美術館
〒998-8505 読売新聞ビル1階(〒998-8505 酒田市中央1-1-1)
TEL: 023-831-0295
URL: www.sakata-art-museum.jp

高砂淳二写真展 —Dear Earth—

U T A G A W A H I R O S H I G E



保永堂版

歌川広重
二つの東海道五拾三次
2020年9月5日(土)~10月18日(日)

◆観覧時間/午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)の観覧可能 ◆観覧料/一般900円(800円)、高校生450円(400円)、中学生以下無料(内訳300円以上の団体料金) ◆主催/公益財団法人酒田市美術館 ◆共催/酒田市、酒田市教育委員会 ◆監修/ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜 ◆特別協力/横浜美術館、岡田経郎顕彰会
※観覧券は発着する駅でコロナウイルス感染拡大防止対策にご協力ください。



丸清版

酒田市美術館
〒998-8505 読売新聞ビル1階(〒998-8505 酒田市中央1-1-1)
TEL: 023-831-0295
URL: www.sakata-art-museum.jp

二つの東海道五拾三次 歌川広重展



永遠の憧れ、
オードリーの美しい写真
約150点が一堂に。

Audrey Hepburn
写真展
オードリー・ヘプバーン
2020.11.28(土)~2021.1.22(金)

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで) 休館日 12月~3月は月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日(11/30は開館)、12/29~1/3
観覧料 一般1,000円(900円) 高校生500円(450円) 中学生以下無料() 内20名以上の団体料金

主 催：公益財団法人酒田市美術館
共 催：酒田市、酒田市教育委員会
監 修：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
特別協力：横浜美術館、岡田経郎顕彰会

酒田市美術館
〒998-8505 読売新聞ビル1階(〒998-8505 酒田市中央1-1-1)
TEL: 023-831-0295
URL: www.sakata-art-museum.jp

オードリー・ヘプバーン写真展



2021
1/30(土) - 3/14(日)

開催時間 | 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休 館 日 | 月曜日(祝日の場合は翌日)
観 覧 料 | 一般: 700円(560円) 高校生: 350円(280円)
中学生以下: 無料(1円は200以上の団体料金)
※中学生・専門学生は一律料金となります。
※観覧料は消費税別です。上記以外の観覧料は別途お見積りいたします。

主催 | 公益財団法人 酒田市美術館、山形県美術館、酒田市、酒田市教育委員会
Saito City Museum of Art 〒996-0055 山形県酒田市飯森山3丁目17-95
Tel. 0234-31-0095
http://www.saito-art-museum.jp

ちいわさき
ピエゾグラフ展

いわさきちひろ ピエゾグラフ展



《山水曲堤》 1991年

酒田市美術館収蔵品展 I
生誕110年 斎藤長三展

会期: 5月18日(月)~7月12日(日) 会期中休

時間: 9:00~17:00(最終入館は16:30)

観覧料: 一般700円、高校生350円、中学生以下無料

山村・村落を描いたふる里の画家

公益財団法人 酒田市美術館 〒998-0055
山形県酒田市飯森山3丁目17-95
電話0234(31)0095

生誕110年 斎藤長三展

アンティークドールの夢
一 児玉幸雄コレクション

令和3年
3月20日(土)～5月16日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休 日 3/22(日)、3/29(日) 4月から連休
観 覧 料 一般900円(800円)、高校生450円(400円)
中学生以下 無料 ()内は20名以上の団体料金
※大人数、専門学生は一部料金となります。
●観覧者手帳をお持ちの方、およびその介助者1名の観覧料は、半額となります。
◆主 催 (公財)酒田市美術館 (3/20～3/31)
(公財)さかた文化財団 酒田市美術館 (4/1～5/16)
◆共 催 酒田市、酒田市教育委員会
◆企画協力 公益財団法人日勤美術館

Sakata City Museum of Art
酒田市美術館
〒998-0055 山形県酒田市山三丁目17-95
TEL:0234-31-0095 FAX:0234-31-0094
http://www.sakata-art-museum.jp

アンティークドールの夢展 一 児玉幸雄コレクション

今森光彦
自然と暮らす切り紙の世界

2021 5/22(土)～7/9(日)

酒田市美術館・土門拳記念館共同企画

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
休 日 会期中無休
観 覧 料 一般:800円(800円)、高校生:450円(400円)
中学生以下:無料 ()内は20名以上の団体料金
※大人数、専門学生は一部料金となります。
●観覧者手帳をお持ちの方、およびその介助者1名の観覧料は、半額となります。
◆主 催 酒田市美術館・土門拳記念館 共催 酒田市、酒田市教育委員会
協力 有限会社オーリアンガーデン 企画協力 クレウvis
◆お問い合わせは、マスの専用、手帳の消毒、他の美術館との適切な距離の確保にご協力ください。また、状況により観覧会に変更が生じる場合がございます。最新情報は、HPやFacebookでご確認ください。
同時開催 今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展
5月22日(土)～7月10日(日) 土門拳記念館

Sakata City Museum of Art
酒田市美術館
〒998-0055 山形県酒田市山三丁目17-95
TEL:0234-31-0095 FAX:0234-31-0094
http://www.sakata-art-museum.jp

酒田市美術館・土門拳記念館共同企画
今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展

TASKOファクトリーのひらめきをかたちに

2021年
7/17(土)～8/29(日)

開館時間 9:00～17:00(入館16:30まで)

観 覧 料 一般 前売券:900円 / 当日券:1,000円(900円)
高校生 前売券:450円 / 当日券:500円(450円)
中学生以下 無料 ()内は20名以上の団体料金
※大人数、専門学生は一部料金となります。
●観覧者手帳をお持ちの方、およびその介助者1名の当日観覧料は半額となります。

前売券プレイガイド ローソンチケット(Lコード:21844) / セブンチケット
山形新聞各販売店 / チケットBC(TEL:023-634-8600) 平日9:30～18:00

主 催 公益財団法人さかた文化財団 / 山形新聞・山形放送 共催 酒田市 / 酒田市教育委員会
協力 法人A&R研究所 / 株式会社アキアス 企画制作:美映株式会社 企画協力:株式会社TASKO

Sakata City Museum of Art
酒田市美術館
〒998-0055 山形県酒田市山三丁目17-95
TEL:0234-31-0095
https://www.sakata-art-museum.jp

つくる展 一TASKOファクトリーのひらめきをかたちに

魔女がやってきた

角野栄子展

2021年9月4日(土)～10月17日(日) 会期中無休

開館時間 9:00～17:00(最終入館16:30)

酒田市美術館

Sakata City Museum of Art
酒田市美術館
〒998-0055 山形県酒田市山三丁目17-95
TEL:0234-31-0095
http://www.sakata-art-museum.jp

魔女がやってきた 角野栄子展

76 令和3年度県民芸術祭特別参加

県美展

第76回県美展酒田巡回展
 令和3年 11月10日(水) — 11月15日(月)

■第63回こども県展

会場 酒田市美術館
 TEL 0234-31-0095

開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
 観覧料 一般 550円(440円) 高校生 270円(220円)
 中学生以下は無料 ()内は20名以上の団体料金
 お得な年間券も利用できます。(1年間有効で3,300円 3名まで観覧可)

主催 公益財団法人さかた文化財団/山形新聞/山形放送/県美術連盟
 共催 酒田市/酒田市教育委員会

第76回県美展酒田巡回展・第63回こども県展

酒田市美術館収藏品
 生誕100年高橋剛展
 他「佐藤昌祐生誕100年特集」
 「新収藏品紹介」

令和4年 1月15日(土) ~ 2月6日(日)

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

【市民ギャラリー】1/26(金)~2/6(日)
 酒田飽海地区子ども美術館(無料)

◆開館時間 9:00~17:00 (最終入館は16:30まで)
 ◆観覧料 一般 700円 (560円) 高校生 350円 (280円) 中学生以下無料

GO TAKAHASHI

生誕100年 高橋剛展

池袋モンパルナス

芸術家たちの集う日本のパリ

ルナス 画家たちの交差点

今井繁三郎 斎藤長三郎 が過ごした地

2021年 11月20日(土) ~ 1月10日(月・祝)

2022年 2月11日(金・祝) ~ 3月13日(日)

池袋モンパルナス 画家たちの交差点

令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展
 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス—画家たちの交差点—

酒田市美術館
 Sakata City Museum of Art
 〒998-0055 山形県酒田中橋通3丁目17-95 TEL.0234-31-0095
 URL: https://www.sakata-art-museum.jp/

令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展
 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス—画家たちの交差点—

家族の愛と共に生き、描く

酒田市美術館収藏品
 生誕100年 佐藤昌祐展

私はこの平和を愛し、家族を愛し、人間を愛する。平和な日本の風土と自然を愛している。私の絵画のモチーフは、私の主題は、この平和であり、自然と人間であり、家族である。これらをモチーフに描きつづけること。これが私の絵画のありようなのだ。—— 佐藤昌祐

2022 2.11(金・祝) ~ 3.13(日)

時間：午前9時~午後5時(最終入館は午後4時30分)
 休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)
 観覧料：一般700円(560円)、高校生350円(280円) 中学生以下無料

【 】内は20名以上の団体料金。 ※大学生・専門学校生は一般料金となります。
 新型コロナウイルス感染症拡大により観覧数、イベント等の変更がある場合があります。最新情報は本館のTwitter/Facebookにてご確認ください。

Sakata City Museum of Art
 酒田市美術館
 〒998-0055 山形県酒田中橋通3丁目17-95 TEL.0234-31-0095
 URL: https://www.sakata-art-museum.jp/

生誕100年 佐藤昌祐展

展覧会ホस्ताー

R 2

R 3

令和2年度▶令和3年度

学芸員研究紀要

2020~2021

はじめに

これまで美術評論家や学芸員が國領經郎の芸術を語る時、『砂の風景』（國領經郎、学習研究社、1985年）をはじめとする著書や、雑誌や新聞、テレビでのインタビューなど、画家自身から発せられる言葉を頼りに論考されてきた。没後20年となり、國領が自身の芸術論を語ることが出来なくなった今、國領が残した数多くの文章は、國領の絵画世界を紐解くための大きな手掛かりとなっている。

一方で、國領は文章のほかにも貴重な資料を多く残した。それは、スケッチブックやエスキース、砂丘の取材で撮った写真などである。主なエスキースや素描は、横浜美術館、酒田市美術館、横浜国立大学に収蔵されている。これらの資料に加え、2020年に鳥取県立博物館（鳥取県）、酒田市美術館（山形県）、茅ヶ崎市美術館（神奈川県）を巡回した『生誕100年 國領經郎展 ―静寂なる砂の景―』の展覧会開催準備にあたり、遺族よりスケッチブックや写真なども提供された。また、國領は、『6月10日の自画像』（1987年）の制作過程の密着取材を受け、自身の技法について詳しく説明している（『特集 國領經郎：東洋的絵画空間を油絵に求めて―砂の風景を描く― CREATORS IN JAPAN』、『アトリエ』、第732号、2月号、1988年2月1日、41-56頁）。本論では、國領が残したこれらの資料を参考に、國領の絵画がどのような工程を辿って構築されていったのかを検証する。

1. スケッチや写真資料から —視覚的経験の断片を集めて—

國領は、鳥取砂丘、庄内砂丘、中田島砂丘、湘南砂丘、浜岡砂丘など、全国各地の砂丘を取材で訪れ、スケッチし、資料として多くの写真を撮っていた。長期の旅行では、スケッチの紙を300枚ほどまとめて先に旅行先の宿へ郵送してしまうほど、スケッチすることは絵画制作の準備段階として、必要不可欠であった。

國領は著書『砂の風景』で次のように述べている。

最近の私は、好んで風景を描くが、それとても、絵具箱やキャンパスをかかえて現場にのぞむことをしない。描く時間より眺める時間の方が多く、脳裏のテープに記憶させるといふ姿勢をとっている。もちろん、スケッチブックはつねに身から離さない。そのようにして蓄積された視覚的経験が、ある時、ある対象に直面して呼び醒まされ、一つの風景が構成される。それは多くの場合、現実のままの風景ではなく、私の風景であり、視覚的経験として記憶された素材が重なり合っているのである。^(註1)

國領は、砂丘や海岸に月に一度は足しげく通い、スケッチをしながらか、目の前に広がる砂丘を眺め、心の中にその風景を焼き付けていたのである。

國領の「砂の風景」との出会いは、新人教師として赴任した柏崎時代であったが、この砂のイメージが國領の絵画世界に投影されるまでには、点描の時代を経て約30年の月日を要している。長い歳月が実際に見たであろう風景を少しずつ濾過し、日常生活の体験や、心情の変化と混ざり合って、いつしか國領の心象風景と変化する。そして、来るべき時に、その心象風景は画家の手によって一つの作品へと昇華される。國領の旅先でのスケッチや写真、若しくはエスキースは、画家がこれまで心の中にインプットしてきた数々の視覚的経験の断片だと言えるだろう。私達はこれらの資料、言い換えれば「画家の視覚的経験の断片」をかき集め、重ねたり、組み合わせることによって、國領の絵画世界の静かな始まりを知ることができ

るのではないだろうか。

作品調査の中で、『暁色』（fig.1）について新たな発見があったことから本作を中心に検証していく。まず、本作のスケッチは2枚あり、そのうちの1枚は「『暁色』のためのスケッチ」（fig.2）である。残り1枚のスケッチもほぼ同じ構図で描かれている。國領にしては珍しく「砂の風景」ではなく、船乗り場に佇む男女を描いた作品である。スケッチと比較すると、タブローに描かれた『暁色』は、乗り場にあったストライプ柄の屋根や、左側にあった乗り場の屋根や、反対に、男女の立つ右側に1隻のボートと電話ボックスが加えられている。また、スケッチからは、描かれた場所を特定することは出来なかった。

筆者は当初、タブローとスケッチからどこか湖のボート乗り場だと推測していた。今回、遺族である成田篤彦氏より、國領が撮影した大量の写真を提供していただいた。その中に、『暁色』の場所と推測される写真が31枚も発見された。

筆者は、写真に写っていた船の上の案内板に航路が掲示されていることを見つけ、その航路から、三重県英虞湾周辺の定期船乗り場ということ特定した。基となった風景は湖ではなく、リアス海岸の船乗り場だったことが判明した。写真の多さやスケッチが2枚あることから、國領はこの場所に立った時点で作品にしたいという強い衝動に駆られたと推測する。

また、31枚の写真の中には、船乗り場で昭子夫人を後ろ向きに立たせた写真（fig.3）や、國領自身が船乗り場に立つ写真や後ろ向きに立つ写真があり（fig.4）、『暁色』に描かれた男女の姿勢に非常に酷似していた。このことから、描かれた後ろ向きの男女は、國領夫妻をモデルにした可能性が高く、本作は夫妻の肖像画的作品と位置づけられる。これまで、國領作品の中でも昭

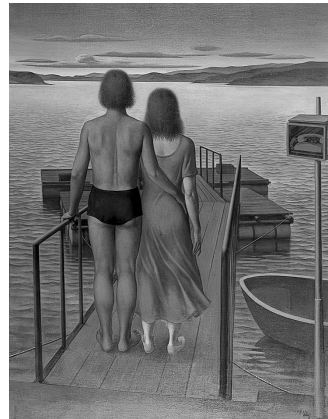


fig.1) 『暁色』、1986年、油彩、酒田市美術館収蔵

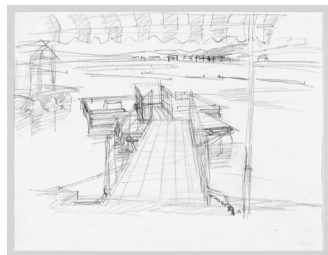


fig.2) 『『暁色』のためのスケッチ』1985年頃、鉛筆、酒田市美術館収蔵



fig.3) 船乗り場に立つ昭子夫人



fig.4) 船乗り場に立つ國領經郎

凡例

*本論は、武内治子「國領経郎の制作過程を探って」『生誕100年 國領経郎展 - 静寂なる砂の景 - 』図録、鳥取県立博物館、公益財団法人酒田市美術館、公益財団法人茅ヶ崎文化・スポーツ振興財団、2020年、p.124-125をもとに加筆・修正を加えたものである。

子夫人をモデルにした作品は「絵のある座像」(1953年)や「赤い服のA子」(1954年)があり、また「遙眺」(1992年)のように画家の自画像とも言える作品は確認できる。しかし、夫妻の姿が同時に描かれた作品は希少である。

ここで注意したいことは、國領は夫妻の姿をあるがままに描いたわけではないということである。撮影された年もスケッチと同じとするならば1985年頃となり、この時國領は66歳でとうに還暦を過ぎている。一方で、タブローに描かれた男女は、男性は水着、女性も紫色のワンピースを着て、2人とも肌の質感や身体の量感から若々しい印象を受ける。國領は、1970年代から若者の群像を描いているが、それは若者たちの内面に宿る孤独や孤立感を表現するためであった。本作の若い男女の姿が、國領夫妻を投影させて描いた作品であるならば、國領自身もまた若者たちの姿を借りて、若者と同じような孤独や孤立感を生涯持ち合わせていたということであろう。

2. 絵画制作の工程について

月刊雑誌『アトリエ』の特集で、國領は「6月10日の自画像」(1987年)の下地から完成まで全工程の密着取材を受けている。今後の國領芸術の研究において、画家の制作過程を知る上での貴重な手掛かりとなるため、この特集を基に1970年代以降から描かれた「砂の風景」の絵画制作プロセスについて紹介していく。

國領絵画の特徴として、最初に挙げられるのは、独特の砂色と空や海といった「國領ブルー」である。國領独特の色彩は、國領が絵画世界で常に追求してきた「孤独」や「孤愁」などの情感を醸し出す重要な要素の一つである。

まず、國領はこの色彩を表現する上で二つの工程を踏んでいる。一つは、絵の具づくりである。國領の微妙な色彩は既成の絵の具では表現できない。特に砂色は、画面の半分以上を占める重要な色のため、画家自身が絵の具を調合する必要があった。國領のアトリエには特注で作った道具箱があり、道具箱の上は大理石がはめ込まれていて、その上で絵の具を丁寧に練り合わせる。砂色はイエローオーカーとグレイ・オブ・グレイを同量、そして國領の目分量でホワイトを加え、リンシードオイル(乾性油)を少量混ぜ合わせる。完成した絵の具は、特別に発注した空の絵の具チューブに詰めて使用した。



fig.5)《海の風景(絶筆)》
1999年、油彩、酒田市美術館収蔵

(fig.5)は、未完作であるので確認しやすい。勿論、國領もライトレッドは、上に別の色を塗り重ねても表面に出やすい色だと自覚していたが、それがかえって砂色や空の色に深みを与える効果があると考えていた。

次にエスキースを基に、カンヴァスに水性ペンで下描きをする。水性ペンであれば、後から消したい線が出てきても、濡れた布で拭き取ることができ、また、絵の具を上に乗せても油に溶けないので染み出す恐れもない。下描きを終えたら、下地の色が見えなくなるまで、3~4回程度、色を塗り重ねていく。砂丘の特徴である風紋は、スケッチや写真を参考にしながら、グレイの絵の具で砂の影を

描いていく。細部を描き込んだら、仕上げとして、溶き油(リンシードオイルとテレピンを混合したもの)でのぼした絵の具を刷毛で薄く掃くようにして塗っていく^(註2)。



fig.6)色紙を切り取った鳥のシルエット
(酒田巡回展での展示風景)

國領は、納得がいくまで画面の構図を変えていくタイプの画家で、例えば、制作過程で鳥をつけ足したり、その逆に消したりする場合もある。國領の絵画に頻繁に登場する鳥のモチーフは、紙で切り取った鳥のシルエットを何パターンも作り、それをカンヴァスの上に何度も置いて構図や形を決めていった(fig.6)。また、実際に模型を作って、モチーフのイメージを把握する手法も取り入れた。陰影や角度の研究のため、翼の立体模型を作って検証してみたり、無人のボートも國領の絵画に欠かせないモチーフであるが、全長1mの模型を船大工に特注で作らせたりしている。対象のイメージを自身の中で落とし込むまで徹底的に観察しデッサンを重ねる。こうした日々の積み重ねにより、國領の絵画世界は形成されていった。

これまで述べてきた月刊雑誌『アトリエ』の特集では、國領の絵画世界を構築していく上で重要な絵の具の調合、下地の塗り、そして、画面を構成するモチーフへの徹底した研究の姿勢を見せる國領の姿を紹介している。國領がスケッチブックに記したメモには、「絵画空間の性格は選択する材料(特に絵具)によって限定されるところが大きい。^(註3)」「材料における純粋とは何か。画家は材料について貪欲でなければならない^(註4)」と度々絵画制作に使用する材料の重要性について指摘している。國領は、絵の具の特性を十分理解し、見極めて材料を選定することで、微妙なニュアンスの色彩を作ること成功した。また、國領の絵画世界は時として超現実的だと言われ、自身も意識していたに違いない。しかし、制作過程をたどっていくと、鳥やボートなどを徹底して観察する姿勢から、リアルな自然、リアルな現実が國領絵画の根底にあることが分かるだろう。

3. おわりに

スケッチや写真などの資料から國領が絵画を描くまでの構想の経緯を巡り、さらにタブローを描き始めて完成までの工程を紹介した。國領は、自身のイメージをカンヴァスに書き込むまで、全国の砂丘を取材し続け、スケッチをし、写真資料を貯め込んだ。そう考えると、現場主義の画家とも言える。また、砂の上の若者たちの群像は、彼らの孤独を表現している。さらに、「潮溜」(1996年)のように環境問題を想定させる作品も描いており、画中に描かれている投棄された自転車の実際の写真も今回の調査で発見している。常に現代の社会問題を冷静な視点で観察する画家でもあった。

國領の絵画世界は常に現実世界の延長線上にあったのではない。國領の絵画は、単に幻想に満ちた世界ではなく、実証に基づいた鳥やボート、廃棄された自転車といったモチーフや風景が根底にある。だからこそ、私たちは絵画に込められた國領の孤独を読み取り、共感し画家の描く絵画世界に心惹かれ続けるのである。

- (註1) 國領経郎「風景のなかの人物」『砂の風景』学習研究社、1985年、p.121
(註2) 國領の場合、溶き油の割合はリンシードとベネチアテレピンを2:1の割合で調合し、さらにテレピンを1:4の割合で混ぜ合わせている。調合の割合によって、絵の具の透明性が変わる。
(註3) 前掲書、「スケッチブックのメモ」p.148
(註4) 前掲書、p.148

庄内の画家たちと 池袋モンパルナスの繋がり

学芸主任 武内 治子

はじめに

1920年代以降、現在の池袋を中心とする地域に芸術家向けのアトリエ付き住宅が次々と建ち始めた。これらの物件は家賃が安かったために、日本各地より上京した画学生、画家、彫刻家、詩人、評論家などの芸術家たちが集い、いくつかの「アトリエ村」と呼ばれる一画が形成されていった。アトリエ村は「さくらが丘パルテノン」、「つづじが丘アトリエ村」、「すずめが丘アトリエ村」など称され、1930～40年代の最盛期には数百人の芸術家たちが住んでいたと言われている。この界限では、芸術家が暮らし、制作し、そして互いの家を行き来しながら時には熱い芸術論を交わすなど、会派を超えた繋がりによって、新たなアートシーンを生み出す場となっていた。アトリエ付き住宅が建ち並ぶこの様子は、芸術の都パリになぞらえて「池袋モンパルナス」と呼ばれていた。

さて、庄内地域は、鶴岡市と酒田市を核とした2市3町で構成され、山形県の日本海側に位置し、海と山に囲まれた広大な平野が広がる自然豊かなエリアである。東京から遠く離れた庄内地域と池袋モンパルナスが一体どんな繋がりがあるのか——と、疑問に思う方も多いのではないだろうか。実は、池袋界限に住んでいた画家の中には、庄内地域出身の画家がいる。鶴岡市出身の齋藤求と今井繁三郎、酒田市出身の小野幸吉と齋藤長三である。アトリエ村の画家たちは、北海道や沖縄など各地から上京してきた者が多く集まっていたが、東北の庄内地域という限られた範囲で、4人の画家を輩出したことは特筆すべき事柄である。また、彼らが池袋モンパルナスの画家たちと交流したことで、庄内地域の芸術・文化にどのような作用をもたらせたのかについては、これまで検証されて来なかった。

本稿では、池袋モンパルナスの画家たちと庄内の関わり合いについて、彼らの残した交流の痕跡を辿り、郷土の美術団体である白薺社の活動や、東北出身者で結成された「東北生活美術研究会」の活動にも触れながら明らかにしたい。

1. 小野幸吉と大野五郎の青春

庄内地域出身の画家で初めてアトリエ村に住んだのは「酒田のゴッホ」と称された小野幸吉である。小野幸吉は1909（明治42）年、酒田市に生まれ、酒田中学校（現・県立酒田東高等学校）で、油彩を描き始めるが、ほとんど独学で習得する。小野は、画家を志して1925年に上京、太平洋画会研究所に通い、翌年には川端絵画研究所で、親友となる大野五郎と出会う。1926（大正15）年頃に、小野は長崎にある林武の家の隣へ移り住む。しばらくして、林が引越す際、絵具で畳が汚れていたため、大家から畳を取り換えるよう請求されたが、年下の絵描きである小野を住まわせることによって、畳の弁償を免れたと林は後に回想している^[1]。小野は、1928（昭和3）年に一九三〇年協会が設立されると大野とともに通い、里見勝蔵、林武らに師事し、田中佐一郎や峰村リツ子らと親交を深めながら、制作に励む日々を送った。小野は1928年と1929年、一九三〇年協会展に連続で出品している。体の弱かった彼はまさに命を削りながら精力的に作品を描き、1930年1月8日、20歳の若さでこの世を去った。同年、一九三〇年協会展に小野の遺作3点が黒いリボンを添えられ、特別陳列された。

画家の大野五郎は小野との出会った頃のことを次のように回想している。

雨のどしゃぶりに降った春先の寒い頃、水道橋駅のプラットフォームで彼と最初に話した。その頃、彼も私も川端研究所に通っていたが、お互い知らん顔していたので口を聞くことはなかった。その

研究所の帰り、紺の詰襟を不器用に着た彼が大きな目玉をくりくりさせて、私の肩をきまり悪そうに叩いた。「俺の友達にならんか」と言うので、私はうんと答えた。私は彼より一つ年下だった。立て続けに彼は饒舌り出した。「俺は十九で小野って者だ。故郷は酒田で恋人がいるんだ。」（中略）彼は、何枚か自分の絵を示して批評しろと責めた。あまりに美しい、強烈な小野の色彩に驚いて、私はなんにも言わないでいた。彼は不平そうな顔つきで、「こんな絵びら」とかなんとか、ぶりぶり眩きながら、引込めてしまった。彼の顔はだんだん蒼褪めてきた。「もう君帰ってこないか」と突然せわしく言いだして、鼻の先に手をあげたら、真っ赤な鼻血が紺の服にどくどく流れ落ちた。私は不愉快な気持ちで雨の中を帰った。

私は彼を好きになった。それから四年友情を熱くしてきた。一緒に酒を飲んだ。喧嘩もした。街から街へと夜遅くまで彷徨いたことも度々だった。彼の故郷に旅行した夏の記録も、今となれば楽しく悲しい。（中略）懐かしいものだ。思い出すことは沢山あるが私には何も書けない。小野も絵が描けないで淋しかろう。^[2]



fig.1)写真「小野幸吉」
撮影：大野五郎

二人の青春の日々が熱く語られたこの回想から分かるように、大野と小野は互いに生涯の友として認め合っていた。

小野幸吉の画集や雑誌の特集で必ず掲載される肖像写真がある（fig.1）。この写真は、大野が1927年6月15日に撮影した小野の姿である。場所は温海温泉で、二人で小野の酒田の実家へ一泊した後に、鶴岡へ移動し滝野屋旅館別館に一月、スケッチをするため滞在している。大野の夏の旅行の思い出はこの時のことを指している。

二人の師である里見勝蔵は、一九三〇年協会の研究所での彼らの様子について、「一枚の絵で、大野君が手古ずると小野君が描き、小野君が休んだ日は大野君がそれを描いていたのもその頃だ。」と後に回想している。里見は、二人が共作で作品を描くことを咎めるよりもむしろ彼らの友情の証として好意的に見守っていたようだ。また、里見は二人が描く絵は全然違っていたとも証言している。

二人の友情を示す1枚の絵がある。



fig.2) 表：小野幸吉《Aの顔》、油彩、1929年
裏：大野五郎《無題》

小野幸吉の作品《Aの顔》（fig.2）の裏には、大野五郎が描いた男の肖像が残されている^[3]。目を伏せた男を描いた大野に対し、小

*本論は、武内治子「庄内の画家たちと池袋モンパルナスの繋がり」『令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス—画家たちの交差点—』図録、第21回共同巡回展実行委員会、2021年、p.126-128をもとに加筆・修正を加えたものである。



fig.3) 小野幸吉《八丈島 三根港》
1927年、油彩、木、
八王子市夢美術館蔵(大野五郎旧蔵)

野は、まっすぐ前を見つめる成端な顔つきの男の肖像を描いている。二人は当時、新しい表現方法であったフォーヴィスムに傾倒していたが、大野の方が漆黒の太い輪郭線と激しい筆致で描いている。二人の作品は全然違うと評価した里見の証言のとおりである。

大野が晩年まで大切にしていた小野の作品が、

現在八王子夢美術館に収蔵されている (fig.3)。小野の旅行歴から1927年に八丈島へ写生旅行をした時に描いたものと推測される⁽⁹⁾。大野が直接小野から渡されたものなのかは定かではないが、若き日の青春を共にした親友の作品を手元に置いていた大野の想いは計り知れない。

小野が亡き後の1932年、佐藤三郎(本間美術館元館長)の声掛けで、『小野幸吉画集』(金星堂)が300部限定で自費出版された。そこに、池袋モンパルナス周辺の画家たち——師である林武、里見勝蔵、そして大野五郎ら友人たち——の追悼文が掲載されたことで、当時無名であった小野の作品が、時を経て美術評論家の洲之内徹の目にとまる。彼は、美術雑誌の編集者から『小野幸吉画集』を借り、実際の絵を見るため1937年に酒田を訪れ、小野作品と対面をする。翌年、自身の運営する現代画廊において、「小野幸吉遺作油絵展」を開催、その後も美術雑誌のエッセー「気まぐれ美術館」でも取り上げ、一気に小野幸吉の作品の評価は高まったのである。

小野の作品を後世に残そうと画集を出版した酒田の人々と、大野五郎をはじめとした池袋モンパルナス周辺の画家たちが繋がり、小野幸吉は死後、「酒田のゴッホ」として全国でも評価される夭折の画家となったのである。

2. 今井繁三郎が繋いだ 白鷺社と中央画壇の交流について

色彩の画家とも評される庄内の画家・今井繁三郎は、池袋モンパルナス周辺の画家たちと交流を深めた。そして、故郷の美術団体・白鷺社の会員たちの育成及び庄内地域の芸術振興のため、中央画壇で活躍する池袋モンパルナスの画家たちの作品を白鷺社展に特別陳列するという画期的な企画を立ち上げた人物である。本章では、今井が繋いだ白鷺社と中央画壇の交流について考えていきたい。

今井繁三郎は1910年、鶴岡市に生まれ、鶴岡中学校(現・山形県立鶴岡南高等学校)を卒業した1927年に、画家を志して上京する。1936年、洋画家・鷺田新太の誘いにより美之國に入社し、美術雑誌『美之國』の編集に携わる。『美之國』の取材で、会派を問わず様々な画家たちと親睦を深めたことは、後に庄内地域の美術団体・白鷺社に、大きな影響を及ぼすことになる。1937年頃、今井は豊島区長崎一丁目19番地に転居した⁽¹⁰⁾。

鶴岡市の美術団体・白鷺社は、1924年に創設され、庄内では歴史の長い美術団体である。1924年、当時鶴岡では手薄だった洋画の研究と地方美術の振興を目的として、鶴岡中学校の生徒であった18歳の星川清健(野坂貞勇)が、齋藤求ら6名の同志とともに、白鷺社の前身となる「白虹社」を創立した。翌年には「白鷺社」に改名し、鶴岡中学校の在校生が中心となり活動するが、酒田中学校(現・山形県立酒田東高等学校)の小野幸吉と佐藤三郎が第1回展、第2回展に出品している。白鷺社はその後も、I部(鶴岡中学在

生)、II部(卒業生)を同人とし、さらに一般人も1931年より出品できるように開放する。1937年には、II部同人の中から、中央画壇の美術団体に入選する者もいて、齋藤求(独立展、日本水彩展)、今井繁三郎(自由美術展)、山本甚作(朔月会)らがその後同団体を牽引していく。

このように、1920年代から庄内地域には、学生の創作発表の場があったことにより、同年代の画家を志す若者を多く輩出する土壌が既に出来ていた。

1938年、今井は画期的な企画を立ち上げる。第24回白鷺社展において、池袋モンパルナス界隈の画家たちをはじめとする中央画壇の作家8名の作品20点を特別陳列するのである。出品作家は、北川民次、難波田龍起、藤田嗣治、山口薫、三岸節子、向井潤吉、猪熊源一郎、山崎省三である。

今井は、その後も出品作家を変えながら、1940年まで中央画壇で活躍する作家の作品を特別陳列する。

1939年の第25回展による特別陳列作家は、福沢一郎、海老原喜之助、安井曾太郎、野田英夫(故)、木村荘八、中川紀元、伊勢正義、矢橋六郎、内田巖の9名で、計12点の作品が展示された。

1940年は皇紀2600年奉祝第26回記念に先駆け、北川民次を招き、講演会及び実技講習会が行われた。参加者は教員や学生、同行者50名余りが参加した。第26回展での特別陳列作家は、23名で43点の作品展示という大規模なものであった (fig.4)。

なお、同展の目録では25回と記載されているが、前後の目録により、正しくは26回である。特別陳列された中央画壇の作家は、

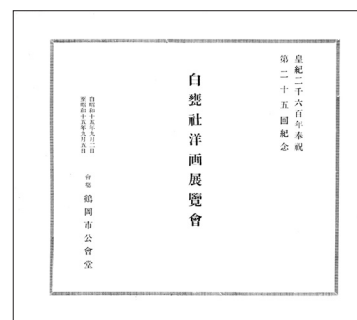


fig.4) 「皇紀2600年奉祝第25回記念
白鷺社洋画展覧會」目録、表紙

鈴木信太郎、小磯良平、中西利雄、早川國彦、鈴木亜夫、齋藤長三、寺田竹雄、伊藤久三郎、竹谷富士雄、脇田和、佐藤敬、高田力蔵、木村荘八、富樫寅平、宮坂勝、宮本三郎、岡鹿之助、川島理一郎、寺田政明、北川民次、小松義雄、荒井龍男、村井正誠である。また、北川が持参したメキシコ児童の作品10点も陳列され、学校の先生が引率し、

地域の小学生が大勢鑑賞した。興味深いことに、今井繁三郎や齋藤求も当時から自由美術家協会や独立展でそれぞれ活躍していたが、特別陳列には並ばずに、あくまでも白鷺社側の一員として陳列されている。一方で、齋藤長三は酒田の生まれだが、独立展で活躍する中央画壇の作家として特別陳列枠で紹介されている。

1945年、今井は、長崎の自宅が空襲で全焼し、自らの作品とこれまでの取材資料を失った。友人で画家の吉井忠の日記にこの日の今井の自宅の様子が克明に記されている。

14日/(中略)東の空、煙で被われ、余燼収まらぬ中に西の空から夜明けが来る。血の色をした太陽。静かな夜明け、全く変わり果てた風景。芝居の舞台が一転したやうだ。見渡すかぎりの焼け野。顔が熱い。目が痛い。口の中がチャリチャリする。今井氏のアトリエに行ってみた。風呂屋の辺から焼け残ってゐるので大丈夫かと思ったが丸焼け。今井氏の所蔵本、ヤキモノ、作品他、全滅に比べれば小生の本、コーモリ、ナベ、ハンゴ等何でもない。いたる所に焼夷弾の筒、皇の大根のやうに突きささってゐる。焼け跡の生活はじまる⁽¹¹⁾。

作品や取材資料を全て失った今井は、1945年鶴岡に帰郷し、同じく帰郷した齋藤求らとともに、敗戦の混乱のさなか、第31回展を開催する。翌年、白麿社は帰郷した作家らを中心に、庄内の美術団体としての方向性を話し合い、大きな決断をする。これまで、鶴岡中学校を中心とした伝統を変え、より広く同好者に呼び掛けられるようI部、II部制を廃止し、新たに彫刻部門も設置した。1957年、今井は白麿社委員長に就任し、以後齋藤求らと交互に会長・委員長を務めるようになる。

今井は戦中、中央画壇の作家たちと庄内地域の美術界を繋ぐパイプ役として、大きな役割を果たしていた。戦後も、今井は白麿社の会員に対し、自宅で画談会を開催したり、中央の美術団体へ積極的に出品をすすめたりと、会員たちの成長を切に願っていた。また、今井のほか、齋藤求や山本甚作らが中央画壇で制作活動を続ける一方で、白麿社の活動に積極的に関わり、地方の美術を盛り上げていった功績は大きく、今日の庄内地域の芸術の基盤となっている。今井や齋藤、その他多くの先人たちが築き上げた白麿社は、今年で創立97年を迎え、会員数104名の庄内地区最大規模の美術団体へと成長している。

3. 東北生活美術研究会について

東北生活美術研究会は、福島県出身の吉井忠が今井繁三郎に結成を持ちかけたことから始まった。メンバーは吉井忠（福島）、今井繁三郎（山形）、齋藤長三（山形）、福田豊四郎（秋田）、勝平得之（秋田）の5名である。吉井の日記によってその経緯は明らかになっており、今回は吉井の日記と同会の第1回、第2回の展覧会目録を合わせてどのような会だったのか検証したい。

同会は、1943年3月9日に吉井が今井の自宅を訪ね、「東北出身の有能且つ志を同じくする作家を集め年に一度『東北の生活を描く』展を銀座でやらう」^{iv)}と持ち掛け、それに今井が応じ、二人でメンバーを選定して4月13日に結成された。同会では、秋田北部を取材し、課題を「家」として第1回展の準備を進める。吉井の日記では6月18日より秋田へ向かい、翌19日に大館へ入り25日まで秋田に滞在している。秋田へ入る前日17日に、齋藤と出発の打ち合わせをしているため、会の皆で秋田へ向かった可能性がある。同年、第1回展が銀座資生堂にて、9月20日から22日まで開催されるが、その目録には副題として、「秋田県北秋田郡、角館郡地方採集」とある。今井は不出品で、吉井が7点、福田が5点、齋藤が6点出品している。尚、勝平の氏名は掲載されていない。目録には曲田部落、別所部落、宮野平部落など描いた場所も記載されている。

1944年3月6日から8日まで第2回展が銀座資生堂にて開催される。同展目録によれば、今井が8点、吉井が5点、福田が8点である。齋藤は風邪で出品が叶わなかった^{v)}。今回、副題は無いが、描いた場所は、藤島、京田村、荘内、鶴岡、温海町暮坪、秋田裏日本と記載されており、鶴岡（庄内地域）を中心としたテーマで描いている。2月12日から吉井は、秋田行の汽車に乗って、翌13日温海、14日五十川と鶴岡、16日には月山、羽黒へ滞在している。恐らく、制作のための取材に行ったと思われる。また、興味深いことに、展覧会最終日に酒田市出身の写真家・土門拳が会場に来て、「次回から一緒にやりたい」と吉井に申し出ている^{vi)}。

吉井の日記から同会は吉井と今井が中心となって計画しており、今井は第2回展後の10月7日に吉井を訪ねて、同会のリーフレットを作成しようと持ち掛け、福田への原稿執筆の打診を吉井に依頼している。このことから、二人は同会をさらに充実したものにしようとしていたことが分かる。また、1944年は第2回展以後も、7月10日から7月12日、9月12日から9月14日、10月29日から10月31日と1年間で4回開催されており、吉井はじめ同会メンバー

が精力的に制作に励み、発表した充実の年であった。

東北美術研究会は、5回の展覧会を開催して活動を終えることになるが、目録から推測するに、毎回東北の特定の地域を決め、取材旅行に出かけ、同じ課題で制作する方針があった。

吉井は1943年1月13日の日記に「地方の人々の生活を通して自然を通して何かその辺に流れている、新しい人間精神と云ふか歴史的精神をつかんでみたい^{vii)}。」と記している。吉井の思いは参加するメンバーに共通したものではないだろうか。

同会のメンバーは洋画、日本画、そして版画と分野が異なっており、また第3回展では写真家の土門拳も加わる計画もあった。会派どころか分野を越えて、東北出身という共通点により結束し、新しいムーブメントを起こそうとしていたのである。

今後の課題として、中央画壇では同会の評価がどのようなものであったのか、また、その後の彼らの作品に何らかの影響があったのか、さらに検証する必要がある。

おわりに

庄内の画家たちがアトリエ村で暮らし、各地から集まった画家たちと交流することで、地方美術の活性化に繋がったり、また小野幸吉のように死後池袋モンパルナスの画家たちの証言がきっかけで再評価されたりと、様々な効果をもたらしたことが分かる。そして、戦局が悪化するなかでも、展覧会を開催し、芸術の発展を目指して奔走していた彼らの姿を忘れてはならない。東北地方から上京した彼らは中央画壇で活躍しながら、東北人として何を描き、どう表現していくのかを模索していた姿も東北生活美術研究会の活動を通して僅かながらに見えてきた。2021年に当館で開催された『令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス -画家たちの交差点-』では、洋画の作家中心の展示構成となったが、アトリエ村には日本画、彫刻、詩人など様々な分野の芸術家が集っており、彼らは会派も分野も越えて自由に交流していたのである。

- (i) 林武「小野幸吉を憶ふ」『小野幸吉全画集』、本の会、1987年、p.141
- (ii) 大野五郎「小野幸吉君のこと」、前掲書、p.145
- (iii) 里見勝蔵「回想」、前掲書、p.137
- (iv) 1998年に酒田市美術館で開催された『小野幸吉展』の準備のため、備前健吾学芸員が大野五郎に直接確認している。
- (v) 1927年、八丈島の写生旅行では2か月滞在し、友人の堀田清治が同行している。
- (vi) 今井の長女・廣瀬木ノ芽氏によると、1937～1938年頃に長崎に引っ越したが、詳細な時期は不明である。
- (vii) 「吉井の日記（1936-1945）書起こし」『池袋モンパルナス展 よこそ、アトリエ村へ!』図録、2011年、板橋区立美術館、p.150
- (viii) 前掲書、p.142
- (ix) 前掲書、p.146
- (x) 前掲書、p.146
- (xi) 前掲書、p.148
- (xii) 前掲書、p.141

【参考文献】

図録「創立81周年白麿社美術展 鶴岡アートフォーラム開館記念」白麿社、2005年
「資生堂ギャラリー七十五年史：一九一九～一九九四」資生堂、1995年

*引用部分で原文の旧字・旧仮名遣い箇所については適宜現行のものに改めた。

平成9年度▶令和3年度

参考資料

1997~2021

沿革

酒田市美術館建設計画推進の経過

- 平成4年度
 - ・酒田市民美術館(仮称)建設計画策定協議会設置(以後平成5年5月まで10回にわたり協議)
 - ・酒田市民美術館整備基金設置(平成4年度から6年度までの3力年に各1億円ずつ、計3億円を積立て)
- 平成5年度
 - ・酒田市民美術館(仮称)建設計画策定協議会から提言提出。
- 平成6年度
 - ・設計業務委託(～平成7年7月31日)／用地取得11,135.98㎡／立木調査業務委託／地盤調査業務委託
- 平成7年度
 - ・酒田市民美術館(仮称)建築・機械設備・電気設備工事着手／用地取得11,248.59㎡
 - ・建設用地縦横断測量及び設計業務委託／建設用地造成工事(造成・土留・既存林補植)
- 平成8年度
 - ・酒田市民美術館(仮称)独立壁築造・植栽・外構・外構機械及び外構電気設備工事着手
 - ・用地最終取得9,131.45㎡
 - ・酒田市美術館の竣工(3月20日)／管理運営組織「財団法人 酒田市美術館」設立(3月21日)
- 平成9年度
 - ・酒田市美術館設置管理条例の施行(4月1日)／酒田市美術館開館式典の開催(10月2日)
 - ・酒田市美術館開館記念特別展「一卒寿記念－森田茂展」開会式(10月3日)
- 平成25年度
 - ・平成25年4月1日 公益財団法人に移行

酒田市美術館 受賞記録

- ◆第8回 公共建築賞／平成14年11月28日 国土交通大臣 扇千景
- ◆第5回 やまがた景観デザイン賞 山形県知事賞／平成9年11月14日 山形県知事 高橋和雄
- ◆第39回 建築業協会賞／平成10年11月18日 社団法人 建築業協会 会長 今村治輔
- ◆照明普及賞 優秀施設賞／平成10年5月22日 社団法人 照明学会 照明普及協会 会長 坂田眞



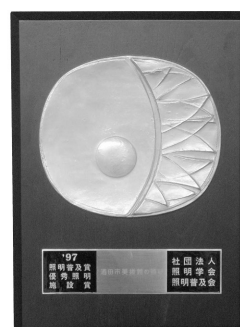
第8回 公共建築賞



第5回 やまがた景観デザイン賞



第39回 建築業協会賞



照明普及賞 優秀施設賞

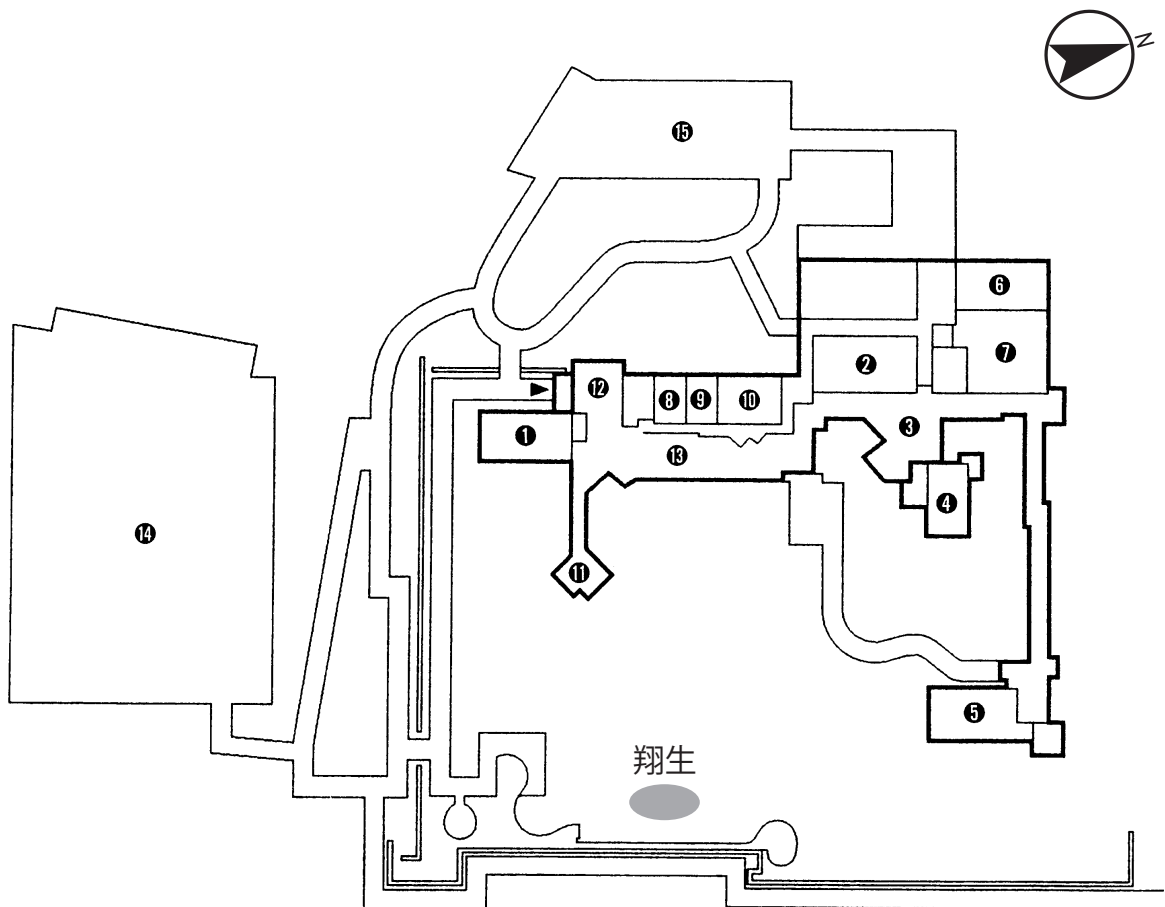
施設概要

整備面積	31,516.0㎡
総床面積	2,982.54㎡
建築構造	鉄筋コンクリート造(小屋組一部鉄骨造)／地上1階
駐 車 場	110台
施工期間	平成7年12月21日～平成9年3月20日(建築工事)
建築設計及び設計管理	酒田市建設部建築課／(株)池原義郎・建築設計事務所
施 工	竹中工務店・フジタ・大場建設共同企業体 [建築・独立壁築造その他・外構]
	日立プラント建設・弘栄設備工業共同企業体 [機械設備・外構機械設備]
	東北電化工業(株) [電気設備・外構電気設備]
	庄内園芸緑化(株) [植栽]
美術館建設費	25億9千2百万円(用地取得・造成工事・設計及び設計管理・建築工事・設備工事・周辺整備工事・備品購入費)

各室別面積表

①市民ギャラリー	172.00㎡	⑨館長室	43.08㎡
②企画展示室	162.00㎡	⑩事務室	86.16㎡
③展示ホール	222.00㎡	⑪喫茶「モンマルトル」	116.00㎡
④常設展示室I	119.79㎡	⑫エントランス	62.98㎡
⑤常設展示室II	182.00㎡	⑬ロビー・ショップ	342.25㎡
⑥収蔵庫(彫刻)	267.00㎡	⑭来客用駐車場	86台
⑦収蔵庫(絵画)	242.60㎡	⑮管理用駐車場	24台
⑧ミーティングルーム	43.08㎡		

- ※市民ギャラリーには空調室含む
- ※収蔵庫(彫刻)は2階部分を含む
- ※収蔵庫(絵画)には前室を含む



酒田市美術館

(1) 法人設立の目的(当初財団法人設立趣意書より)

この美術館は、酒田市はじめ庄内地域全体の美術館として、近代及び現代美術作品を中心とする収集・展示や、市民の創作活動の発表の場の提供などを通じ、将来にわたり市民の芸術文化の向上に寄与することを目的とする。

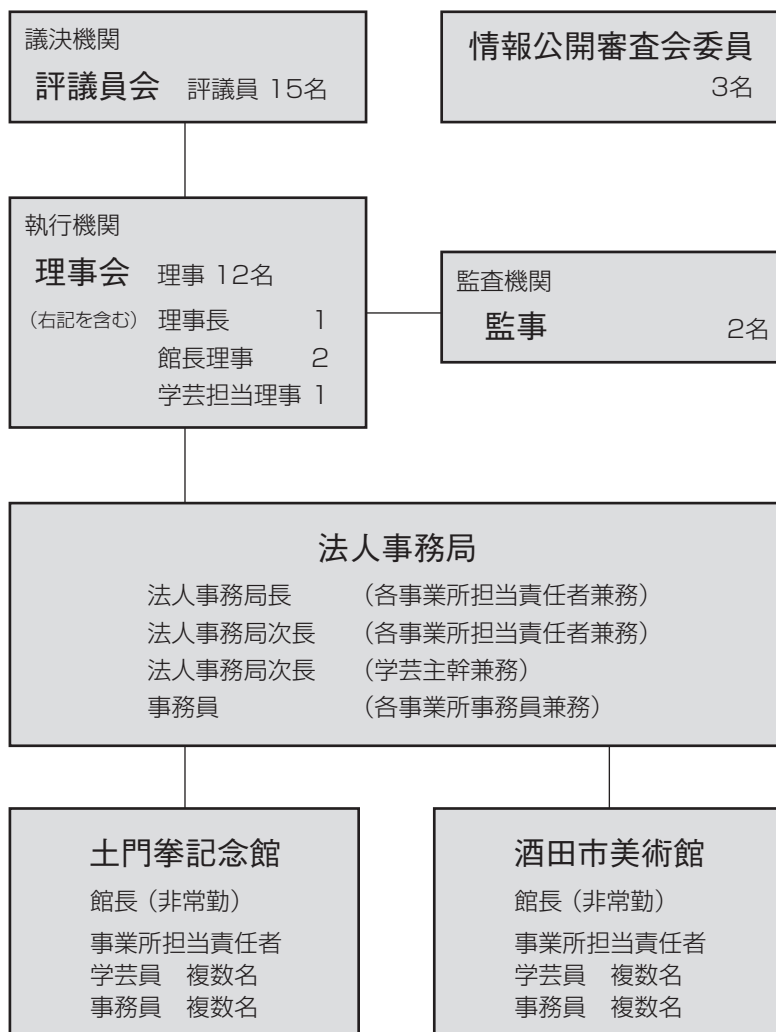
(2) 美術館の管理・運営

平成9年4月1日 管理・運営を受託

平成18年4月1日～ 現在 指定管理者として管理・運営を受託

令和 3年6月1日～ 公益財団法人土門拳記念館と統合し、公益財団法人さかた文化財団となり、新財団が指定管理者として管理・運営を受託。

(3) 公益財団法人さかた文化財団 組織図



(4) 役職員簿

理事長(代表理事)	1名
館長理事(業務執行理事)	1名
理事	12名
監事	2名
評議員	15名
情報公開審査会委員	3名
(酒田市美術館)	
事務局長	1名
学芸主幹	1名
総務主査	1名
学芸主任	1名
学芸員	1名
事務員	1名

特別企画展一覧

(平成9年度～令和3年度)

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
9-01	卒寿記念森田茂展	H9.10.3	～ H9.11.3	9,898
9-02	世界の文化遺跡を描く平山郁夫展	H9.11.8	～ H9.11.30	10,322
10-01	池田あきこ原画展	H10.3.20	～ H10.4.19	7,161
10-02	中国現代画家黄胄とその作品	H10.4.24	～ H10.5.17	4,741
10-03	ミレーとバルビゾン派の画家たち	H10.6.19	～ H10.7.20	8,471
10-04	時代を駆け抜けた、鮮烈の青春小野幸吉展	H10.8.28	～ H10.9.27	5,606
10-05	人間国宝奥山峰石金工展	H10.9.30	～ H10.11.16	3,037
10-06	第53回県美展酒田巡回展・第40回こども県展	H10.11.11	～ H10.11.16	1,492
10-07	写真家岩合光昭の「スノーモンキー」	H10.11.20	～ H10.12.20	3,568
11-01	版と炎の造形池田満寿夫と安倍安人展	H11.4.23	～ H11.5.23	5,105
11-02	女性のいる風景 ー近世ヨーロッパの絵画の流れー	H11.6.11	～ H11.7.26	6,696
11-03	全国高等学校総合文化祭	H11.7.30	～ H11.8.3	1,751
11-04	写真家青野恭典展 ーみちのく彩時季ー	H11.8.6	～ H11.8.30	4,104
11-05	ポーランドクラフ国立博物館浮世絵名品展	H11.9.3	～ H11.10.3	6,308
11-06	第54回県美展酒田巡回展・第41回こども県展	H11.11.10	～ H11.11.15	2,024
11-07	佐藤時啓のまなざし「光ー呼吸」	H11.11.19	～ H12.1.16	4,014
12-01	わくわくアニメワールド	H12.3.18	～ H12.4.16	8,906
12-02	悠久のときを超えていまよみがえる始皇帝の銅車馬展 ー中川コレクション展	H12.4.21	～ H12.5.21	7,327
12-03	自然、風景との対話松本哲男展	H12.5.26	～ H12.6.23	3,306
12-04	東京国立近代美術館所蔵近代の名作展	H12.6.28	～ H12.7.30	14,479
12-05	日本のふるさとを描く原田泰治の世界展	H12.8.3	～ H12.8.27	16,450
12-06	カナダモントリオール美術館所蔵クレマンソー・コレクションより「香合の美」展	H12.8.31	～ H12.10.10	7,813
12-07	第55回県美展酒田巡回展・第42回こども県展	H12.10.26	～ H12.10.30	2,349
12-08	20世紀の巨匠梅原龍三郎展	H12.11.3	～ H12.11.26	6,545
13-01	第45回現代書道二十人展	H13.3.16	～ H13.4.15	4,403
13-02	これでいいのだ! 赤塚不二夫展	H13.4.20	～ H13.5.20	8,236
13-03	没後10年 ー高橋剛彫刻展	H13.5.25	～ H13.7.1	4,384
13-04	高橋由一から藤島武二まで山岡コレクションを中心に日本近代洋画への道展	H13.7.6	～ H13.8.19	7,415
13-05	大正の面影と抒情を誘って中右コレクションと酒田の夢二竹久夢二展	H13.8.25	～ H13.9.30	10,347
13-06	第56回県美展酒田巡回展・第43回こども県展	H13.10.25	～ H13.10.29	2,129
13-07	農民を描き続けた沈黙の画家ー常田健展	H13.11.2	～ H13.12.2	4,803
14-01	谷内六郎の世界展 忘れ得ぬこころの風景	H14.3.21	～ H14.5.5	10,774
14-02	井上靖展 ー文学の軌跡と美へのまなざしー	H14.5.10	～ H14.6.9	5,200
14-03	つちだよしはるのくまくん美術館	H14.6.13	～ H14.6.30	8,875
14-04	砂の世界を旅した画家 ー國領経郎展	H14.7.5	～ H14.7.28	2,940
14-05	開館5周年特別企画 近代絵画の巨匠たちー印象派からエコールドパリ展	H14.8.2	～ H14.9.1	10,232

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
14-06	色彩の詩人ピエール・ルシュール展	H14.9.6	～ H14.9.29	4,440
14-07	片岡鶴太郎展 一花音色一	H14.10.11	～ H14.11.4	17,623
14-08	第57回県美展酒田巡回展・第44回こども県展	H14.11.8	～ H14.11.12	1,618
14-09	渡邊榮一銅版画・油彩画作品展	H14.11.14	～ H14.12.23	3,068
15-01	河井リツ子「とっとこハム太郎」の原画初公開ととっとこハム太郎美術館展	H15.3.21	～ H15.4.20	10,075
15-02	中島潔が描く金子みすゞ まなざし	H15.4.25	～ H15.5.25	8,785
15-03	カッセル グリム兄弟博物館所蔵 永遠のグリム童話展	H15.5.30	～ H15.7.6	6,712
15-04	華々しくメルヘンの世界へ 辻村寿三郎人形展	H15.7.11	～ H15.8.17	17,565
15-05	林功展 その人と作品	H15.8.22	～ H15.9.28	6,226
15-06	国民文化祭写真部門	H15.10.4	～ H15.10.13	3,047
15-07	第58回県美展酒田巡回展・第45回こども県展	H15.10.17	～ H15.10.21	1,947
15-09	ロバート・ハインデル展 ～舞台のダンサーに魅せられて～	H15.11.2	～ H15.12.7	5,017
15-10	アルパースのいろとかたち展	H15.12.12	～ H16.3.14	3,556
16-01	いわむらかずお 絵本の世界展	H16.3.19	～ H16.4.18	9,002
16-02	魯山人の宇宙展	H16.4.24	～ H16.5.30	10,314
16-03	ジュディ・オング 木版画の世界展	H16.6.5	～ H16.7.19	13,863
16-04	没後10年 斎藤長三展	H16.7.25	～ H16.8.15	2,735
16-05	東山魁夷展 冬の旅	H16.8.21	～ H16.9.26	12,349
16-06	傳益瑤(フイーヤオ)墨画と寺宝展	H16.10.1	～ H16.11.4	5,752
16-07	第59回県美展酒田巡回展・第46回こども県展	H16.11.10	～ H16.11.16	2,610
16-09	つちだよしはるの冬のくまくん美術館	H17.1.18	～ H17.1.30	3,775
17-01	光と影のシンフォニー 藤城清治の世界展	H17.3.19	～ H17.5.8	21,170
17-02	佐藤昌祐油絵展	H17.5.15	～ H17.6.12	4,890
17-03	オードリー・ヘップバーン展	H17.6.19	～ H17.7.31	18,600
17-04	吟遊詩想画人早川義孝展	H17.8.7	～ H17.9.11	5,262
17-05	京の四季展 ～絵画でたどる京都の美～	H17.9.17	～ H17.10.23	6,671
17-07	第60回県美展酒田巡回展・第47回こども県展	H17.11.9	～ H17.11.15	2,174
17-08	宮崎進展 ～シベリアからサンパウロまで～	H17.11.21	～ H17.12.18	2,049
18-01	つちだよしはるのくまくん美術館 ～くまくんパレへいく～	H18.3.18	～ H18.4.23	9,252
18-02	～こころの詩～ 八代亜紀絵画展	H18.4.29	～ H18.6.11	16,773
18-03	假屋崎省吾の世界展 ～語り継がれる、新たな美の歴史～	H18.6.17	～ H18.7.23	12,475
18-04	～竜宮伝説～ 伊東昭義	H18.7.29	～ H18.9.3	6,067
18-05	～ジャポニスムへの旅～ 平松礼二展	H18.9.9	～ H18.10.22	6,041
18-07	第61回県美展酒田巡回展・第48回こども県展	H18.11.8	～ H18.11.13	2,128
18-08	世界遺産写真展Ⅲ ～映像と写真でつづる、地球の記憶～	H18.11.19	～ H18.12.24	9,343
19-01	やなせたかしの世界展	H19.3.17	～ H19.5.6	13,739

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
19-03	故郷からのおくりもの ～高橋まゆみ創作人形展～	H19.5.12	～ H19.6.17	25,642
19-04	アーミッシュの世界 松下麻里・菅原千代志・菅原真理子展	H19.6.23	～ H19.7.16	6,138
19-05	新田嘉一コレクション展 ～美に魅せられ、美と生きる～	H19.7.22	～ H19.8.20	10,873
19-06	相田みつを全貌展 ～相田みつを美術館開館10周年記念～	H19.8.26	～ H19.9.26	18,010
19-07	生誕100年 森田茂展 ～酒田市美術館開館10周年記念～	H19.10.3	～ H19.10.23	2,635
19-09	第62回県美展酒田巡回展・第49回こども県展	H19.11.7	～ H19.11.12	2,250
20-01	池田あきこ原画展「ダヤンのおいしいゆめ」から20年	H20.3.15	～ H20.5.6	9,403
20-02	柳澤紀子 永遠の瞬間 越境する身体	H20.5.11	～ H20.6.8	2,828
20-03	～池田理代子～ 永遠のベルサイユのばら展	H20.6.14	～ H20.7.21	8,482
20-04	娘とその父 工藤静香展	H20.7.27	～ H20.9.7	14,763
20-05	～巨匠も描いた! クレパスっておもしろい!～ クレパス画名作展	H20.9.13	～ H20.10.22	4,543
20-07	第63回県美展酒田巡回展・第50回こども県展	H20.11.5	～ H20.11.10	2,174
20-08	小磯良平 聖書装画展	H20.11.16	～ H20.12.25	2,898
21-01	旭山動物園の物語 あべ弘士絵本原画展 動物たちが集まった!	H21.3.20	～ H21.4.19	4,142
21-02	ベストオブ世界遺産展	H21.4.25	～ H21.6.7	8,875
21-03	故郷からのおくりもの ふたたび 高橋まゆみ創作人形展	H21.6.14	～ H21.7.26	20,593
21-04	パリを愛した画家たち展	H21.8.2	～ H21.9.13	9,373
21-05	染色家 芹沢銈介の世界展	H21.9.19	～ H21.10.20	4,589
21-07	第64回県美展酒田巡回展・第51回こども県展	H21.11.13	～ H21.11.18	1,653
21-08	キャシーズキルトワールド展	H21.11.23	～ H21.12.25	10,266
21-09	新田嘉一コレクション 陶芸作品展	H22.2.3	～ H22.2.28	2,059
22-01	市原基写真展「ヒマラヤ水系」	H22.3.20	～ H22.4.23	3,247
22-02	きりえの魅力 滝平二郎遺作展	H22.4.29	～ H22.6.13	8,263
22-03	近くて懐かしい昭和展	H22.6.19	～ H22.7.25	9,448
22-04	戦没画学生遺作「無言館」祈りの絵展	H22.7.31	～ H22.9.9	5,044
22-05	榎木孝明 水彩紀行展 一景色は私の心の窓	H22.9.15	～ H22.10.24	7,599
22-07	第65回県美展酒田巡回展・第52回こども県展	H22.11.10	～ H22.11.15	2,043
22-08	ちばてつや漫画原画展	H22.11.21	～ H22.12.23	3,468
22-09	一酒田市寄贈記念一 洋画家 真下慶治展	H23.1.22	～ H23.2.20	2,174
23-01	ハイチの素朴な絵画展	H23.4.1	～ H23.4.25	2,478
23-02	片岡鶴太郎展 艶葉樹 ～つやばき～	H23.5.1	～ H23.6.12	12,350
23-03	葦崎大森美術館所蔵 女流画家の世界展	H23.6.18	～ H23.7.24	4,505
23-05	佐川美術館所蔵 平山郁夫展 ～大唐西域画への道～	H23.7.30	～ H23.9.19	10,479
23-06	安部朱美 創作人形展「昭和の家族」きずな	H23.9.25	～ H23.10.25	9,709
23-08	第66回県美展酒田巡回展・第53回こども県展	H23.11.9	～ H23.11.14	2,009
24-01	江成常夫写真展「昭和史のかたち」	H24.3.18	～ H24.4.22	2,075

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
24-02	細密画家 熊田千佳慕展	H24.4.28	～ H24.6.3	5,769
24-03	美しく生きる 中原淳一展	H24.6.9	～ H24.7.22	5,919
24-04	PLAY THE GLASS 増田洋美 ガラスの世界展	H24.8.1	～ H24.9.2	6,481
24-05	孤高の旅人 堀 文子展	H24.9.9	～ H24.10.23	7,195
24-07	第67回県美展酒田巡回展・第54回こども県展	H24.11.7	～ H24.11.12	1,981
24-08	岩合光昭 どうぶつ写真展 地球の宝石×B.T.グリーヴ/文	H24.11.18	～ H25.1.31	6,628
24-09	國領経郎展	H25.2.6	～ H25.3.10	3,003
25-01	ハローキティアート展	H25.3.16	～ H25.4.22	11,331
25-02	一人形・動物・革絵 一本池秀夫 革の世界展	H25.4.27	～ H25.6.2	6,517
25-03	ともに生きる NHKハート展	H25.6.8	～ H25.7.15	8,137
25-04	あべとしゆき水彩画展(市民ギャラリー)	H25.6.12	～ H25.7.15	7,564
25-05	ルーヴル美術館の銅版画展 カルコグラフィコレクション	H25.7.21	～ H25.9.1	5,618
25-06	画家たちの自画像展 ー日本洋画の近代から現代までー	H25.9.7	～ H25.10.21	3,669
25-08	第68回県美展酒田巡回展・第55回こども県展	H25.11.6	～ H25.11.11	2,005
26-01	アトリエの巨匠100人 南川三治郎写真展	H26.3.15	～ H26.4.14	1,883
26-02	安野光雅「旅の絵本」の世界展 ～風景と街並に隠されたユーモア～	H26.4.20	～ H26.6.1	5,107
26-03	放浪の天才画家 山下清展	H26.6.7	～ H26.7.21	10,749
26-04	文化人・芸能人の多才な美術展2014	H26.7.27	～ H26.9.7	6,329
26-05	メキシコの大地生命への賛歌 竹田鎮三郎展	H26.9.13	～ H26.10.19	2,707
26-07	第69回県美展酒田巡回展・第56回こども県展	H26.11.5	～ H26.11.10	1,761
26-08	大滝博子創作人形の世界展 ～作者の言葉と書で綴る～	H26.11.16	～ H26.12.21	5,844
27-01	時空を超えて遊ぶ 川岸富士男の世界展 ～椿と四季の草花譜～	H27.3.15	～ H27.4.19	4,424
27-02	有元利夫展 ー天空の音楽ー	H27.4.25	～ H27.5.31	3,308
27-04	くまのプーさん展	H27.6.6	～ H27.7.12	15,002
27-05	ダンボール遊園地	H27.7.18	～ H27.9.6	18,359
27-06	挑戦する現代ガラス '15日本のガラス展	H27.9.12	～ H27.10.18	5,924
27-08	第70回県美展酒田巡回展・第57回こども県展	H27.11.4	～ H27.11.9	1,580
27-09	池田修三木版画展 ～センチメンタル・メルヘンの世界～	H27.11.15	～ H27.12.23	3,315
27-10	早川俊二の世界 遥かな風景への旅	H28.1.5	～ H28.1.26	1,143
27-14	青野恭典追悼展	H28.3.1	～ H28.3.10	248
28-01	宮竹真澄・心のふる里人形展	H28.3.19	～ H28.4.17	5,668
28-02	～夢見る色彩の詩人～ マリーローランサン展	H28.4.23	～ H28.6.12	5,607
28-03	今にも動き出しそうな動物たち 中山みどりフェルトアート展	H28.6.18	～ H28.7.24	11,221
28-05	佐藤真生の世界展「間(Ma)」	H28.7.30	～ H28.9.4	4,615
28-06	鉄道写真家中井精也写真展 1日1鉄!	H28.9.10	～ H28.10.23	5,575
28-08	第71回県美展酒田巡回展・第58回こども県展	H28.11.9	～ H28.11.14	1,600

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
28-09	マイメロディ♡キキ&ララ☆展	H28.11.19	～ H28.12.23	8,223
29-01	酒田市美術館収蔵品展～生誕110年森田茂と新田嘉一コレクション～	H29.3.18	～ H29.4.16	1,775
29-02	アルフォンス・ミュシャ展	H29.4.22	～ H29.5.28	10,002
29-03	昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へ	H29.6.3	～ H29.7.9	2,208
29-04	ダンボール遊園地 しんかいせいぶつたんけんたい	H29.7.15	～ H29.8.27	17,235
29-05	リマスターアートによる 19世紀のパリ、色彩の時代展	H29.9.2	～ H29.10.9	4,539
29-07	第72回県美展酒田巡回展・第59回こども県展	H29.11.8	～ H29.11.13	1,513
29-08	興福寺の柱絵と畠中光享展	H29.11.18	～ H29.12.24	2,661
30-01	どうぶつたちの棲む森 はしもとみお木彫りの世界展	H30.3.17	～ H30.4.22	8,405
30-02	培広庵コレクション 華麗なる美人画展	H30.4.28	～ H30.5.27	4,377
30-03	女性像にみるフォルム/現実/夢 描かれた女たち展	H30.6.2	～ H30.7.16	3,067
30-04	写真家たちの世界遺産展	H30.7.21	～ H30.9.2	4,969
30-05	リ・クリエイイトでよみがえるフェルメール・光の王国展	H30.9.8	～ H30.10.14	9,288
30-07	第73回県美展酒田巡回展・第60回記念こども県展	H30.11.7	～ H30.11.12	1,733
31-01	ねこ写真家 関由香写真展 ねこうらら	H31.3.16	～ H31.4.14	5,099
31-02	ピートルクス・ポター生誕150周年記念 ピーターラビットの世界展	H31.4.20	～ R1.5.26	7,767
31-03	ホキ美術館名品展～心ゆさぶる写真絵画～	R1.6.1	～ R1.7.15	7,606
31-04	遊びどころの「かたち」展	R1.7.21	～ R1.9.1	5,702
31-05	キルトに魅せられて展	R1.9.7	～ R1.10.20	5,403
31-07	第74回県美展酒田巡回展・第61回こども県展	R1.11.6	～ R1.11.11	2,002
2-01	生誕100年 國領経郎展 ―静寂なる砂の景―	R2.3.7	～ R2.4.7	1,669
2-03	高砂淳二写真展 ―Dear Earth―	R2.7.18	～ R2.8.30	5,191
2-04	二つの東海道五拾三次 歌川広重展	R2.9.5	～ R2.10.18	4,432
2-05	オードリー・ヘプバーン写真展	R2.11.28	～ R3.1.22	4,378
2-06	いわさきちひろ ピエゾグラフ展	R3.1.30	～ R3.3.14	5,002
3-01	アンティークドールの夢展 ～児玉幸雄コレクション～	R3.3.20	～ R3.5.16	2,655
3-02	酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展	R3.5.22	～ R3.7.9	4,061
3-03	つくる展 ―TASKOファクトリーのひらめきをかたちへ―	R3.7.17	～ R3.8.29	13,206
3-04	魔女がやってきた 角野栄子展	R3.9.4	～ R3.10.17	5,470
3-05	第76回県美展酒田巡回展・第63回こども県展	R3.11.10	～ R3.11.15	1,701
3-06	令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス―画家たちの交差点―	R3.11.20	～ R4.1.10	2,105

年度別入館状況*

(平成9年度～令和3年度)

(人)

区分	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
展覧	一般	19,409	20,529	15,835	23,865	15,010	19,523	15,798	15,525	14,060	15,406	25,740	12,379
	大学生・高校生	533	1,247	648	983	912	1,154	805	633	916	645	746	745
	中学生・小学生	1,289	1,957	1,251	2,514	1,454	1,822	2,164	1,904	2,091	1,741	1,541	1,205
会	会員券招待・視察等	8,814	21,701	24,744	43,256	33,881	48,676	43,878	43,941	46,774	48,801	57,058	32,508
観覧者数 小計		30,045	45,434	42,478	70,618	51,257	71,175	62,645	62,003	63,841	66,593	85,085	46,837
市民ギャラリー入場者数		6,182	24,375	14,337	35,418	20,093	17,715	24,221	17,859	12,435	15,859	9,011	12,891
喫茶利用者数		11,301	20,201	15,943	22,034	15,129	17,845	16,247	15,840	14,294	13,581	15,165	9,883
入館者数 計		47,528	90,010	72,758	128,070	86,479	106,735	103,113	95,702	90,570	96,033	109,261	69,611

(人)

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年	令和2年	
展覧	一般	21,413	10,308	13,841	12,603	8,197	12,022	17,710	14,265	16,206	12,826	12,163	8,725
	大学生・高校生	667	374	377	611	338	451	688	522	518	444	454	159
	中学生・小学生	896	743	650	1,819	1,195	1,140	6,049	2,557	4,560	1,354	1,924	621
会	会員券招待・視察等	40,117	30,351	31,431	29,926	37,522	26,224	34,733	27,528	24,269	21,195	21,404	11,346
観覧者数 小計		63,093	41,776	46,299	44,959	47,252	39,837	59,180	44,872	45,553	35,819	35,945	20,851
市民ギャラリー入場者数		12,610	8,744	11,483	7,883	9,241	7,873	10,447	7,177	8,648	5,955	7,150	5,682
喫茶利用者数		12,051	7,866	9,019	8,490	7,206	7,270	6,053	5,158	4,658	4,987	6,101	4,432
入館者数 計		87,754	58,386	66,801	61,332	63,699	54,980	75,680	57,207	58,859	46,761	49,196	30,965

(人)

区分	令和3年	開館以来累計	
展覧	一般	11,609	384,967
	大学生・高校生	236	15,806
	中学生・小学生	3,820	48,261
会	会員券招待・視察等	15,264	805,342
観覧者数 小計		30,929	1,254,376
市民ギャラリー入場者数		6,690	319,979
喫茶利用者数		5,134	275,888
入館者数 計		42,753	1,850,243

※4月1日～3月31日



利用案内

■開館案内

午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

■休館日

4月～11月／無休

12月～3月／月曜日休館(祝日の場合は翌日)

年末年始休館／12月29日～1月3日

※但し、年間を通じて展示替等による休館あり

■観覧料

区 分	一般展		特別展	年間券(1年間有効)		
	個 人	団 体		3名まで 3,300円	10名まで 16,500円	
一 般	700円	560円	展覧会によって 異なります。			
高 校 生	350円	280円				
中 小 生	無料	無料				

※料金の一般に、大学・専門学生も含まれます。

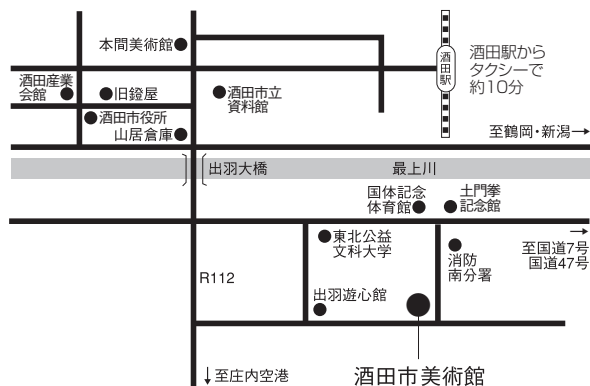
■市民ギャラリー使用料

区 分	全 面	半 面
全 日	5,500円	2,750円
半 日	2,750円	1,370円

※酒田市外の団体、個人は倍額とします。受付は6ヶ月前より。

※冬期間(12月～3月)は半額となります。

■案内図



[交通のご案内]

- ◆JR東日本酒田駅／るんるんバス 20分 タクシー 約10分
- ◆庄内空港／タクシー 約20分
- ◇駐車場 美術館無料駐車場有(110台収容)

酒田市美術館年報

[令和2年度—令和3年度]



令和5年3月

編集・発行 酒田市美術館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山三丁目17-95

TEL 0234-31-0095

FAX 0234-31-0094

<http://www.sakata-art-museum.jp>

印刷所 株式会社小松写真印刷

